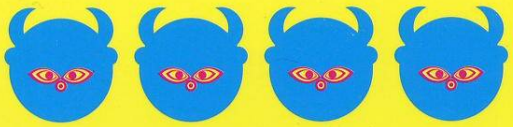
LSD

Lovely Sweet Dream ラブリー・スイート・ドリーム

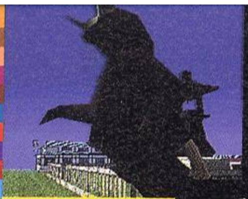


LSD

Lovely Sweet Dream ラブリー・スイート・ドリーム

LSD

Lovely Sweet Dream ラブリー・スイート・ドリーム



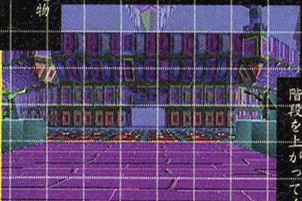
LSD

濡れた老人と洗面器

外の狭い物干し台に、
小太りの老人が立っている。
雨がひどく降っている。
老人を椅子に座らせ、
泥だらけの裸足の足を拭き、
女の子が水を入れた
洗面器を持ってくるように
云い付ける。
その洗面器の乳白色が
いやに目に付く。

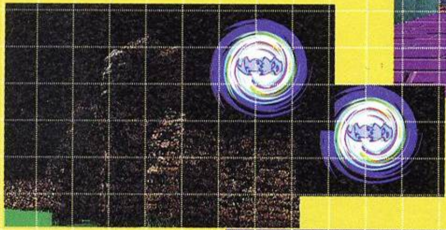
温泉旅館とフィルム見物

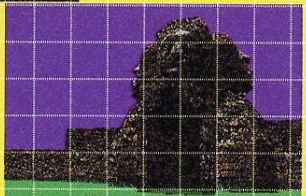
古い温泉旅館に来た。
大勢の人々がそこへ集い、
何かのフィルムを見ている。
これは義務である。
私もその人々の中に混じり、
大広間に映しだされる
フィルムを見ている。
同級生の陽子ちゃんが、
「うしろに金髪の人がいる」
と私に耳打ちする。



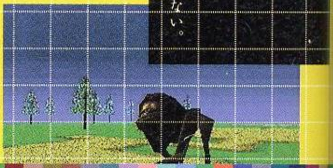
次なる王

たくさんの人々が並んでいる。
私は階段の上から
その光景を見ている。
黒い羽飾りを
裸の身体に着けた人が、
人々の列の中を進んでくる。
この前死んだ人に替わって、
次なる王となる人だ。
静かに進み、
階段を上がってくる。





剥がした下には
赤ちゃんみたいな
瑞々しい皮膚が
生まれている。
頬の皮膚も
剥がそうとするが
ここは上手く剥がれない。



猫を預かる

預かっていた猫が
三階の部屋に帰っていった。
すると、何者かが
猫を透明にしてしまった。
少し残った身体が、
薄い半月のように
残って見えるだけだ。

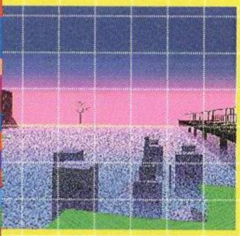
女の子の背中

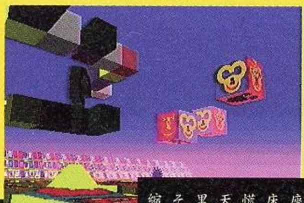
銀行の玄関先に屋根のある
八畳程のスペースがある。
そこに布団を敷いて
私は眠っている。
背中にパウダーを付けた
小さな裸の女の子が、
背をこちらに向け、
外の光を受けている。
背骨や健康骨が
くっきりと浮かんでいる。

in Laughter, the Spiritual Dream.

LSD

in Lunacy, the Savage Dream.





赤いホテル

ホテル中が赤く塗られてる。
正面にロビイ、
左手に客室へと続く廊下。
また廊下の天井の梁には、
定規が取り付けられている。
定規も赤く塗られており、
その目盛りが
部屋ごとに付いて
子供の名前を載せて
定規の上を走る。

雨の降る部屋

雨の音が激し
部屋の中の の下から
雨が降ってお
座卓を濡らして
床下へ流れている。
慌てるがどうしようもない。
天井の方に
黒い空間があるようだ。
そのうち部屋全体が
縮まってきた気がしてきた。

in Leisure, the Sonorous Dream.

落下した少年

少年の乗った車が走る。
斜面に向かって、落下。
私はそれを見ていた。
先程の少年は
酷たらしく血を流して
死んでいる。
不思議に怖いとは
思わなかった。
日常の景色を見るように、
自然にその惨状を見ていた。

LSD

LSD

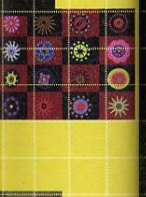
DREAM EMULATOR

二日後に
死んでしまうことに
決まった。
これは運命だ。
死ぬ日は二十六日。
今から止めたいと思っても、

in Li

LSD

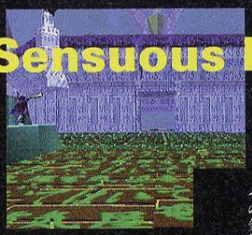
濡れた老人と洗面器



新や頸の皮膚が
ずるりと剥がれ、
剥がした下には
赤ちゃんみたいな
瑞々しい皮膚が
生まれている。

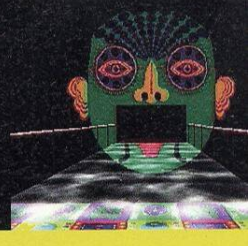
in Life, the Sensuous Dream.

LSD



追われる

誰かに追われている。
それは組織のようなものだ。
そこの小さな服店には
今は引退した師がいて、
追われている。
かくまっている。
しかし、私はこれからも
敵に追われるのだ。



蛙を捕まえる

通りは深い川になっている
向のあたりまで永がくる。
小さな蛙を見付けた私は、
その蛙を捕まえようとする。
蛙のやわらかい身体を
握り締めたが、
その気持ち悪い感覚に驚く。

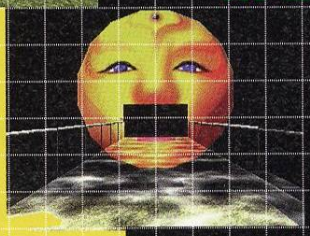
鯨の尾鰭の行進

鯨が子供を生むために
川を上っていく、
というニュースが
街を賑わせている。
黒い大きな尾鰭は
とても立派なもので、
その姿だけからでも
とてつもない大きさの
鯨たちが一斉に上流目指して
進んでいると思われる。

私の死ぬ日

私はあと二、三日後に
死んでしまうことに
決まった。
これは運命だ。
死ぬ日は二十六日。
今から止めたいと思っても、
もう駄目だ。

in Logic, the Symbolic Dream.



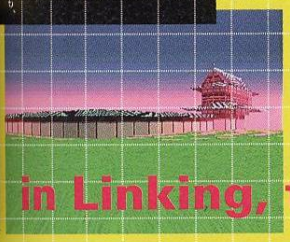
彼は「希望」

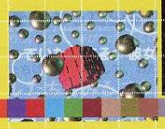
山門を待っていた
「あ」と「うん」の前に、
赤鬼が居座る。
二人の間から「たろう」
という男の子が生まれた。
彼は赤鬼のすぐ側で、
山門の前に渦巻く
時間の流れに
飛び込んで逃げた。
彼は「希望」だ

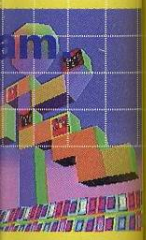
有名人に

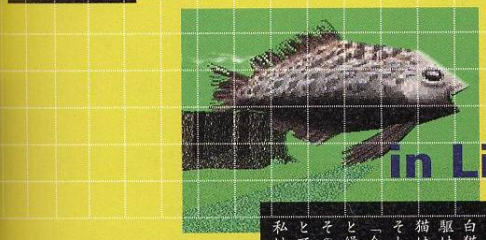
有名人に
歌を唄う
その中の
有名人に
図書館の
一枚の
待っている。
座るといなり、
「○○の歌の意味は？」
と聞かれ
どーでもいいじゃないか。

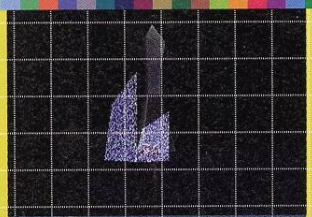
in Linking, the Sapient Dream.

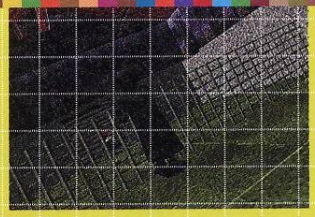












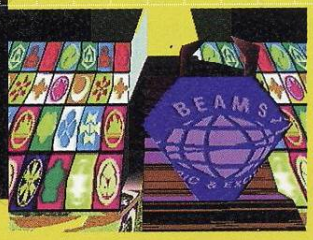
LSD

LSD

in Limbo, the Silent Dream.

むにゅむにゅとしたもの

顔中が吹出物だらけ。
鼻のてっぺんからも、
分子構造モデルのような形の
むにゅむにゅが出てきた。
とても気持ち悪い。
洗面所の窓へ捨てにいく。
外に出して窓をしめ、
むにゅむにゅが
どこへ飛んでいくのか、
しばらく見ていた。



猫の声

物干しのところに
白猫がうずくまっている。
駆け寄ると、
猫は弱々しく哀しげな、
そして機械のような声で、
「会えてよかった。」
と繰り返して云うのだ。
その初めて聞いた猫の声が
とても哀れで、
私は胸が一杯になる。

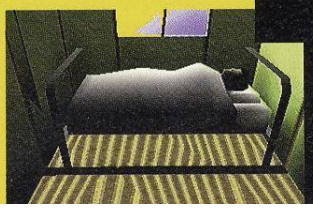
顔中が吹出物だらけ。
鼻のてっぺんからも、
分子構造モデルのような形の
むにゅむにゅが出てきた。
とても気持ち悪い。
洗面所の窓へ捨てにいく。
外に出して窓をしめ、
むにゅむにゅが
どこへ飛んでいくのか、
しばらく見ていた。

LSD

私の手を握る

そして車は、
老木の中をくりぬいたような
一軒の家へ着く。
亡くなったひいおばあちゃん
が出てきて、
「よく来てくれたねえ」
と云って、
私の手を握った。

前に、下着店がある。
段ボールに山積みにされ
下着たちは、
「綿のパンツ五枚で五百円」
店の横にまわると、
段ボールには
ドーベルマンのように
大きな猫が入って
売られている。



LSD

10年間に渡って書き留められた夢日記。この夢日記のアイデアをベースにして、ゲーム『LSD』が生まれました。そして今度は、10年分の夢の断片と80組のアーティストのコラボレーションとして1冊の本が生まれました。

ゲーム『LSD』とはまた異なる夢の世界、それが『LOVELY SWEET DREAM』です。

This is a diary of ten years' worth of dreams. From this dream diary, the game "LSD" was born. Now, following its birth, from these dream fragments and the collaboration of 80 artistic units, this book was born. A dream world apart from the game "LSD"; this is "LOVELY SWEET DREAM."

Lovel

夢日記

西川公

Lovely Sweet Dream ラブリー・スイート・ドリーム

夢日記 Dream Diary

西川公子 Hiroko Nishikawa

画　Artwork

タケヤマノリヤ　Noriya Takeyama
辻和子　Kazuko Tsuji
Hexstatic
本秀康　Hideyasu Moto
白根ゆたんぽ　Yutanpo Shirane
マー関口　Mar Sekiguchi
Zac Sandler
グルーヴィジョンズ　groovisions
ELECTRIC
マニアッカーズデザイン　Maniackers Design
田仲容子　Yoko Tanaka
坂本龍一　Ryuichi Sakamoto
飯塚昇　Noboru Iizuka
佐藤理　Osamu Sato
水野健一郎　Kenichiro Mizuno
ナガオカケンメイ　Kenmei Nagaoka
サダヒロカズノリ　Kazunori Sadahiro
竹内オサム　Osamu Takeuchi
上野"アモーレ"宏介 Hirosuke "AMORE" Ueno
マディ上原　Muddy Uehara
トレスアミーゴス　Tres Amigos
Delaware
本田佳世　Kayo Honda
藤本康生　Yasuo Fujimoto
モンキー王国　Monkey Kingdom
テリー・ジョンスン　Terry Johnson
都築潤　Jun Tsuzuki
大喜多麒人　Kirito Ookita
東泉一郎　Ichiro Higashiizumi
菊池きみえ　Kimie Kikuchi
宗誠二郎　Seijiro So
山本タカト　Takato Yamamoto
高野寛　Hiroshi Takano
スージー甘金　Suzy Amakane
ヒロ杉山　Hiro Sugiyama
Andrew Boerger
中村幸子　Sachiko Nakamura
後藤宏　Hiroshi Goto
萩谷海　Umi Hagitani
松下計　Kei Matsushita

TGB DESIGN
いしいしんじ　Shinji Ishii
本宮かをる　Kaoru Motomiya
a.z.b.
マッハ55号　Mach55Go!
千原航　Ko Chihara
榊和也　Kazuya Sakaki
KEN ISHII
南新太郎　Shintaro Minami
ソリマチアキラ　Akira Sorimachi
所幸則　Yukinori Tokoro
太公良　Kimiyoshi Futori
常盤響　Hibiki Tokiwa
打越俊明(錦瓊)　Toshiaki Uchikoshi(King Cay Lab.)
深津真也　Shinya Fukatsu
中ザワヒデキ　Hideki Nakazawa
谷田一郎　Ichiro Tanida
GTO
ロボットメガストア　Robot Megastore
加藤賢宗　Kenso Kato
ソエジマケイタ　Keita Soejima
Andrew Sutton
鳥屋尾悟郎　Goro Toyao
児玉鉄兵　Teppei Kodama
伊藤桂司　Keiji Ito
能登伸治　Shinji Noto
山田博之　Hiroyuki Yamada
Y Hayami(ACROBAT pro)
成田忍　Shinobu Narita
Hirobumi Yano
GESCOM
飯田和敏　Kazutoshi Iida
ドルバッキー・ヨウコ　d'Holbachie-yoko
Nendo Graphixxx
Pete Fowler
AGES 5&UP
Joerg Schaum
石津タカシ　Takashi Ishizu
Kazuko Otsuka
とみぞうちゃん　Tomizo-chan

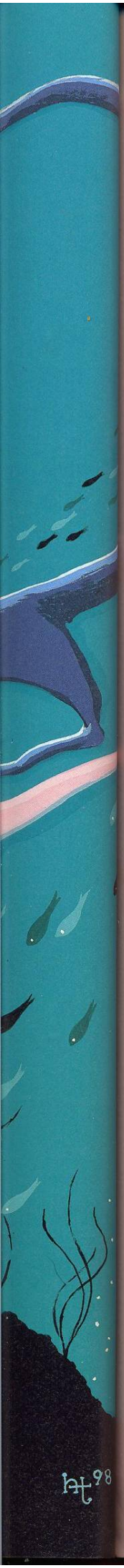
1987年
地球の

頭痛の中で
でいる。高
ないらしい
と静かに泳

Saturd
"The D

I'm dream
at the bot
at the bot
can see th
of huge fi
familiar

画　タケヤ
Artwork



1987年4月21日(火)
地球の底

頭痛の中で夢を見た。澱んだ川の底、恐竜のように巨大な魚や巨大烏賊が泳いでいる。高い所から地球の底を眺めているみたいだ。まわりの人たちには見えないらしい。たくさんの巨大な魚がひしめきあいながら、それでいてゆっくりと静かに泳いでいる。怖くて、懐かしい情景だった。

Saturday, April 21, 1987
"The Depths of the Earth"

I'm dreaming in a headache. Gigantic fish and manta rays are swimming at the bottom of a stagnant river. It feels as if I am looking down at the bottom of the Earth from high up above. No one else around can see these things. Jostling against each other, the thousands of huge fish are swimming gracefully. It's a scary, yet somewhat familiar scene.

画　タケヤマノリヤ
Artwork by Noriya Takeyama

1988
明月荘
葡萄酒

エレベー
ー形式の
萄酒をく
葡萄酒を
に、ここ
れた窓か
自分らし

Frida
"Meig
Cond
Wine

The ele
off on
cafe. T
asked
rule in
I'm bac
yet I'm
apartm
of the
assum

画　辻
Artwo

1988年1月1日(金)
明月荘が大きな鉄筋アパートになっていた、そして葡萄酒を盗み飲みする

エレベータは、旧式の鉄柵の扉。3階で降りる。3階はエントランスがカウンター形式の古びたカフェ。男の子が葡萄酒とソーセージを食べている。私にも葡萄酒をくれというと、無料でくれた。ここではうまく料理長の目をごまかして、葡萄酒を盗み飲みする慣わし。またもやエレベータで上がる。明月荘にいるのに、ここからは明月荘の自分の部屋が眺められる。市松模様の床が、開け放たれた窓から見える。中にいる人が電話を取っているのも見える。どうもあれは自分らしい。

Friday, January 1, 1988
"Meigetsu-So Apartment Became a Big Reinforced Concrete Building, and I'm Stealing Some Wine."

The elevator has an old fashioned door made of iron grate. I get off on the third floor. The entrance hall is an old counter-style cafe. There is a boy drinking some wine and eating sausages. I asked him for a glass of wine and he gave it to me for free. The rule in this place is to deceive the head chef and cheat on the wine. I'm back in the elevator going up. I'm inside the Meigetsu-So apartment, yet I'm enjoying a nice view of my own room in the Meigetsu-So apartment. I can see my checkered floor through the open window of the room. I can also see a person picking up the phone, who I'm assuming is myself.

画　辻和子
Artwork by Kazuko Tsuji

Artwork

1988年
目覚ま

目覚まし時
の中に入れ
っていくが
て乾電池を
いる。床に
りじりじり
る。

Wedn
"The

My alarm
of the na
in the clo
I take it to
I open up
won't st
to pieces
face suc
ringing
to do.

Artwork by Hexstatic

1988年1月6日（水）
目覚まし時計が鳴っていた

目覚まし時計を止めたのに鳴り止まない。押入の布団の下に入れても、こたつの中に入れても、座布団も駄目だ。じりじりじりじり。うるさい。隣の家に持っていくが、そこもまた同じ自分の家だった。じりじりじりじり。時計を開けて乾電池を取り出すが、まだ鳴っている。部品を外して分解してもまだ鳴っている。床に叩きつけて壊そうかと思って、ふと、お母さんの顔がよぎった。じりじりじりじり。どうしたらいいのか。鳴り止まない時計を持って途方に暮れる。

Wednesday, January 6, 1988
"The Alarm Clock Keeps Ringing"

My alarm clock keeps ringing even after I stop it. I can't get rid of the nasty noise, no matter where I put it: underneath the futon in the closet, in the kotatsu, or underneath the cushion. RRRRRRRR..!!! I take it to the house next to mine, but it is my house again. RRRRRRRR..!!! I open up the cover of the clock and yank out its battery, but it still won't stop ringing. It keeps ringing even after being all taken to pieces. I think about smashing it against the floor, and my Mom's face suddenly pops up in my mind. RRRRRRRR..!!! Holding the ringing clock in my hand, I'm feeling lost without knowing what to do.

1988年
知って

どこだろ
ている。
段大きく、
ように空

Tues
"A Wo

Where i
dark, fo
that I've
much bi
immens
depths

画　本秀
Artwork

1988年1月12日(火)
知っている世界

どこだろう。神社の境内のようだ。暗くて深い森のような所。ぐるぐると歩いている。1度行ったことのある場所みたいな気がする。寺や塔が普通よりも数段大きく、まるで大きい世界に迷い込んだみたいだ。すごく暗く、地底の底のように空が無い。でもとにかく、ここは知っている世界だ。

Tuesday, January 12, 1988
"A World I Know"

Where is this? It looks like the grounds of a shrine. Like a deep, dark, forest. I'm wandering around. I can't get over the feeling that I've been to this place before. The temple and the tower look much bigger than usual, and I feel as if I were lost in a world of immensity. It's very dark with no sky up above, like being in the depths of the Earth. Anyway, it's a world I know.

画　本秀康
Artwork by Hideyasu Moto

1988

鰻屋

鰻をご駅
遠い。そ
したよう

Satu
"An

I'm lo
treat r
statio
I'm th
stand

画　白
Artwo

1988年1月23日(土)
鰻屋

鰻をご馳走してくれるというので、鰻屋を探す。美味しい店は駅からずいぶん遠い。それで駅前の鰻屋に入ることにした。立ち食い鰻屋だった。なんだか損したようだ。

Saturday, January 23, 1988
"An Eel Restaurant"

I'm looking for a nice eel restaurant, as my friend promised to treat me to an eel dish. Good restaurants are very far from the station, so we decide to try the one right in front of the station. I'm thinking it wasn't such a good deal because it's just an eel stand.

画　白根ゆたんぽ
Artwork by Yutanpo Shirane

1988
赤ち

久しぶり
顔にな
驚いて

Sun
"Jus

It's be
into hi
All I ca

画　マー
Artwo

赤郎

1988年2月7日(日)

赤ちゃんだけれど顔は大人

久しぶりに倉嶋さんちの赤ちゃんを見る。顔を覗き込んだら、すっかり大人の顔になっている。でも体は赤ちゃんのまま。「ずいぶん大きくなったね。」と驚いていた。

Sunday, February 7, 1988

"Just a Baby, But His Face is Grown-Up"

It's been a while since I last saw the Kurushimas' baby. I'm looking into his face and it's all grown up. But the rest of him is still a baby. All I can say is, "My, how much you've grown."

画 マー関口

Artwork by Mar Sekiguchi

1988

逆さ女

荒れた海
か、力を
のをずっ

Thur
"An U

An angry
to a tre
have?
to com

Artwor

1988年2月11日(木)

逆さ女

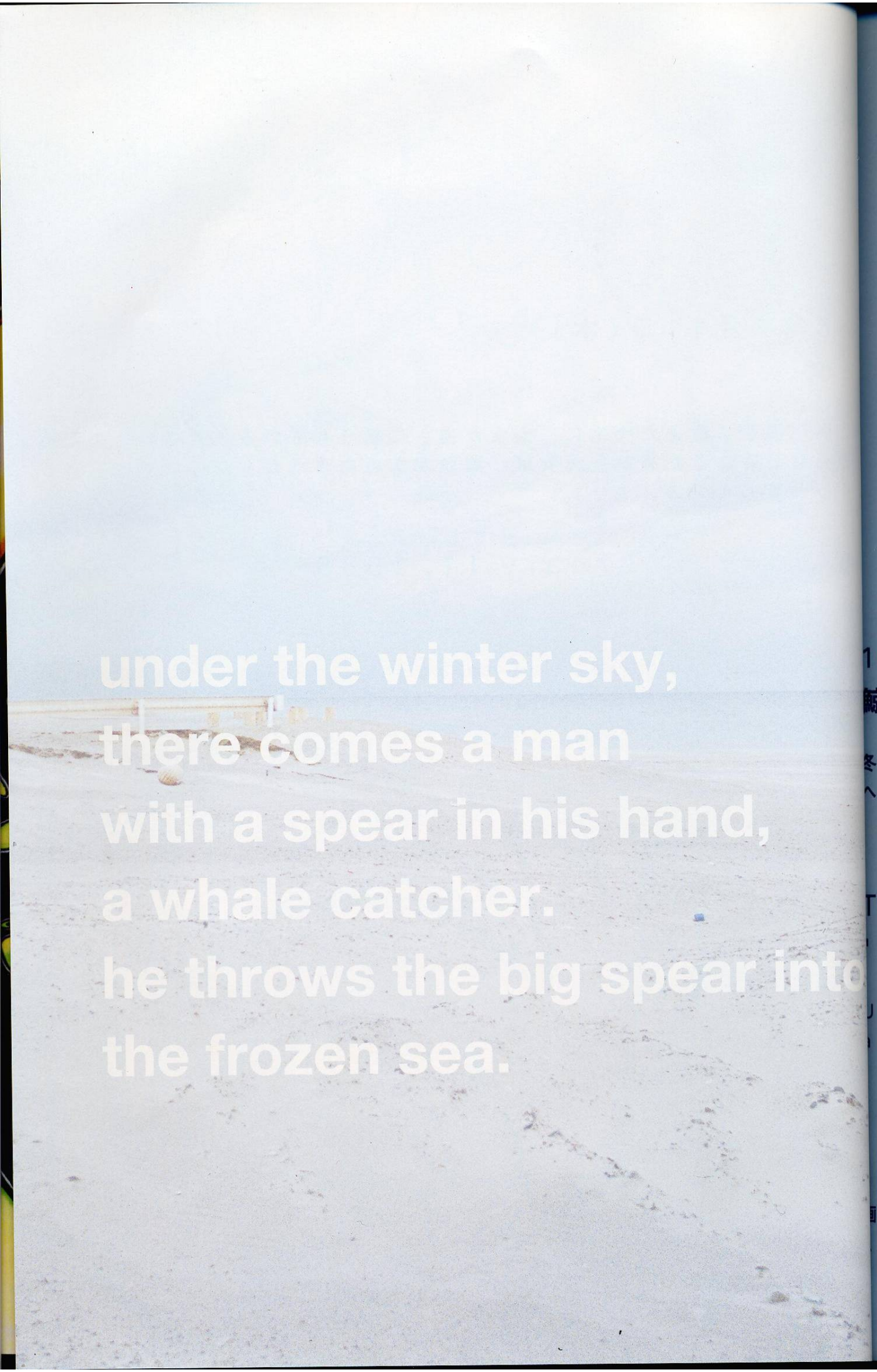
荒れた海。海辺に生えた大木に、大女が逆さに縛られている。見せしめのためか、力を封じこめるためか。大女は、誰かが海の向こうから助けにやって来るのをずっと待っている。

Thursday, February 11, 1988

"An Upside-Down Woman"

An angry sea. On a big tree by the sea, a giant woman is tied upside-down to a tree. Maybe as a warning, or to contain some power she may have? The woman gazes at the far end of the sea, waiting for help to come.

Artwork by Zac Sandler



1988年
鯨を獲る

冬の空。槍を
へ、大きな

Thursd
"A Wha

Under the
a whale ca

画 グルーヴィ
artwork b

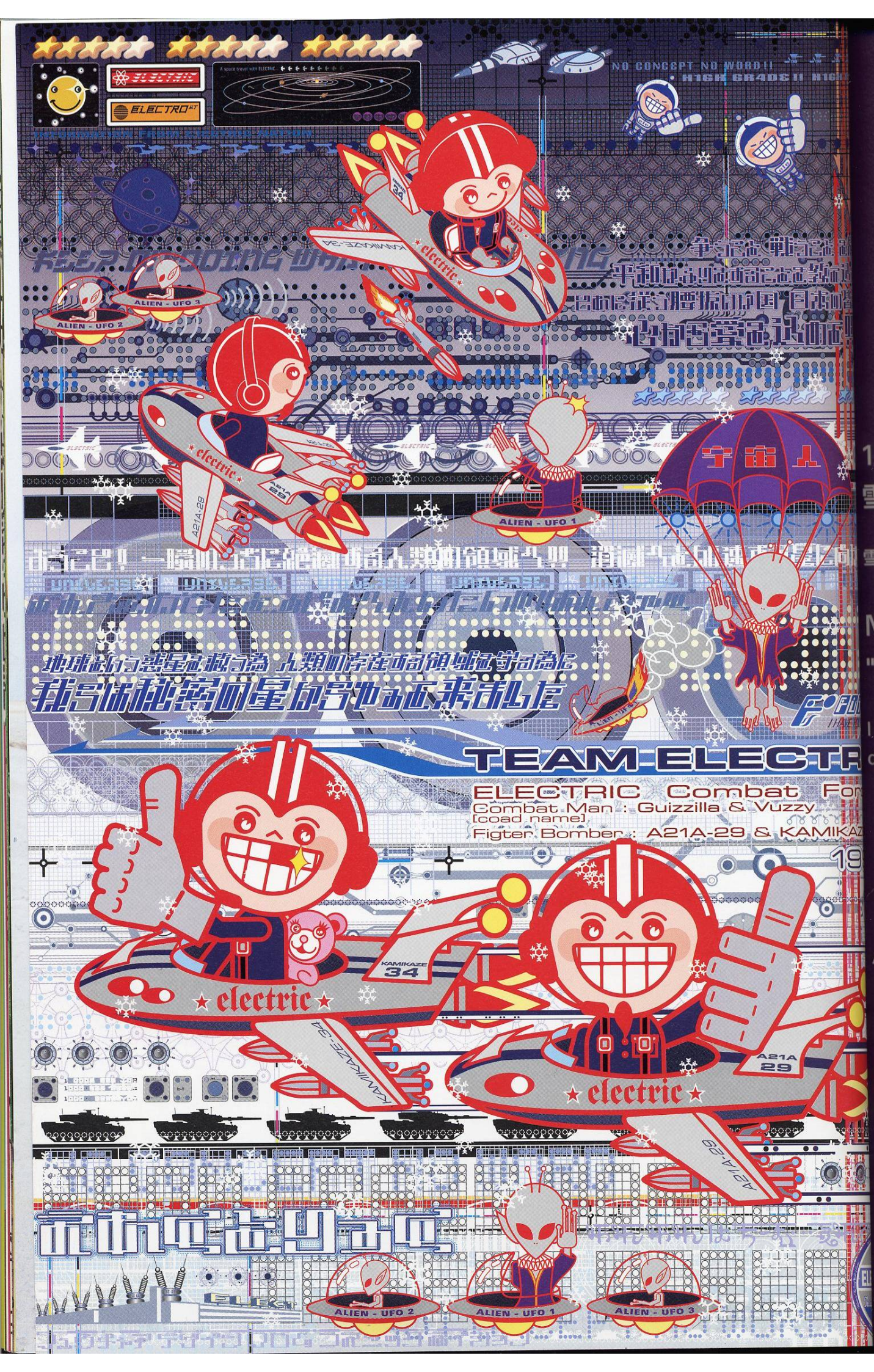
1988年2月11日(木)
鯨を獲る人

冬の空。槍を持った男が、鯨を獲るためやって来た。氷が1面に張り付いた海へ、大きな槍を投げていた。

Thursday, February 11, 1988
"A Whale Catcher"

Under the winter sky, there comes a man with a spear in his hand, a whale catcher. He throws the big spear into the frozen sea.

画 グルーヴィジョンズ
Artwork by groovisions



1988年
雪の降
雪の降る街
Mond
"A Sn
In a snow
descen
Art wor

1988年2月22日(月)
雪の降る街

雪の降る街。通りの向こうの空へ、宇宙船が降りてきた。美しい風景。

Monday, February 22, 1988
"A Snowy Town"

In a snowy town, upon the horizon beyond the streets, a spaceship descends. It's such a beautiful scene.

Artwork by ELECTRIC

1988年
ガス管

明月荘の台
ライオンの

Sunda
"A Ga

In the kit
and find
a family

画 マニアッ
Artwork

MK
DESI

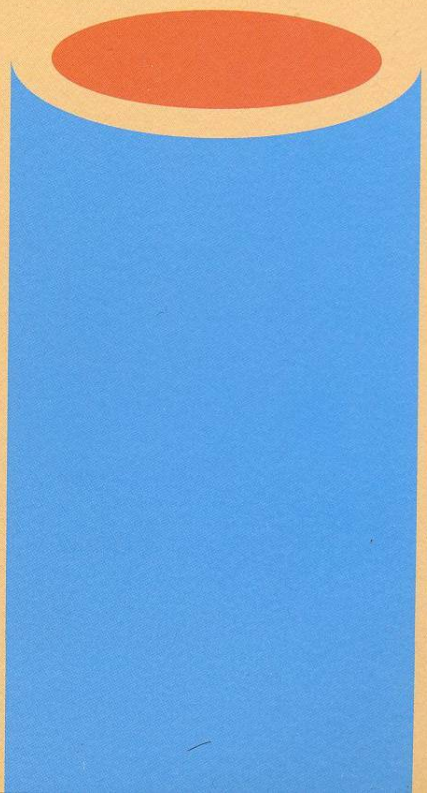
1988年2月28日(日)
ガス管を食べるライオン

明月荘の台所。裏戸を開けてみると、ガス管が食い破られたようにぼろぼろ。ライオンのような親子が3匹いた。

Sunday, February 28, 1988
"A Gas Tube Eating Lion"

In the kitchen of my Meigetsu-So apartment. I open the back door and find the remains of a torn-up gas tube. Nearby are three of a family of lion-like animals.

画 マニアッカーズデザイン
Artwork by Maniackers Design



MKS DESIGN

1988年
彼は「
富士塚のミ
きな鬼が生
かのように
彼は赤鬼の
「希望」

Mond
"He w

A minia
of Mt. F
sits dov
the tem
guards
and esc
He is 'H

画　田仲
Artwor

1988年4月18日(月)
彼は「希望」

富士塚のミニチュア富士が爆発した。まるでスパークリング。そこから赤い大きな鬼が生まれた。山門を守っていた「あ」と「うん」の前に、彼らを見張るかのように赤鬼が居座る。ふたりの間から「たろう」という男の子が生まれた。彼は赤鬼の隙を見て、山門の前に渦巻く時間の流れに飛び込んで逃げた。彼は「希望」だ。

Monday, April 18, 1988
"He was 'Hope'"

A miniature Fuji has erupted like a sparkling fountain on the mound of Mt. Fuji. From that spot a big red ogre is born. The red ogre sits down in front of "A" and "UN," the guards of the main gate of the temple, as if he were keeping an eye on them. Between the two guards a boy named "Taro" is born. The boy slips past the red ogre and escapes, diving into the vortex of time in front of the gate. He is 'Hope.'

画　田仲容子
Artwork by Yoko Tanaka

1988年2月16日（火）

ちょんまげとエレベーターで乗り合わす

タクシーに乗っている。車を降りると、大きな学校に着いた。人が大勢やって来る前の夢でも来たことがあるので、よく知っている気がする。表口から入ると迷路のように迷うので裏口から行こうとすると、連れが表の売店で買うものがあるからついきてくれという。しかたなく表から入る。買物が済んでエレベーターに入ると、ちんまげの男がふたり乗っている。0階で降りると、迷路のように混みいった廊下にた。前に来た時と同じだ。また迷い込んだらしい。ちょんまげ達もこの階で降りる左の離れでは、千利休が人を集めて茶の湯講習会をしていた。ちょんまげ達が入っ部屋では、町人が寄り合いをしていた。やっぱり裏口から入ればよかったと後悔するどうやらまた、時間軸の中で迷ってしまったようだ。

1988年3月7日（月）

むにゅむにゅ

顔中が吹出物だらけ。押すと、むにゅむにゅとした脂肪のようなものがいっぱい出くる。鼻のてっぺんからも、分子構造モデルのような形の大きなむにゅむにゅが出きた。これが一番大きい。とても気持ち悪い。洗面所の窓へ捨てにいく。外に出し窓を閉め、むにゅむにゅがどこへ飛んでいくのかしばらく見ていた。

1988年4月2日（土）

未来都市

街を歩いていた。そこはとても美しく整備されている。
塵ひとつ無い、SF映画の中の未来都市だ。車は音も無く走り、渋滞も無く、水のよに流れていく。横道に入ると下町風の商店がある。
パン屋で、アイスクリームを買った。タイムトラベルしたみたいに、ここだけは雰気が違う。ひたすら歩く。書き割りのような狭い住宅街へ入った。どこか一軒の家入った気がする。誰かが角から逃げだしていった。そこから駅前まで歩く。

1988年4月9日（土）

上野公園

殺人鬼が潜んでいる。噂では既に誰かが殺されたらしい。行きたくないけれど、どしても上野公園の中に行かなければ。お花見の人達が公園へ入っていく。その後にいていこう。その方が安全だ。
先頭の人は茂みへ入った。妙に長く細い道が揺れる。不安。その茂みは危ない気がる。急に恐怖感が襲う。いま来た道へ引き返そう。道は真っすぐ大通りへ続いている しかしとても果てしない距離に感じる。頭がぐらぐらしてきた。

って来る。
と迷路のよ
からついて
ると、ちょ
た廊下にで
で降りる。
達が入った
後悔する。

っぱい出て
こゅが出て
外に出して

水のよう

けは雰囲
軒の家に

ど、どう
の後に付

い気がす
ている。

1988年4月15日（金）

ビデオ

テレビを見ている。ホモセクシャルのためのビデオクリップらしい。地下室で小さな男の子が裸にされている。

1988年4月20日（水）

ストライキ

品川のNTTの前でストライキがあった。女の人が駅に降りてきて、この辺は交通が遮断されていると告げる。新聞社も閉鎖されている。とても暗い暗い世界だ。

1988年4月30日（土）

仏さまの骨とルビー

吹き抜けの中庭がある三叉路に、皆が集まる。喋っていると、いきなり目の前の階段から落ちてしまった。落ちるまではスローモーションだ。体がゆっくりとぐるぐる回転する。骨折するかもしれない。落ちるままにまかせていると、上手く着地した。ちょうど着地した所に、なぜか涙粒くらいの赤と青のルビーが落ちていた。ルビーを見ながら、仏舎利を手に握って目覚めたという仏教の逸話を思い出していた。

1988年5月9日（金）

UFOを待つ猫たち

実家の猫たち。物干しで、篭に入って皆じっとしている。空から光り輝く人達とUFOが、やってくるのを待っているのだ。猫たちは荘厳な雰囲気に包まれていた。

1988年5月9日（金）

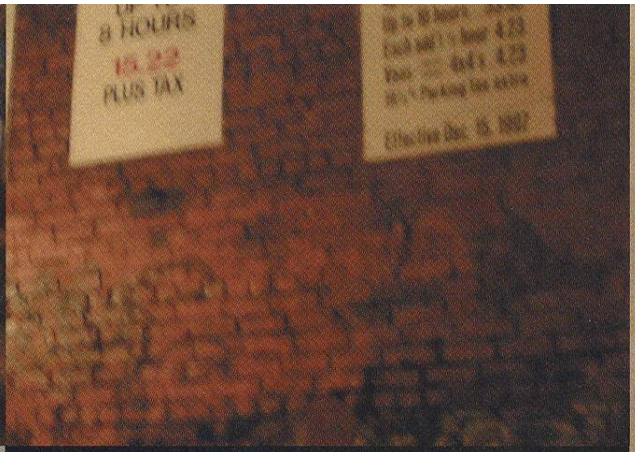
A Station

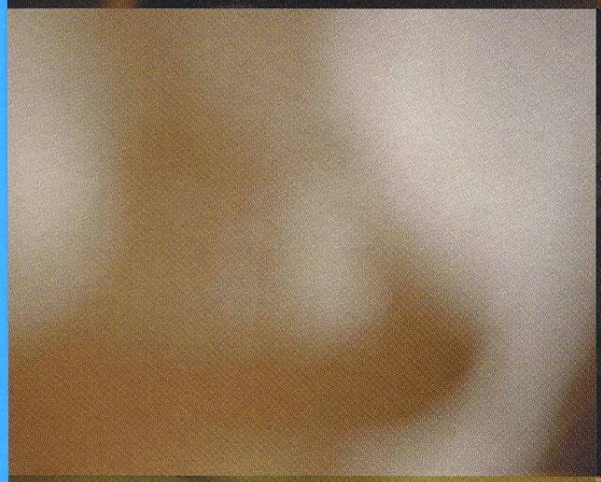
天井は高く、海の底のように静かな待合室。鉱物標本室にも似ている。やがて汽車が出る時刻。エレベーターに乗って出かける。

1988年6月22日（水）

ニューヨークに家を借りた

友達がそこへ訪ねてくる。ぼんやりとベランダの窓を眺めると、イギリスのように曇った空が見える。通りはとても広く、印象派の絵の海のようだ。通りでは、子供たちが遊んでいる。表に面した四畳の部屋は、昼だけ明るい。ここは畳の部屋なのにシャワールームにしているので、畳が腐らないかとても心配だ。表の街路樹から、部屋にまで枝が入ってくる。通りの向こうには森が見える。森の中には秘密の研究所があってとても危険。近寄らない方がいいらしい。





1988
N.Y.

部屋を間
ことにす

Thur
"N.Y

I'm ren
decide
walkin

画　坂本
Artwor

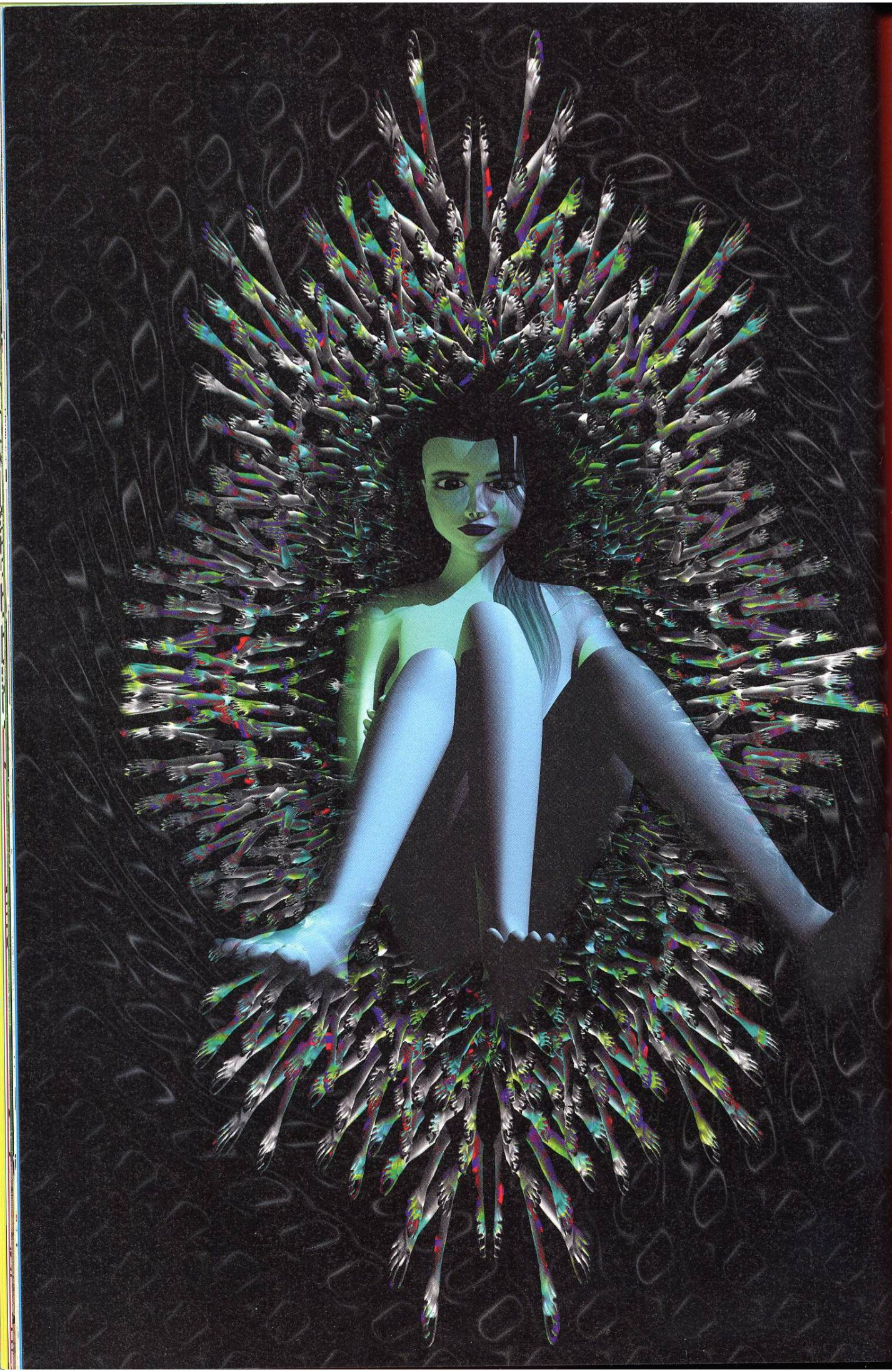
1988年6月23日(木)
N.Y.

部屋を間借りしている。向かいの部屋には、1人の男性。彼と一緒に出掛けることにする。部屋を幾つも通り抜けていく。先を歩いている人が喋っている。

Thursday, June 23, 1988
"N.Y."

I'm renting a room. There's a guy in the room across from me. I decide to go out with him. We go through many rooms. The guy walking in front of me is speaking.

画　坂本龍一
Artwork by Ryuichi Sakamoto



198
3本

3本の
けてい

Thu
"A

Awo
May

画
Artw

1988年9月1日(木)
3本の手もしくは足を持つ女

3本の手(もしくは足)を持った女の人が、誰かに傷付けられている。殺されかけているのかもしれない。まるでニュース映画を見ているようだ。

Thursday, September 1, 1988
"A Woman with Three Arms or Legs"

A woman who has three arms (or legs) is being hurt by someone. Maybe she is being murdered. It's like watching a newsreel.

画　飯塚昇
Artwork by Noboru Iizuka

在京中華街

1988
チャイ

チャイナ
か京都の
ながどこ
が、閉店

Frida
"Chin

I'm on th
this Chin
as it's n
no idea
looking
but mos

画　佐藤
Artwork

在京中華街

1988年9月2日(金)
チャイナタウンの京都

チャイナタウンへ食事に行くため、路面電車に乗る。チャイナタウンは、なぜか京都の商店街だった。夜だから人もいない。散髪屋やお菓子屋がある。みんながどこのレストランに行ったかわからない。細い路地の奥やあちこちを探すが、閉店していたり満員だったりする。

Friday, September 2, 1988
"Chinatown Kyoto"

I'm on the streetcar to go have a meal in Chinatown. For some reason, this Chinatown is a shopping area in Kyoto. There's no one around, as it's nighttime. There is a barber shop and a candy store. I have no idea which restaurant everyone else decided to go to. I keep looking around, into the backs of small alleys and everywhere, but most of the restaurants are either closed or fully packed.

画　佐藤理 & OUT ASS MAO
Artwork by Osamu Sato & OUT ASS MAO

1988年
檻のあ

鞭を持った
畳の部屋に

Sunda
"Roon

There ar
There's a

画　水野健
Art work

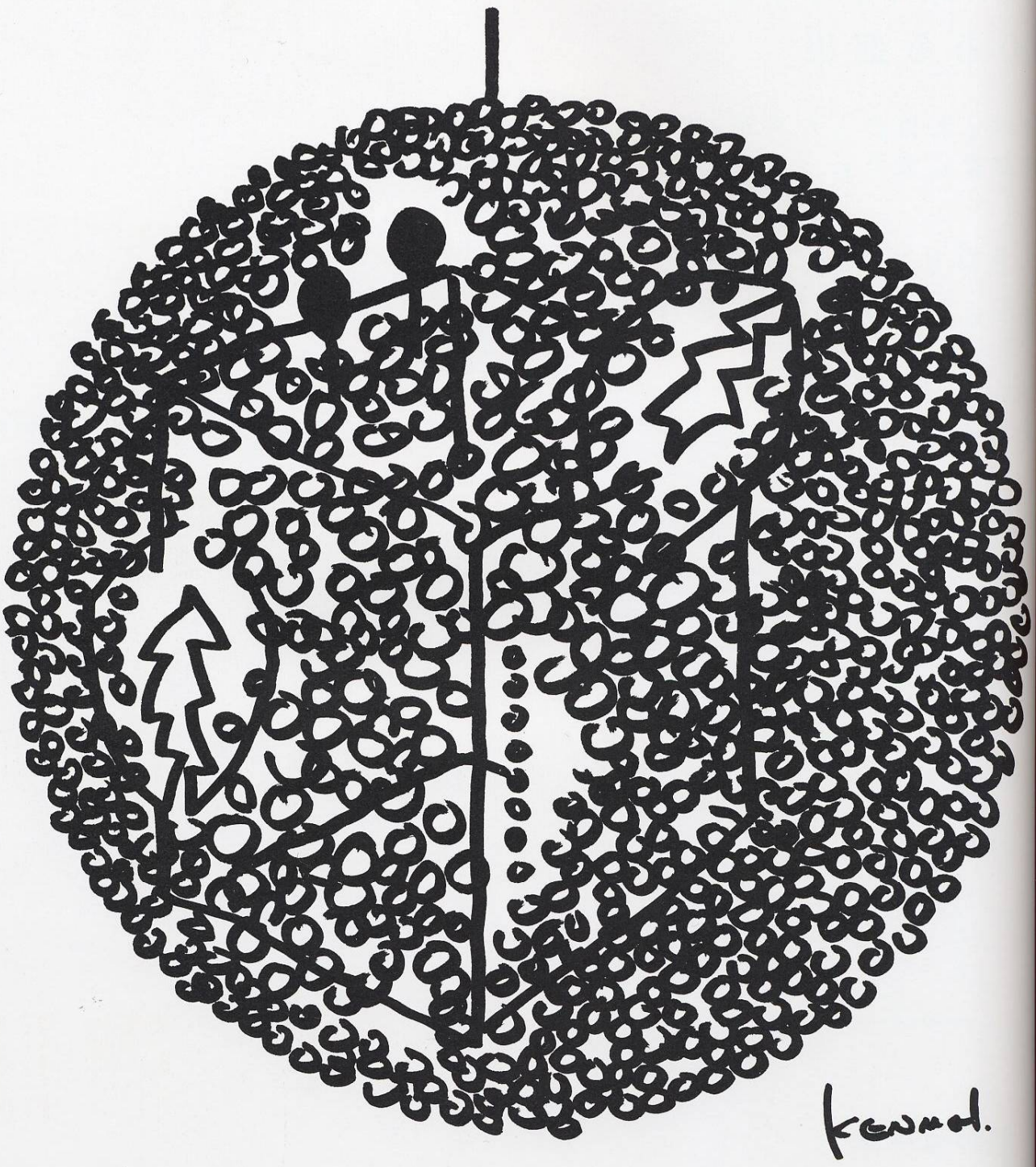
1988年10月2日(日)
檻のある部屋

鞭を持った男の人たちが2階の部屋にいる。
畳の部屋に檻があったりして、倒錯的な雰囲気だ。

Sunday, October 2, 1988
"Room with a Cage"

There are men with whips in the room upstairs.
There's a cage in a tatami room, creating a very deviant atmosphere...

画　水野健一郎
Artwork by Kenichiro Mizuno



198
レス

エレベ
なって
たバケ
食べら
いかか
ータの

Sur
"A F

I'm on
resta
food
there
mons
some
Anyw

画 ナ
Artw

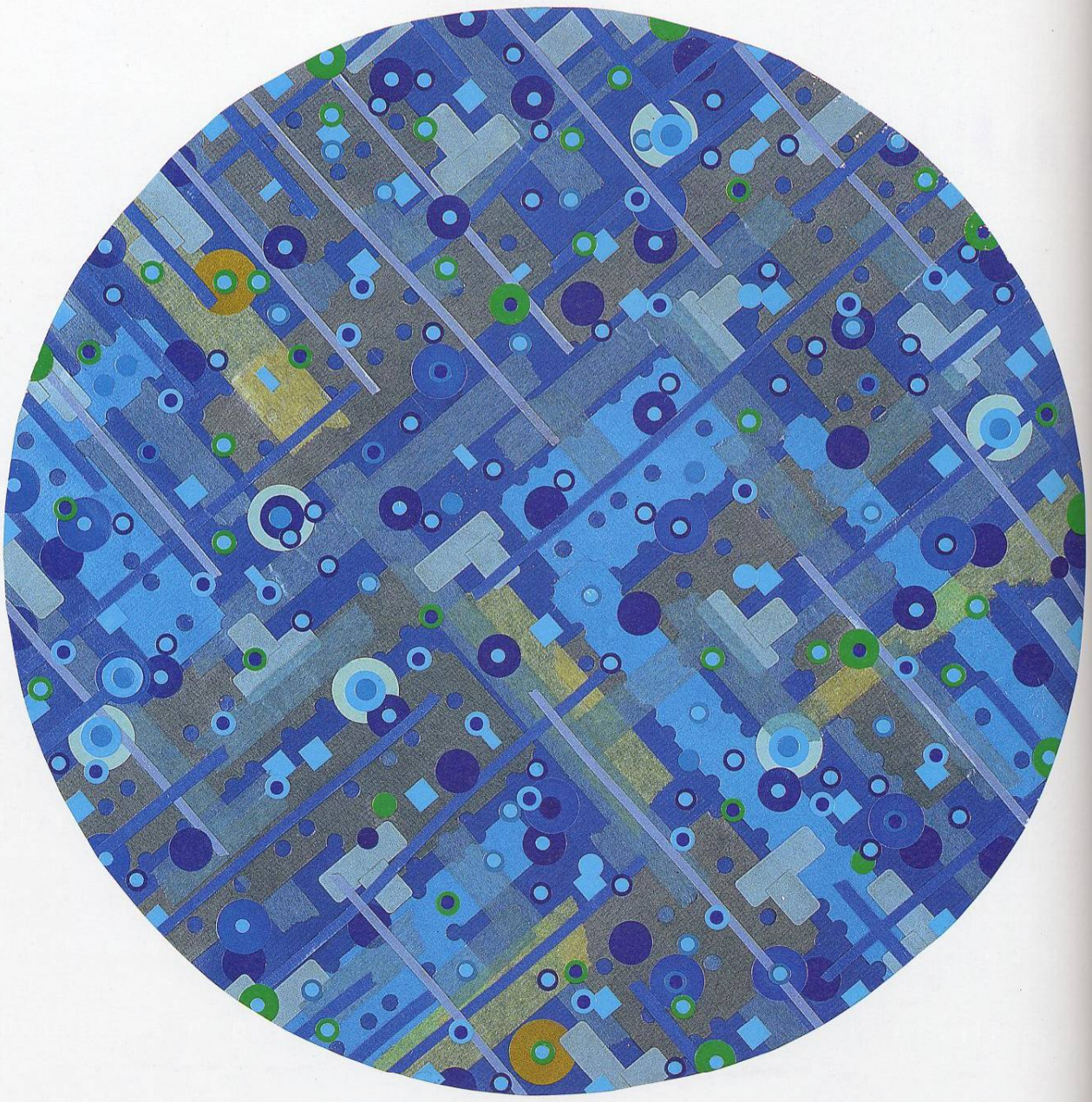
1988年11月27日(日)
レストラン・エレベータと巨大ガニ

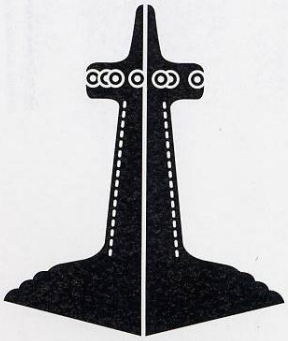
エレベータにみんなと一緒に乗る。エレベータは8畳程の広さのレストランになっていて、幾つかのテーブルと、パスタなどのイタリア料理がたっぷり入ったバケツが置いてある。エレベータが1階に降りるまでの間、それらを好きに食べられるのだ。と、突然フロアの柱の向こうから怪獣のような巨大ガニが襲いかかってくる。なぜかカニは茹でられて赤い体をしている。とにかくエレベータの中はパニックだ。

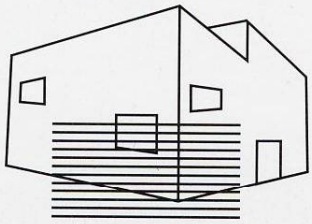
Sunday, November 27, 1988
"A Restaurant Elevator and a Gigantic Crab"

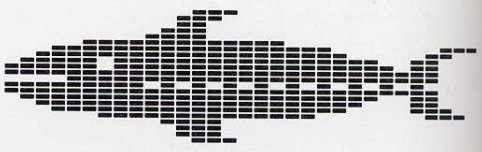
I'm on the elevator with everyone. The elevator is an eight-tatami-mat-sized restaurant, there are tables and buckets overflowing with Italian food all around. We are all allowed to eat as much food as we want there, until the elevator gets to the first floor. Suddenly, a gigantic monster crab attacks us from behind one of the floor pillars. For some reason, the crab has been cooked, and so its body is all red. Anyway, inside the elevator, it's panic.

画　ナガオカケンメイ
Artwork by Kenmei Nagaoka









1988年12月8日(木)
海際の倉庫

小さな岬に向かって歩いている。右手には倉庫。左手には波が打ち寄せる岩場があり、そこから海が広がっている。倉庫には、海から揚げられた魚が入れられ、そこからまたどこかの街へ運ばれていく。舗装された道には、海から岩場へ、岩場から倉庫へ、魚が引き揚げられた生臭い水の跡が付いている。倉庫を通り過ぎ、岬の先端へ。そこには低い灯台がある。そして、海。誰かが灯台の影に倒れているようだ。

Thursday, December 8, 1988
"A Seaside Warehouse"

I'm walking towards a small cape. There is a warehouse on my right, and a craggy place on my left, where the waves are breaking. Stored in the warehouse are fish taken from the sea, which will be transported to another town. From the sea to the craggy place, and from the craggy place to the warehouse, patches on the paved road where the water has dried up give off a fishy smell. Passing the warehouse to the head of the cape, there is a short lighthouse. Then, the sea. I think I see someone collapsed in the shadow of the lighthouse.

画　サダヒロカズノリ
Artwork by Kazunori Sadahiro

1988

台形

台形の
頂上に
足場が
かも岩

Tue

"A T

A trap
tropi
I'm st
narro
thin c
I final
to fal

画 竹

Artw

1988年12月27日(火)

台形の山

台形の山が彼方に見える。ここは南国。熱帯の空気が漂っている。台形の山の頂上に立っている。頂上は意外に狭く、岩が細長い水晶のように突き出ていて、足場がほとんどない。ひとつの岩にようやくしがみついているという感じ。しかも岩はぼろぼろしている。

Tuesday, December 27, 1988

"A Trapezoidal Mountain"

A trapezoidal mountain can be seen in the distance. I'm in the tropics. The sweltering air is moving only slightly.
I'm standing on top of the trapezoid mountain. The top is much narrower than I thought it would be, with rocks sticking out like thin crystals, leaving almost no space for me to secure a foothold. I finally manage to hold onto one of the rocks, but they are all about to fall to pieces.

画　竹内オサム

Artwork by Osamu Takeuchi

1988年11月10日（木）

追われる

誰かに追われている。それは組織のようなものだ。私は大家族で逃げている。そこ
中華レストランだったり、小さな街の商店街の軒先だったり。小さな洋服店には今
引退した老師がいて、追われている私達を匿ってくれる。店先にやってきた敵に向
って「気」を吹き突けて追い出してくれた。「気」とはこんな風に、まわりの空気
ら自然に集めてこれるものかと改めて感心する。しかし私はこれからも敵に追われ
けるのだ。

1988年11月14日（月）

川沿いの家

そしてたくさんの不思議な子供達が、その家のいろいろな部屋に潜んでいるのだ。
んとなくそれを感じる。

1988年11月18日（金）

下着店

坂下のビデオショップにビデオを返却しにいくと、ビデオショップの前に下着店が
る。段ボールに山積みにされた下着は、「綿のパンツ5枚で500円」とある。

1988年11月27日（日）

私の死ぬ日

私はあと2、3日後に死んでしまうことに決まった。これは運命だ。死ぬ日は26日
誰かに宣告された時は、何とも思わなかった。だんだんその日が近付いてきて、つ
に当日になった。石段を降りる時、急に自分が今日死んでしまうことに気付いた。
段を降りる足が一瞬宙を浮いたような気がして、ぱっとそれまでの生涯のことが思
浮かんだ。これらのことすべてを今日すっかり無くしてしまうのだと自覚した。

1988年12月8日（木）

天井の青空

部屋で布団にくるまって眠っている。ふと目を開けると、天井だけがそっくり部屋
ら無くなっていて、かわりに恐ろしいほどきれいな青空が見える。濃い黄味を帯び
青色の空に、羊のように小さな白い雲が、おびただしくたくさん浮かんでいるのだ
あまりの不思議な美しさに、しばらく見とれる。とても気持ちがいい。部屋と部屋
間の梁だけが残っていて、その梁にかかった雲からちょうど太陽が顔を覗かせ、あ
りのまぶしさに目をつぶった。

1988年12月12日（月）

封鎖された窓

通りの向こうに細長いアパートが見える。通りは荒れ果て、人通りもない。そしてアパートの1階の一番右端の窓が、誰かにコンクリートか何かで封鎖されている。以前その窓には、女性の絵が落書されていた。そのためかどうか窓は塗り込められ、かつて窓だった所には、物干し竿だけが架けられたままだ。竿には黒いキューピー人形がぶらさがっている。私は通りの向こうにいた。大きなバスの扉からそれを見ていたのだ。

1988年12月20日（火）

朽ちた船の沈む湖、壁のない部屋

壁の無い部屋から、眼下に湖が見える。湖には水があるのではなく、その空間全体が湖というイメージ。そこには朽ちた船が沈んでいる。確かに沈んでいるが、その湖という空間に含まれているだけなのかもしれない。船の看板は錆びて、水が溜まり草が生えている。私のいる壁の無い部屋も湖という空間に含まれている。部屋の中には、川が流れている。川は湖につながる。しかし、この川の水には、水という存在感がある。冷たい透き通った水面に、指輪が3個流れてきた。なぜかあの船にいた人のものだという気がした。船は難破して沈んだのだ。

1989年1月2日（月）

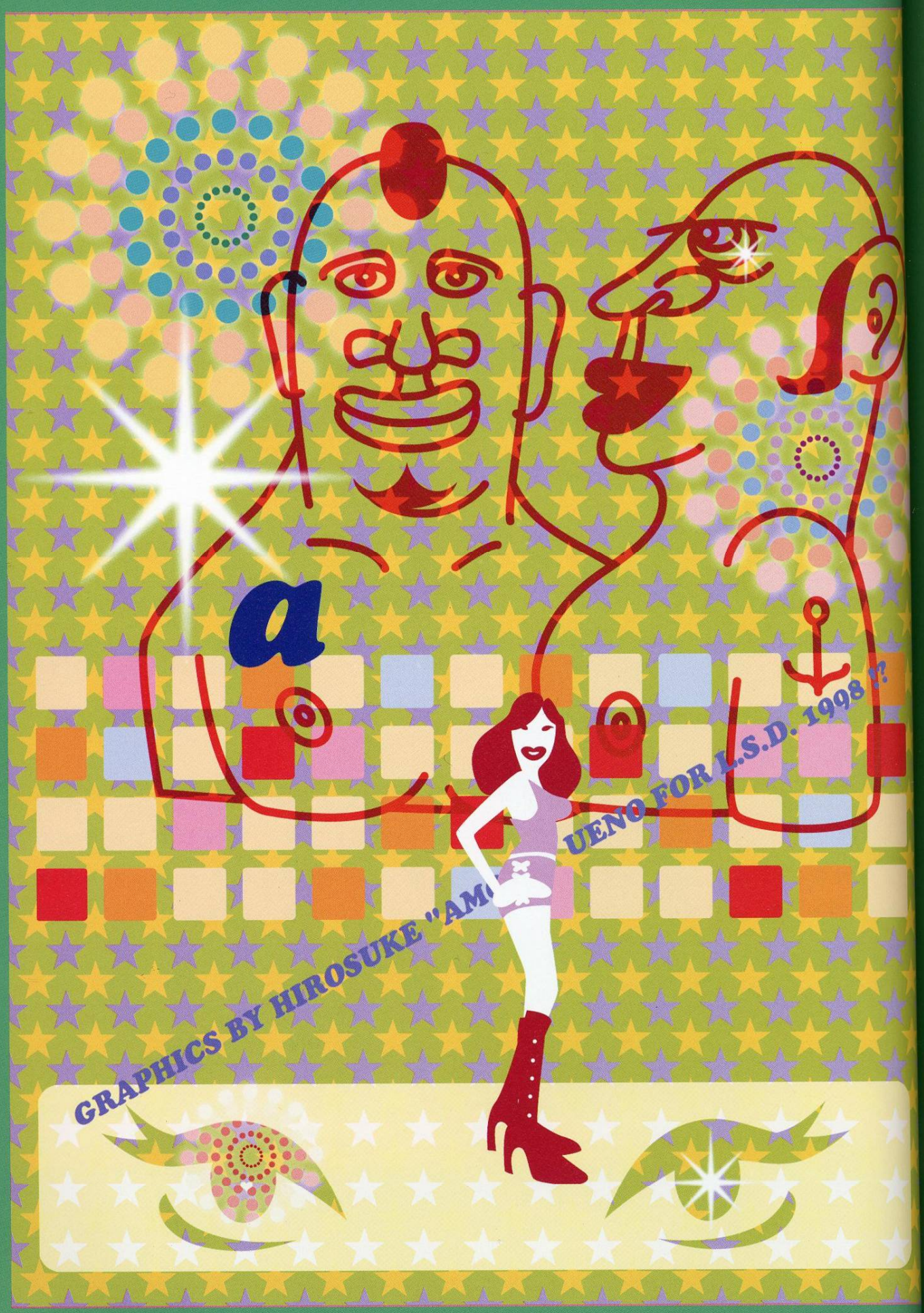
屋根裏部屋で喋る

商店街に面した小さな花屋の屋根裏部屋。梯子で上がるようなそんな狭い場所で、誰か知っている女性と喋っている。

1989年2月11日（土）

米粒

茶碗をレンジから取り出すと、米粒がレンジの受皿の下の方に飛び散っている。私はその米粒を箸で1粒1粒取り、食べていく。真っ暗な電子レンジの中に白く浮き上がった米粒が、長い箸で1粒ずつ取り除かれていく様が目に焼き付く。



1989
追跡

マイク・
りする。
の、まる
し、金で
あまりに
逃げる。

Mon
"The

Two hu
and I'm
missio
the str
the fil
pursu
very fa
talkin
memb

画　上
Artwo

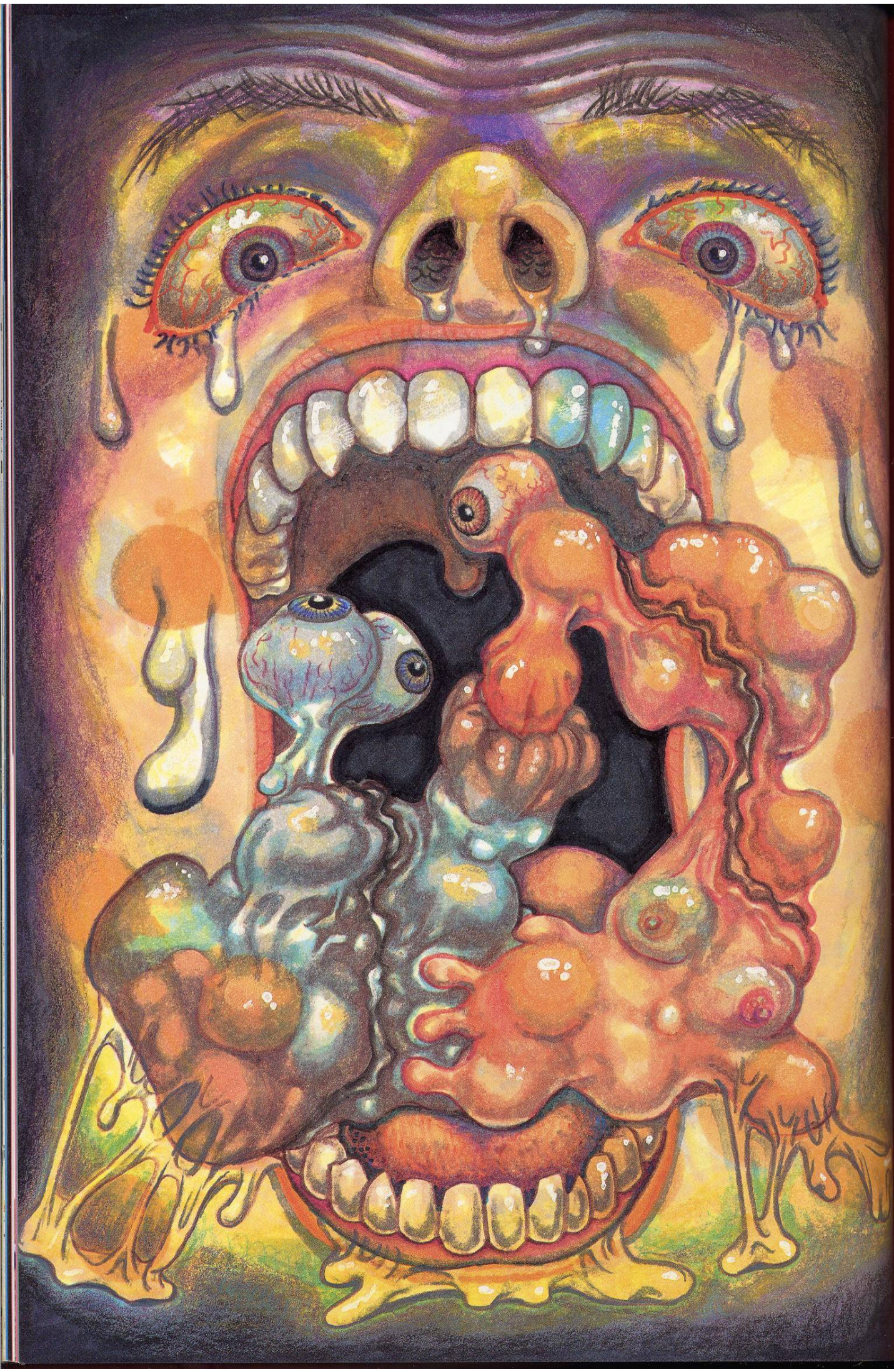
1989年1月2日(月)
追跡

マイク・タイソンのような大男ふたりが、レストランに入っていくのを盗み撮りする。私達は極秘命令を受けて、証拠写真を撮りに来たのだ。ニューヨークの、まるで映画のセットのような街角を走り逃げ、フィルムを秘密の場所に隠し、金で雇った男に追手の追跡の時間稼ぎを頼む。しかし、追手の追跡の方があまりにも敏速だ。雇った男は口封じのために車で轢き倒し、我々は高速へと逃げる。仲間と無線で連絡を取るのだ。

Monday, January 2, 1989
"The Chase"

Two huge guys who look like Mike Tyson are going into a restaurant, and I'm secretly taking pictures of them. We are on a top-secret mission to get photographic evidence. We're running through the streets of New York, which look just like a movie set. We hide the film in our secret place, and have a guy we hired throw our pursuers off the track to gain some time. But, our pursuers are very fast. We run the hired guy over with our car to keep him from talking, and drive towards the highway. We have to contact other members by radio.

画　上野"アモーレ"宏介
Artwork by Hirosuke "AMORE" Ueno



198
目玉

生牡蛎
まだ生
再び皿
ょいと
ない。
出てく

We
"O

Raw
They
After
This
them
oyst
a gre
ther

画
Artw

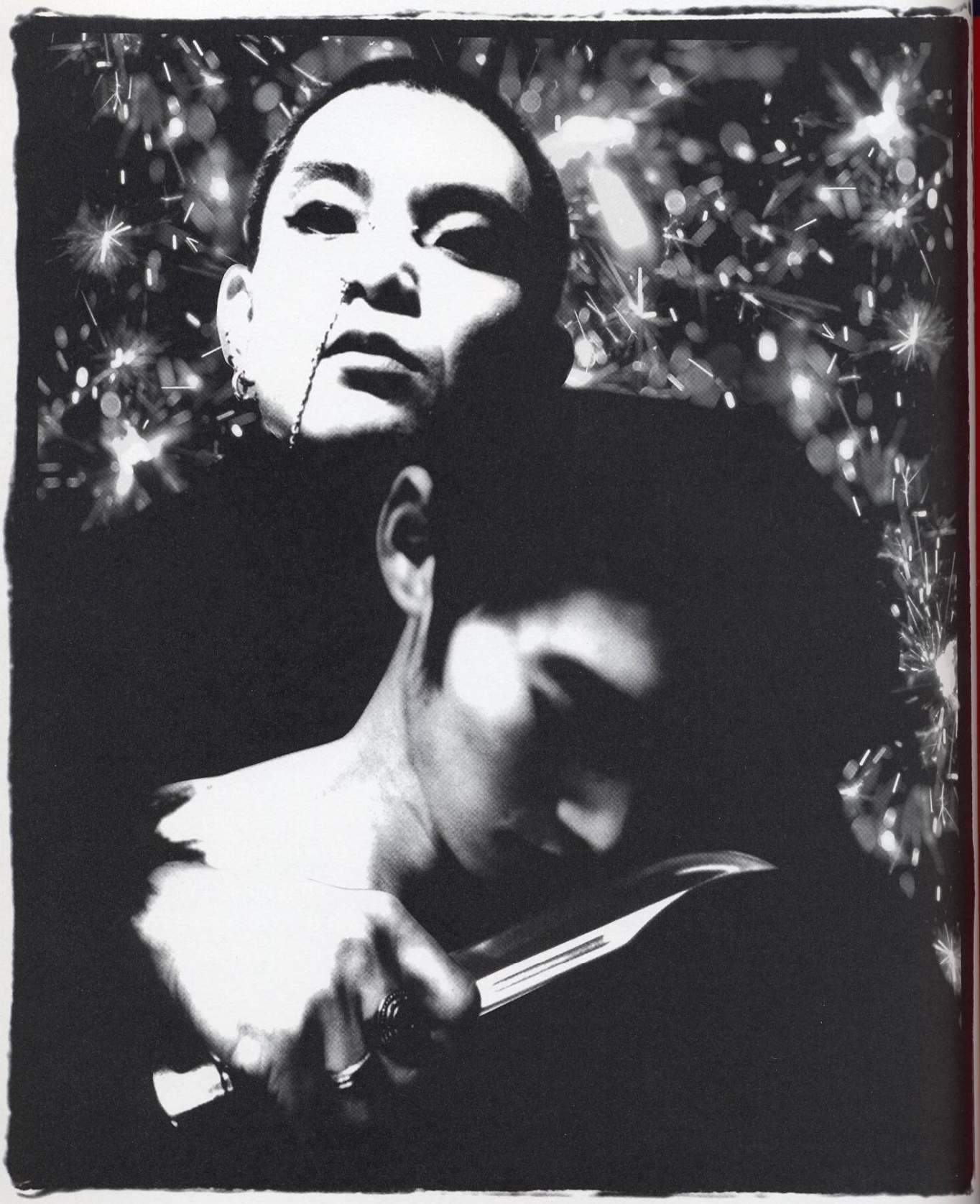
1989年1月11日(水)
目玉のある牡蛎

生牡蛎が皿に載せられている。それには目玉が付いていて、雄と雌のつがいだ。まだ生きていて、皿の上で交尾をしているようだ。ずいぶん時間が経ってから、再び皿のところへ戻る。またそこには牡蛎が載せられている。今度はそれをひょいと掴み、口に入れてみるが、目玉がまだ睨んでいるようで一向に噛み下せない。生牡蛎を口に含んだまま、噛めも出来ず、気持ち悪くなってきて脂汗が出てくるが、どうにも出来ないでそのまま立ち尽くす。

Wednesday, January 11, 1989
"Oysters With Eyes"

Raw oysters are on a plate. They are a couple, and both have eyes. They are still alive and it looks like they are mating on the plate. After a while, I come back to the plate. The oysters are still there. This time, I grab them and put them in my mouth, but I cannot swallow them, as I feel like their eyes are still watching me. With the raw oysters in my mouth, I can't even chew, and I'm feeling sick in a greasy sweat, but I can't do anything but to just keep standing there.

画　マディ上原
Artwork by Muddy Uehara



r e v o l u t i o n

1989
革命

飛行機の
その中央
り受けた
も襲いか
も急いで
れてしま
ている。

Thu
"AR

In an a
could
in the
when s
army s
anoth
from
bag w
runni

画トレ
Artw

モデル
Mode
写真
Phot

1989年2月2日(木)
革命

飛行機の倉庫。天井は遥かに高く、小さなビルディングが入るくらいの大きさ。その中央にある砲射台の2階から、下にいる子供たちへ向けてボールを投げたり受けたりして遊んでいると、突然革命が起こった。革命軍の兵士達が倉庫へも襲いかかってきて、次々と人々を捕まえては中央の円陣へ並ばせている。私も急いで2階の端の梯子から逃げようとしたが、頭に布を被せられて捕らえられてしまった。中央の円陣では捕虜になった人々がそれでも抵抗して走り回っている。

Thursday, February 2, 1989
"A Revolution"

In an airplane hangar. The ceiling is way up above, and the space could hold a small building. I'm on the second floor of a gun turret in the center of the hangar, playing catch with some kids downstairs, when suddenly there is a revolution. Soldiers from the revolutionary army storm into the hangar and capture all the people one after another, standing them in a circle in the center. I'm trying to escape from the second floor by a ladder, but I get captured too, and a bag was put over my head. In the center circle, hostages are still running around in resistance.

画 トレス アミーゴス
Artwork by Tres Amigos

モデル クリス
Model Chris
写真 花坊
Photo Kabo

1989

孤独

街外れ。
私はどこ
こへ着い
へ行って
も待って
りきりな
私のいる

Tues
"Sol

On the
people
I'm pr
have a
I was t
no one
I don't
Nor wi

Artwo

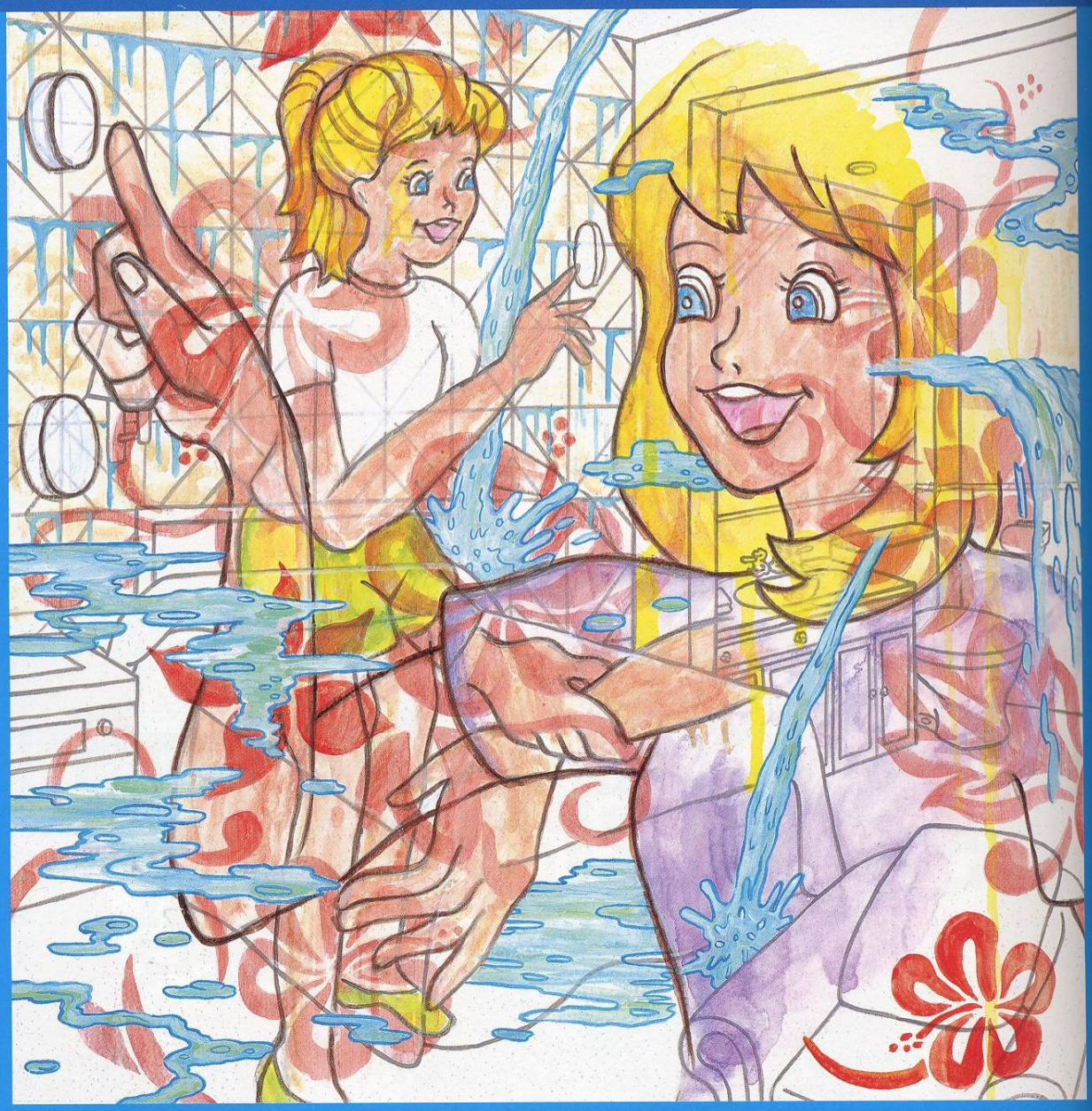
1989年2月14日（火）
孤独

街外れ。大きな幹線道路が通っている。そこに知っている人々が集まっている。私はどこか遠くからやって来た。しかもずいぶん疲れている。ようやく私がそこへ着いた時には、ほとんどの者が大きなトラックに乗って、郊外のデパートへ行ってしまったところだった。少し残っていた人にそう聞いた。どうして誰も待っていてくれなかったのだろう。とても寂しい気がする。私はここでも独りきりなのだ。ここに残っていた人の中にも、出掛けていった人々の中にも、私のいる場所はない。そしてこれから、行く場所にも。

Tuesday, February 14, 1989
"Solitude"

On the outskirts of town. There is a big arterial road, and all the people I know are gathering there. I came from somewhere far away. I'm pretty exhausted. When I finally reach them, most of them have already left on a big truck to a department store in the suburbs. I was told this by the people who remained behind. I wonder why no one waited for me. I feel really lonely. Once again, I am all alone. I don't belong with the people who left nor with those who remained. Nor will I belong where I'm headed.

Artwork by Delaware



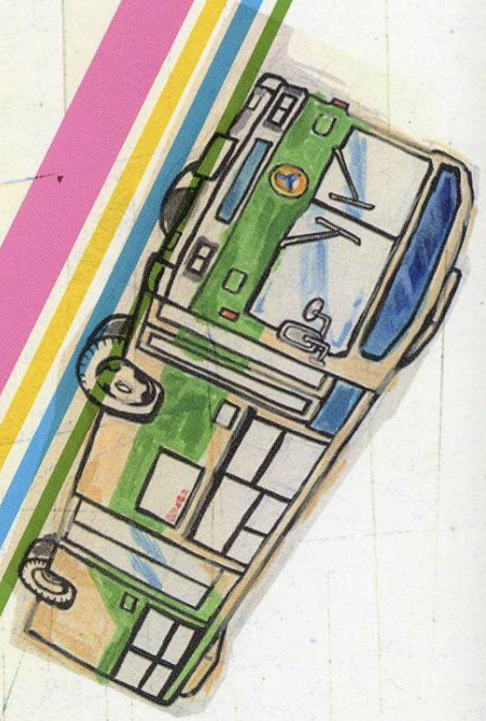
1989年2月19日(月)
ハワイのプール部屋

ハワイに来ている。知らない女性と、そして知り合いのカップルと一緒だ。私がひとりで来ているので可哀相に思った彼らは、私を同じ部屋に泊めてくれる。しかし寝台はひとつ。3人で眠るが、私は居心地が悪い。もうひとりの女性の部屋を訪ねると、ここはまるでプールのように水で溢れている。釦を押すと、するすると水が退き、すぐ乾燥する仕組み。驚いている私に、ハワイは乾燥しているからこんなことをしても平気なのだと、彼女が言う。

Monday, February 19, 1989
"Swimming Pool Room in Hawaii"

I'm in Hawaii. A woman that I don't know, and a couple that I do, are here with me. Taking pity on my coming there alone, they let me stay in their room. But there's only one bed. The three of us sleep together but I feel uncomfortable. I visit the other woman in her room, and find it filled with water, like a swimming pool. A button is pushed, the water recedes, and the whole place dries up instantly. Seeing the stunned look on my face, the woman tells me it's only possible in Hawaii because the air is so dry.

画　本田佳世
Artwork by Kayo Honda



198
バス

バスに
ってい

Tue
"Th

I'm o
on Su
dies.

画 藤
Artw

1989年3月28日(火)
バスに乗っていた犬の死

バスに乗っている。日曜日に向島の中華店で見かけた犬が、後の座席に横たわっている。そのうち犬は死んでしまった。

Tuesday, March 28, 1989
"The Death of the Dog on the Bus"

I'm on the bus. The dog I saw in a Chinese restaurant in Mukojima on Sunday is lying on the seat behind me. After a while, the dog dies.

画　藤本康生
Artwork by Yasuo Fujimoto

1989
今日

バスに
ってい
あの犬

Wed
"Th

I'm o
on Su
dies.
I can

画　モ
Artw

1989年3月29日（水）
今日もまた犬が死んでいた

バスに乗っている。日曜日に向島の中華店で見かけた犬が、後の座席に横たわっている。そのうち犬は死んでしまった。昨日とまったく同じ展開、同じ夢。あの犬のことが、とても気になっている。

Wednesday, March 29, 1989
"The Dog Died Again Today"

I'm on the bus. The dog I saw in a Chinese restaurant in Mukojima on Sunday is lying on the seat behind me. After a while, the dog dies. Exactly the same situation as yesterday. The same dream. I can't seem to stop thinking about the dog.

画　モンキー王国
Artwork by Monkey Kingdom

1989年4月1日（土）

やどかり

巻き貝が見える。その貝から、にょろにょろと手足が出てきて、やがて身体が出て、とうとうやどかりの姿になって、歩き出そうとする。すべてがスローモーション理科の教材フィルムみたいだ。

1989年4月8日（土）

駅の中での夕食の相談

遠い町まで来てしまった。大きな駅の改札で、帰る相談をするが、夕食をどうする で悩む。私は、駅の構内で炊飯器を取り出してご飯の用意を取り合えず始める。そ うち混みだした人々の中で、連れとはぐれてしまった。電車がやって来たので、急 で長い階段を走り下りる。行きすぎた私は、1台めの電車の辺りに連れがいないこ に気付く。同じホームを探していると、続いてきた2台めの電車のところにいた。 局電車は逃してしまった。それに炊飯器を構内に忘れてきたことに気付いて、私は いで取りに上がる。階段の手摺りで、連れからもうお腹が空いたので何か買って帰 ことにしようと言われる。じゃあこの炊き上がったご飯はどうするんだろう。

1989年4月20日（木）

温泉旅館とフィルム見物

古い温泉旅館に来た。年齢・性別を問わず大勢の人々がそこへ集い、大広間で何か フィルムを見ている。これは義務だ。私もその人々の中に混じり、大広間に映し出 れるフィルムを見ている。フィルムは、記録映画かもしくはここにいる人々が映っ いるものかもしれない。隣にいた同級生が「後ろに金髪の人がいる。」と私に耳打 する。フィルムは、アジアのどこかの海か大きな川を映し出していた。そこでは、 てつもない数の人々が通勤のために船を出して渡っていくのだ。しかもほとんどが 長いただの板切れで、その上に自転車や人や犬などが1列に乗っている。先頭にい ひとりの船頭が長い棒で板船を漕いでいく。そうした簡易船が水面を埋め尽くし混 しながら渡っていく。圧倒されるような力を感じる。フィルムを見ていた中年の婦 が、自分達もここへ旅行したことがあるといって大声で笑っている。何か嫌な気が た。フィルムが終わると、私は部屋を出た。本当はまだ部屋にいなければいけない だが、後の方にいた若い学生達も飽きたのか、いつのまにかいなくなっている。

1989年4月28日（金）

男装した僧侶の物語

男装した僧侶が、大勢の僧に混じって境内の庭掃き作業をしている。仲間は誰も彼が女性だとは知らない。彼は、無口で何を考えているかわからない。その為に知られないのかもしれない。境内に入ってきた少女が、小さな自分のボールでは飽き足らず、他の大きなボールを奪い取ってしまう。それを見ていた彼は、少女から大きなボールを取り上げてしまう。少女は我侭で身分が高い。召し使い達を引き連れて、彼にボールを寄越せと迫る。彼は取り上げたボールを持ったまま、寺の縁側に上り、彼女達に追い詰められる。彼の無言の抵抗が伝わってくる。場面転換。このことで、彼は主人の屋敷に引き出される。他の僧侶も居並ぶ1室。主人が出てきて、彼に向かって何か言う。主人と視線を合わせない彼の顔が異常に美しくて目に焼き付く。男性でも女性でもない美しさだ。彼の秘密がその美貌をさらに引き立たせるのかもしれない。主人は弁解をしない彼が気に入ったらしく、護衛の僧侶達の仲間に取り立てる。隣の部屋から主人の娘が出てくる。彼は、娘の剣の相手を命じられる。娘のかざす剣をしきりに避けながら、相手には立ち向かわない。見ていた仲間達は、無駄な動きが多すぎるし、彼はだめだと噂している。娘は彼を好ましく思い始めている。場面転換。彼がまだ女性だった頃の姿が見える。ドレスを持って、石畳の通りを歩いている。そして、古い煉瓦造りの家へ入っていく。そこは沢山の洋服を吊した広い部屋。その家の老女が洋服のコレクションをしているのだ。彼女（彼）が持ってきたドレスを見て、老女は喜んでいる。彼女（彼）は貧しい。ドレスを売って金を得ようとしている。老女は値段を渋る。彼女は駆け引きして、老女の家の空き部屋を借りることになった。彼女の恋人は芸術家だ。彼女はそれで苦労しているらしい。恋人の部屋。鉄パイプの寝台が置かれている。彼女は恋人とその寝台に仲良く寝そべって、テレビを見ながら、今日の部屋の話を楽しそうにしている。

1989年5月14日（日）

女の子の背中

オフィス街。銀行の玄関先に屋根のある8畳程のスペースがある。銀行はまだ開店前。そのスペースに布団を敷いて私は眠っている。通りに面した玄関の扉が半分開いており、表の光が差し込んでいる。背中にパウダーを付けた小さな裸の女の子が、背をこちらに向け、外光を受けている。背中の背骨や肩甲骨がくっきりと浮かんでいる。

1989
海に浮

海に、何
かと、同
常品が何

Satu
"Flo

I'm flo
me in t
some

画 テ
Artwo

1989年4月1日(土)
海に浮かぶ

海に、仰向けになってぷかぷかと浮かんでいる。まわりにも数冊の本がぷかぷかと、同じように表紙を上にしてぷかぷかと浮かんでいる。海には他にも、日常品が何か浮かんでいたかもしれない。

Saturday, April 1, 1989
"Floating in the Sea"

I'm floating on my back in the sea. A few books are floating around me in the same way, with their covers facing up. Maybe there were some other common objects floating around as well.

画　テリー・ジョンスン
Artwork by Terry Johnson

いいみなさーん そろそろ集まって下さーい
めのジジイな
めのジジイを見つけた
あついわけじゃないのだ むしろ寒い
汗ではないよ
ぴんぴゃれっけろ
暗くてよく見えない なあああ
ビビビ
このんは
おまえロボットだろ 働けよ
はたらけ ロボット おまえだよ
じょじょに神に近づいている
びちょびちょ だらあ
誰かたすけてくだされえ
つめたい つめたいよ
いたい いたい
おいじいこっちだよこっち
知らないうちにぬれていた
スポ
そして寒い
誰かあ
この女は何も知らない
おーいこっちです
マフラー

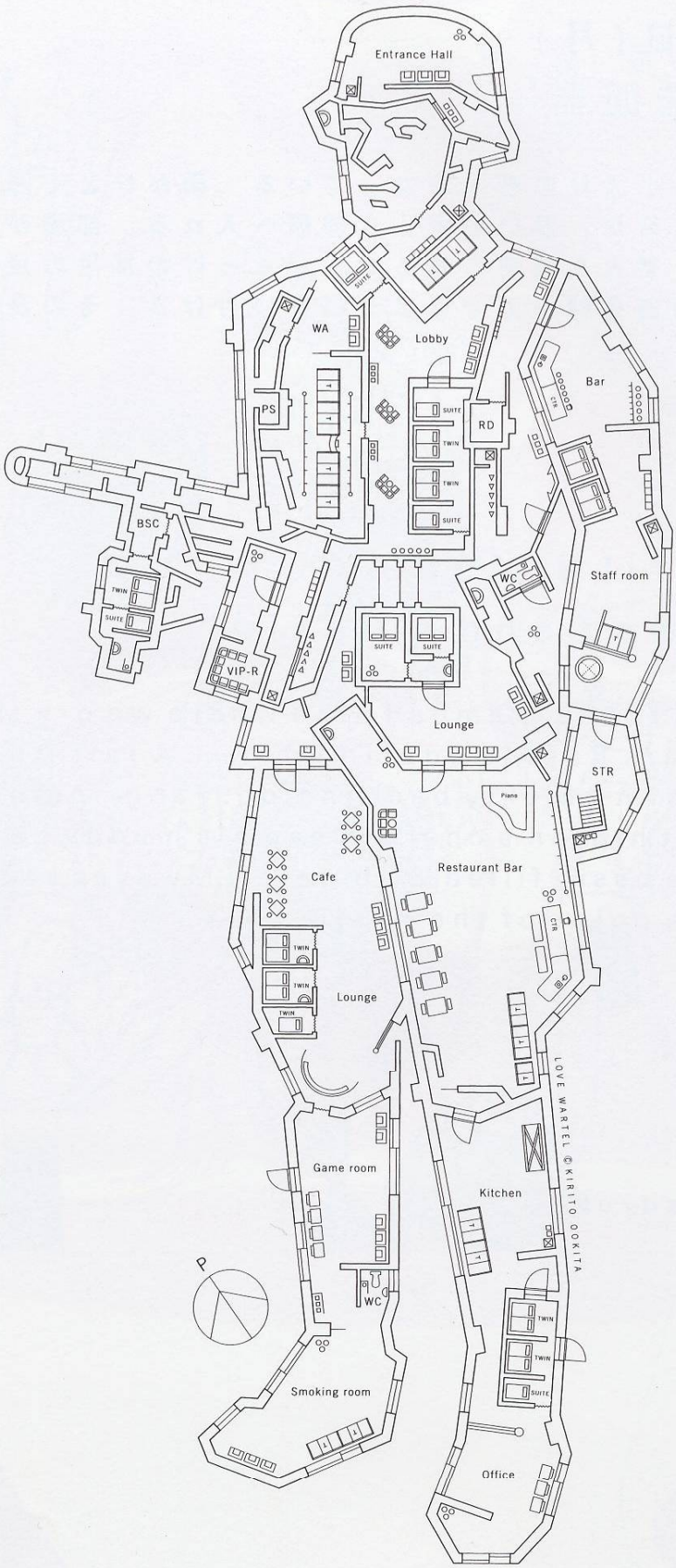
1989年4月3日(月)
濡れた老人と洗面器

外の狭い物干し台に、小太りの老人が立っている。雨がひどく降っている。隣にいた背の高い痩せた男が、急いで老人を部屋へ入れる。部屋から眺めていた私も、それを手伝う。老人を椅子に座らせ、泥だらけの裸足の足を拭き、女の子に、水を入れた洗面器を持ってくるように言い付ける。その洗面器の乳白色がいやに目に付く。

Monday, April 3, 1989
"A Wet Old Man and a Basin"

Standing outside, in the cramped area where we dry the laundry, is a chubby old man. Rain is pouring down. A tall, thin guy next to him is helping him quickly back inside. From inside the room, I try to help. We sit him on a chair, clean his muddy bare feet, and order a girl to get a basin filled with water. My eyes keep returning to the milky white color of the basin.

画　都築潤
Artwork by Jun Tsuzuki


Entrance Hall
SUITE
WA
Lobby
Bar
CTR
PS
SUITE
TWIN
TWIN
SUITE
RD
BSC
TWIN
SUITE
WC
Staff room
SUITE
SUITE
VIP-R
Lounge
STR
Piano
Restaurant Bar
Cafe
CTR
TWIN
TWIN
TWIN
Lounge
LOVE WARTEL © KIRITO OOKITA
Game room
Kitchen
P
WC
TWIN
TWIN
SUITE
Smoking room
Office

1989年4月4日(火)
赤いホテル

ホテルの入口。中へ入ると、ホテル中が赤く塗られている。正面にロビー、左手に客室へと続く廊下。また廊下の天井の隅には、子供のおもちゃみたいな定規が取り付けられている。定規も赤く塗られており、その目盛りが部屋毎に付いているこどもの名前を載せて定規の上を走る。それを眺めながら廊下へと入り込む。

Tuesday, April 4, 1989
"Red Hotel"

Entrance of a hotel. I go inside, and the whole place is painted red. Lobby in front of me, a corridor leading to the guestrooms going off to the left. What looks like a toy ruler is attached to the corner of the corridor ceiling, where it joins the lobby. The ruler is also painted red, and the markings running along it carry the childrens' names assigned to each room. Staring at the ruler, I enter the corridor.

画　大喜多麒人
Artwork by Kirito Ookita

1989
雨の降

京都の部
い座卓が
こたつの
の音が激
て床下へ
るようだ

Satu
"The

A room
the legs
on the
center
The noi
the TV
table a
do abo
as well

画　東泉
Artwor

1989年4月8日(土)
雨の降る部屋

京都の部屋。昔あった大きな足付きのテレビがある。テレビの足下には、四角い座卓が納まっており、床はぽっかりと黒い空間を開けている。部屋の中央のこたつの下にも床がぽっかりと開いている。部屋の外には雨が降っている。雨の音が激しい。気付くと、部屋の中のテレビの下から雨が降り、座卓を濡らして床下へ流れている。慌てるがどうしようもない。天井の方にも黒い空間があるようだ。そのうち部屋全体が縮まってきた気がしてきた。

Saturday, April 8, 1989
"The Raining Room"

A room in Kyoto. There is an old-fashioned TV set with legs. Between the legs of the TV is a square coffee table, and a dark space is opening on the floor there. The floor underneath the kotatsu table in the center of the room is also wide open. It's raining outside the room. The noise of the rain is very loud. I notice it is also raining underneath the TV in the room, and the rain water is dripping onto the coffee table and down onto the floor. I jump up, but there's nothing I can do about it. It looks like there's another dark space on the ceiling as well. Soon, I start feeling like the entire room is shrinking.

画　東泉一郎
Artwork by Ichiro Higashiizumi

1989
庭師
夜のよ
ている
に軟ら
のよう
不思議
が流れ
るのが
噴水が
火のよ
辺り1面

Sat
"An

I wan
park i
garde
is lik
in the
of gra
flowe
to a p
gard
We h
"You
look
into t
the f

画 桑
Artw

1989年4月8日(土)

庭師達が花を植える不思議な公園

夜のような薄闇の公園を歩く。その広い公園はたくさんの不思議な花に囲まれている。大勢の庭師達が花を植えている。この公園の土は、埋め立て地みたいに軟らかい地盤だ。それでも庭師達は、軟らかい地面に花を植えていく。小山のような芝生に囲まれた小道を歩いていく。道に置かれているベンチまでが、不思議な大きな花でできている。花のベンチを眺めながら、なお歩くと、小川が流れ込む小さな池がある場所に出た。池の向こう岸にも庭師が花を植えているのが見える。私達は小川の踏み石を跳んで渡る。誰かが「世界で一番大きな噴水が上がるよ。」と叫ぶ。その声で森の向こうの空を見上げると、噴水が花火のように高く明るく夜空に上がるのが見える。噴水はこちらにも飛んできて、辺り1面が小雨のようだ。

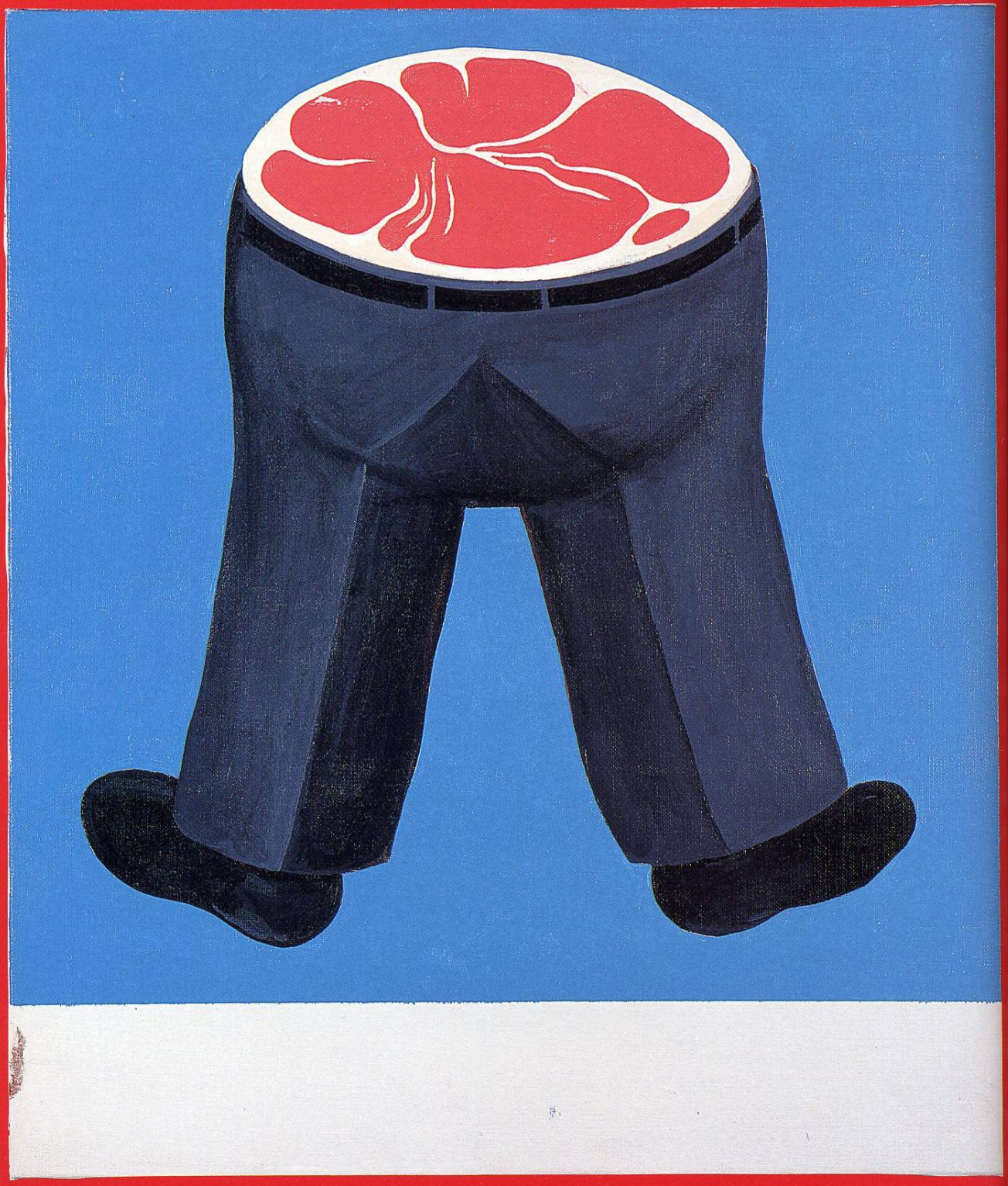
Saturday, April 8, 1989

"An Odd Park Where Gardeners Plant Flowers"

I wander through a park in a thin darkness like night. The wide park is bordered by a dense wall of curious flowers. Quite a few gardeners are planting flowers. The soil here is soft, the ground is like fill dirt. But, these gardeners continue to plant flowers in the soft ground. I'm walking on a narrow path, lined with ridges of grass. Even the bench on the path is made of these large, curious flowers. Looking at the flower bench, I keep walking and come to a place where a small stream flows into a small pond. I can see gardeners planting flowers on the other side of the pond, too. We hop across the stream on stepping stones. Someone shouts "You can see the biggest fountain in the world!" Hearing that, I look up at the sky beyond the forest, and see the fountain shoot into the night sky as high and bright as fireworks. The water from the fountain reaches us as a mist.

画　菊池きみえ

Artwork by Kimie Kikuchi



1989
下半

イタリ
のよう
れてい
な桃色
で立っ
きちん
半身だ
声はと
あろう

Wed
"Jus

A very
belly l
The cu
see are
there
is imm
his bo
the wa
additi
to the
body i

画　宗
Artwo

1989年4月19日(水)
下半身だけのオペラ歌手

イタリア人の、とても太ったオペラ歌手が唄っている。彼のよく肥えたビア樽のようなお腹をもった身体は、ちょうどベルトのあたりからすぱりと切り取られている。その切り口は、まるでハムの断面みたいにきれいに平らで、きれいな桃色の肉模様が見えているだけだ。だから彼は、お腹の半分から下半身だけで立っているのだ。彼の穿いている太いパンツは上半身がないのが嘘のようにきちんとしている。ズボンには、ちゃんとプレスした折り目すらあるのだ。下半身だけで、こんなにきちんとした人格がわかる人も珍しい。そのうえ彼の唄声はとても美しく、聴く人に感動を与える。唄声は、彼の上半身が存在するであろう位置から聞こえてくる。私はこのオペラ歌手のことが大層好きだ。

Wednesday, April 19, 1989
"Just the Bottom Half of an Opera Singer"

A very fat, Italian opera singer is singing. His body, with a stout belly like a beer barrel, has been cleanly cut through at the beltline. The cut surface looks very even, like that of a ham, and all I can see are the patterns of pinkish meat. He is, therefore, only standing there from the waist down. The huge pair of pants he's wearing is immaculate; unbelievable considering that the upper half of his body is missing. The creases are even pressed. Even from only the waist down, he conveys an extraordinary neatness. And, in addition, his singing voice is very beautiful and deeply moving to the listener. The voice is coming from the place where his upper body is supposed to be. I like this opera singer very much.

画　宗誠二郎
Artwork by Seijiro So

1989
落下

少年が
切り立
に輝き
かって
さんの
流して
に怖い
状を見

Frid
"Th

A boy
of the
is visi
like fi
Towar
the sl
the fa
anoth
watch
some

画　山
Artwo

1989年4月28日（金）
落下した少年

少年がひとり、森の道を奥へと歩いていく。森の奥の道の尽きるところには、切り立った山の斜面が見える。斜面には人の魂のような灯りがたくさんきれいに輝き、ぽつぽつと蛍のように見える。少年の乗った車が走る。その斜面に向かって。落下。私はそれを見ていた。下りて斜面を歩くと、その辺りにはたくさんの死んだ魂が落ちている。落ちた車の残骸。先程の少年は酷たらしく血を流して死んでいる。座席には、他の男の人も首をもがれて死んでいる。不思議に怖いとは思わなかった。私はまるで日常の景色を見るように、自然にその惨状を見ていた。

Friday, April 28, 1989
"The Boy Who Fell"

A boy is walking alone on a road deep into the forest. At the end of the road, deep inside the forest, the slope of a sheer mountain is visible. On the slope are lots of lights glowing like human souls, like fireflies scattered about. A car goes by, carrying the boy. Towards the slope. He falls. I'm watching this scene. I walk down the slope, and see many dead souls lying about. The wreckage of the fallen car. The boy is bleeding to death horribly. In the car, another man sits, decapitated. Somehow, I'm not scared. I'm just watching the disastrous situation very naturally, as if it were some ordinary scene in my life.

画　山本タカト
Artwork by Takato Yamamoto

198
砂か

何か小
ころは
の大き
その辺
えなが

Sat
"Re

A pla
unde
sand
sand
digg
of th

画 高
Artw

1989年5月6日(土)
砂から掘り出した赤い果実

何か小さな盆栽みたいな木が植えられている場所。その木の下の溝になったところは、柔らかい砂地になっている。私はその砂を掘る。すると、梅の実ほどの大きさの赤い果実が出てくる。柔らかい砂を掘り出すと、いくつもいくつもその辺りから赤い丸い果実が出てくるのだ。私は嬉しくて、赤い果実を手に抱えながらもどんどん掘っていく。柔らかく暖かい砂の感触。赤い実。

Saturday, May 6, 1989
"Red Fruit Dug Out of the Sand"

A place where small bonsai-like trees have been planted. In a ditch under the tree, the ground was soft and sandy. I'm digging in the sand. A red fruit the size of a plum pops out. The more I dig up the sand, the more red, round fruits come out. I'm so excited I keep digging in the sand, cradling the red fruits in one arm. The touch of the very soft, warm sand. The red fruit.

画　高野寛
Artwork by Hiroshi Takano

198
亀

学校。
って者
どこか
ことい

Su
"Th

Asc
narr
ours
crac
this
able

画
Artw

1989年5月7日(日)
亀

学校。皆で体操している。席に戻る。細い階段式の教室。皆はそこに1列になって着席する。自分の席に着くと、小さな亀がいる。所々、甲羅が割れており、どこかに落ちたりしたみたいだ。私は、入れ物を探してそこへ亀を入れて飼うことにした。でもこの先ずっとこの亀を飼い続けられるかが心配だ。

Sunday, May 7, 1989
"The Turtle"

A school. We are all doing exercises. We go back to our seats. A narrow auditorium-classroom. We line up in single file and seat ourselves. When I get to my seat, I see a small turtle. Its shell is cracked as if it has fallen from somewhere. I find a container for this turtle and decide to keep it. But, I'm worried that I won't be able to keep it for long.

画　スージー甘金
Artwork by Suzy Amakane

19
囚わ

部屋
って
じ込
象を

Fri
"Th

I run
has
left
in th
of th
the

画
Artw

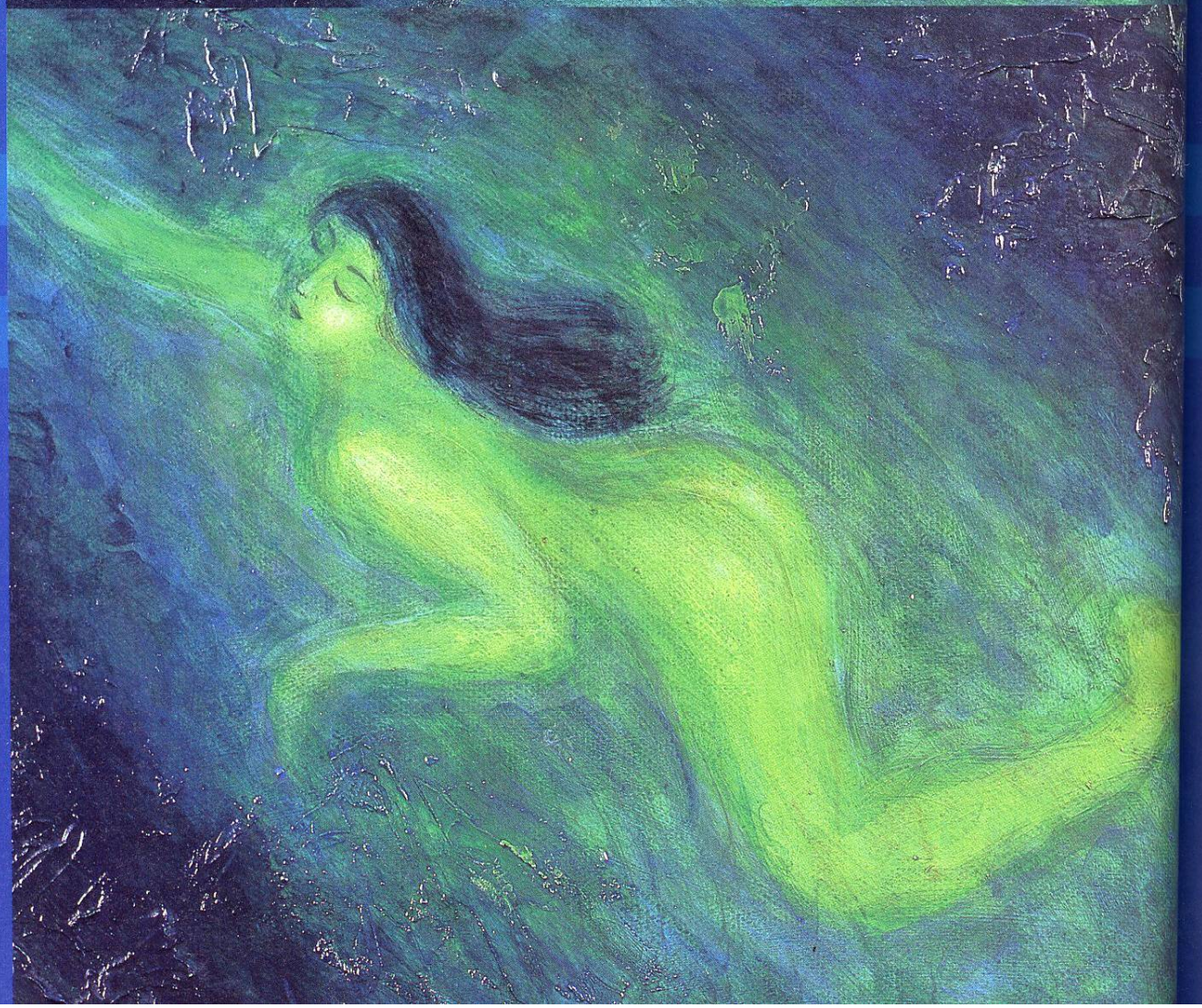
1989年5月12日(金)
囚われた象の部屋

部屋に逃げ込むと、大きな象と男の人がいた。象が部屋いっぱいに体を縮こまっているので、部屋にはまるで隙間というものがない。男も象もこの部屋に閉じ込められているらしい。象の体の皺や体毛が目に付く。男は象使い。巨大な象を自在に大きくしたり小さくしたりも出来るのだ。

Friday, May 12, 1989
"The Room of the Captured Elephant"

I run into a room, there is a big elephant and a man. The elephant has been completely shoved in, so there's practically no space left in the room. It looks like the man and the elephant are captured in this room together. All I notice are the wrinkles and body hair of the elephant. The man is an elephant trainer. He can freely control the size of the elephant, to be big or small.

画　ヒロ杉山
Artwork by Hiro Sugiyama



198
川で

幅の広
でいる
てしま
滝があ

Mor
"A S

A wid
are sw
There
be cau
But, I

Artwo

1989年6月26日(月)
川で泳ぐ

幅の広い浅い川。川は町の中央を通っている。私達はその川で漂うように泳いでいる。たくさんの人々。私達は一緒に泳いでいるうちに急な流れに捉えられてしまったようだ。でも怖くはない。眼前の流れの尽きるところには、たぶん滝があるはずだ。しかし怖くはないのだ。

Monday, June 26, 1989
"A Swim in the River"

A wide, yet shallow river. It runs through the center of town. We are swimming in the river, as if we were drifting.
There are so many people. While swimming together, we seem to be caught by the rapids. I'm not scared. There must be a waterfall. But, I'm not scared.

Artwork by Andrew Boerger

1989年6月4日（土）

ゴキブリ

トイレの便器の中に、大小2匹のゴキブリが入っている。その中には、私がそのゴキブリに与えている金目鯛の切れ端も入っている。ゴキブリは前は猫だった。私は、小さいゴキブリに大きな切れ端を与えようとしている。魚の切れ端は、頭と尻尾と真ん中の3つある。焼き魚なのに、尻尾はまだ動いている。もう頭もないのに、自分の頭のあった方向を向いて動いているのが不思議だ。

1989年6月10日（土）

電車の美容院

町中を走る市電。終点は間近いが、道が混んでいて進まない。途中の駅名は確かに東京の地名だが、終点は京都らしい。私の乗っている車両は、美容室だ。女性の店員がどういう髪型にするか訊ねてくる。話している内に襟足やサイドを刈り上げることになった。髪型の註文は出来たのに、ここでは市電が止まらないと散髪が出来ないという決まりらしい。電車はのろのろと走ったままだ。何だか髪を切らない内に終点へ着いてしまいそうだ。

1989年6月11日（日）

西瓜売りの屋台

夜。何もない住宅街を歩いていると、屋台の並ぶにぎやかな明かりが見える。その向こうにはトンネル、列車が走る。電球の明かりが賑々しい屋台。店のおじさんがたむろしている。屋台には、西瓜やたくさんの果実を売っている。端の屋台から慎重に買う西瓜を吟味する。私は試食用の真っ赤な西瓜を匙で食べている。とても甘い。1列に並んだ屋台の奥まで行くと、突き当たりには本屋がある。もう閉店間近なのか店員が本を片付けている。

1989年6月27日（火）

蕎麦の失敗

台所で蕎麦を茹でている。台所の窓から陽が差し込み、俎板の上に散らばった青い葱の微塵切りを照らしている。別の鍋の鰹出汁に味付けをするが、濃くなりすぎて失敗してしまった。どうしよう。鍋の出汁を薄めて作り直した方がよいだろうか、悩む。せっかく、鰊まで買って用意万端整えておいた蕎麦なのに。とてもかなしい。

1989年7月8日（土）

神社の中の新しい事務所

区役所前を上っていき、代々木公園の入口のある突き当たりを左に折れた、ＮＨＫの辺りに神社がある。その神社の中に私達は入っていく。夜だというのに少しも怖くはない。境内の中は電灯もなく真っ暗だ。だがその闇の中に怯えさせるものは少しもない。その神社の奥には、私達の新しい事務所があるのだ。そこは社の隣の2階だからという事でとても安くで借りられたのだ。事務所の中は、フローリングの床と幾つかの机と椅子が置かれている。スタンドライトの橙色がぼおと点いていて、暖かげだ。しばらくそこにいてから、私達はまた外へ出かける。また真っ暗な境内。境内の入り口近くには、警備のおじいさんが懐中電灯を持って、歩いていた。

1989年7月8日（土）

神社へのお参り

私達は神社の中に新しい事務所を借りたので、一応その神社をお参りにいく。壁1列にずらりと、朱色の巨大な門がそびえている。私達はその壁の右から左の奥へと向かって、ひとつ一つの門を拝み、挨拶していくのだ。ここの雰囲気は仏教の盛んだった頃の昔のインドみたいだ。朱色の巨大な門の向こうには、中国の紫禁城のような建物が見え、そのまわりをたくさんの人々が歩いていたり、馬を引き連れていたりする。私達はその門の中には入ることはなく、やはり右から左へ、ひとつ一つを丁寧に拝んでいく。だんだんと奥に近づいている。いつもの夢で見慣れた神社への入口へ近づいてきた気配がする。いつもの、巨大な塔や社が暗い境内に立ち並ぶ、暗い森の奥の神社への入口だ。

1989年7月10日（月）

転がる黒い帽子

明月荘の前の坂道。黒い麦藁帽子が何かの拍子で自分の頭から転がり落ちていった。帽子は坂道を鞠のようにころころ転がり、車の通る大通りをうまく転がり抜け、次の上り坂へ転がり上がり、少しいったところで急に止まり、また来た道を同じように戻り返して、ころころと自分の足元へ戻ってきた。

19
唇

誰か
に、
私に
は見
じな
声だ
と。

Mo
"P

I'm
the
I th
lips
can
or a
up
thi
int

画
Art

1989年7月10日(月)
唇に紅を塗る

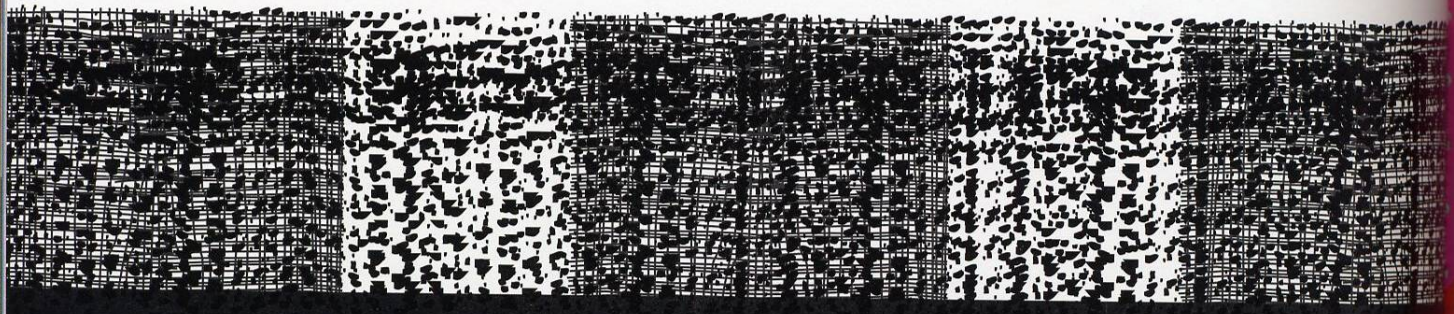
誰かの唇に、私が赤い紅を紅筆で取って塗ってあげている。かたちの整った唇に、紅を縁取り、丁寧に中を塗り潰していく。多分この人は女性だろう。だが、私にはその人の唇しか見えない。そのまわりの白い白粉の塗られた白い肌だけは見えるのだが、鼻だとか瞳だとか身体だとかいったものはまるで存在すら感じない。私はただ懸命に紅をその人の唇に塗っている。上の方から、その人の声だけが聞こえてくる。「もっと濃く塗らなければ取れてしまうから駄目だ。」と。私はその声に、又もっと丁寧に厚く紅を塗り潰していく。

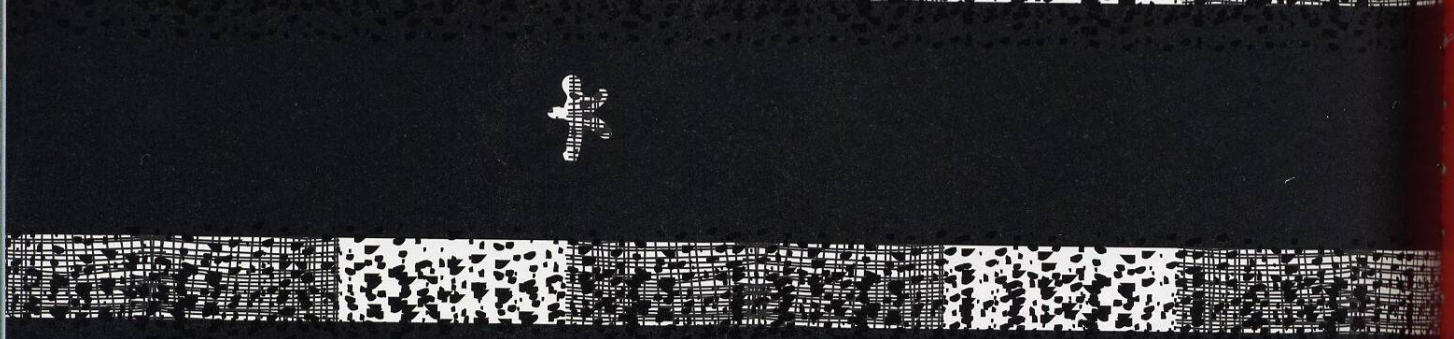
Monday, July 10, 1989
"Putting on Lipstick"

I'm putting red rouge on someone's lips with a lip brush. I'm lining the edge on the perfectly-shaped lips then filling inside very carefully. I think this is a woman. I can't see any other body parts but the lips. I can see the whitely-powdered skin around the lips, but I can't detect the existence of any other parts, such as nose, eyes, or a body. I'm trying my best to put rouge on the lips. From somewhere up above, I hear the person's voice, "You have to put it on much thicker, or it will come off." Pushed by the voice, I keep filling in the rouge thicker and thicker, more and more carefully.

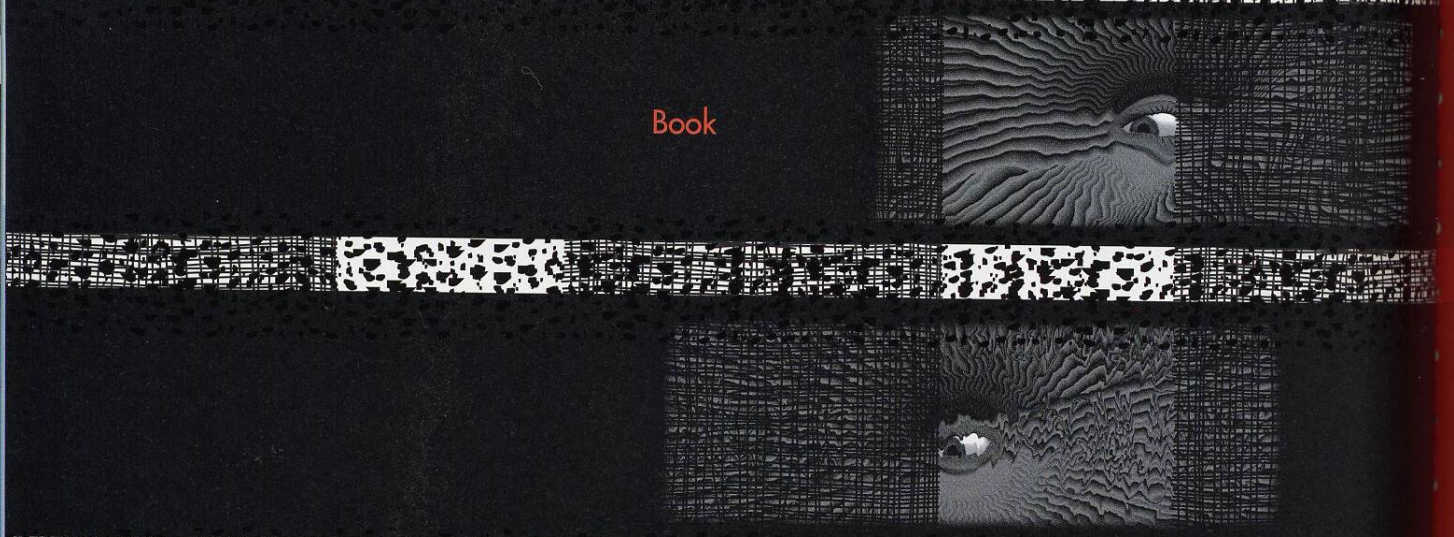
画　中村幸子
Artwork by Sachiko Nakamura

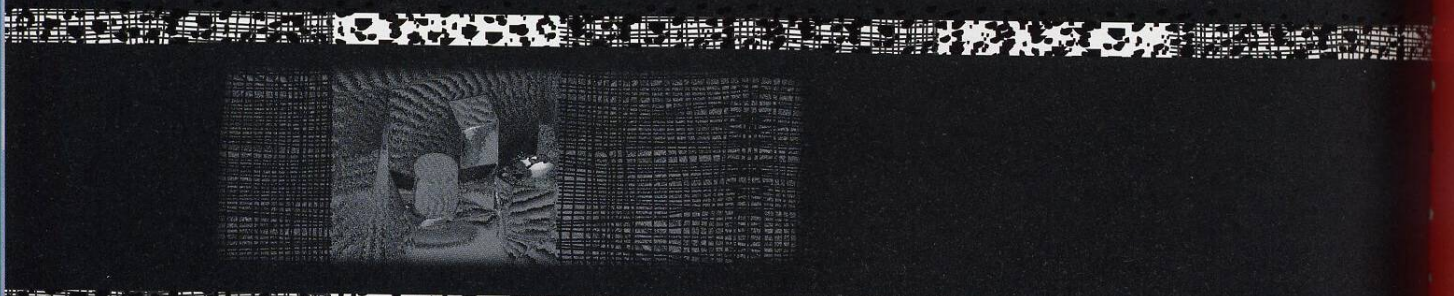
Children

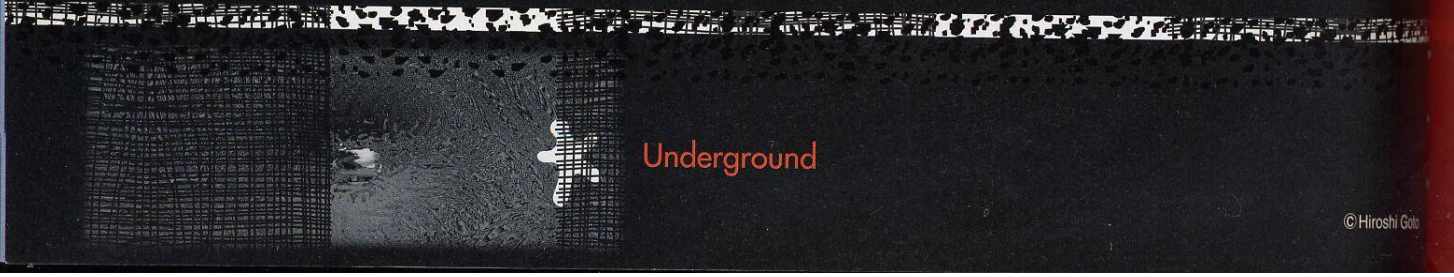




Book







Underground

© Hiroshi Gato

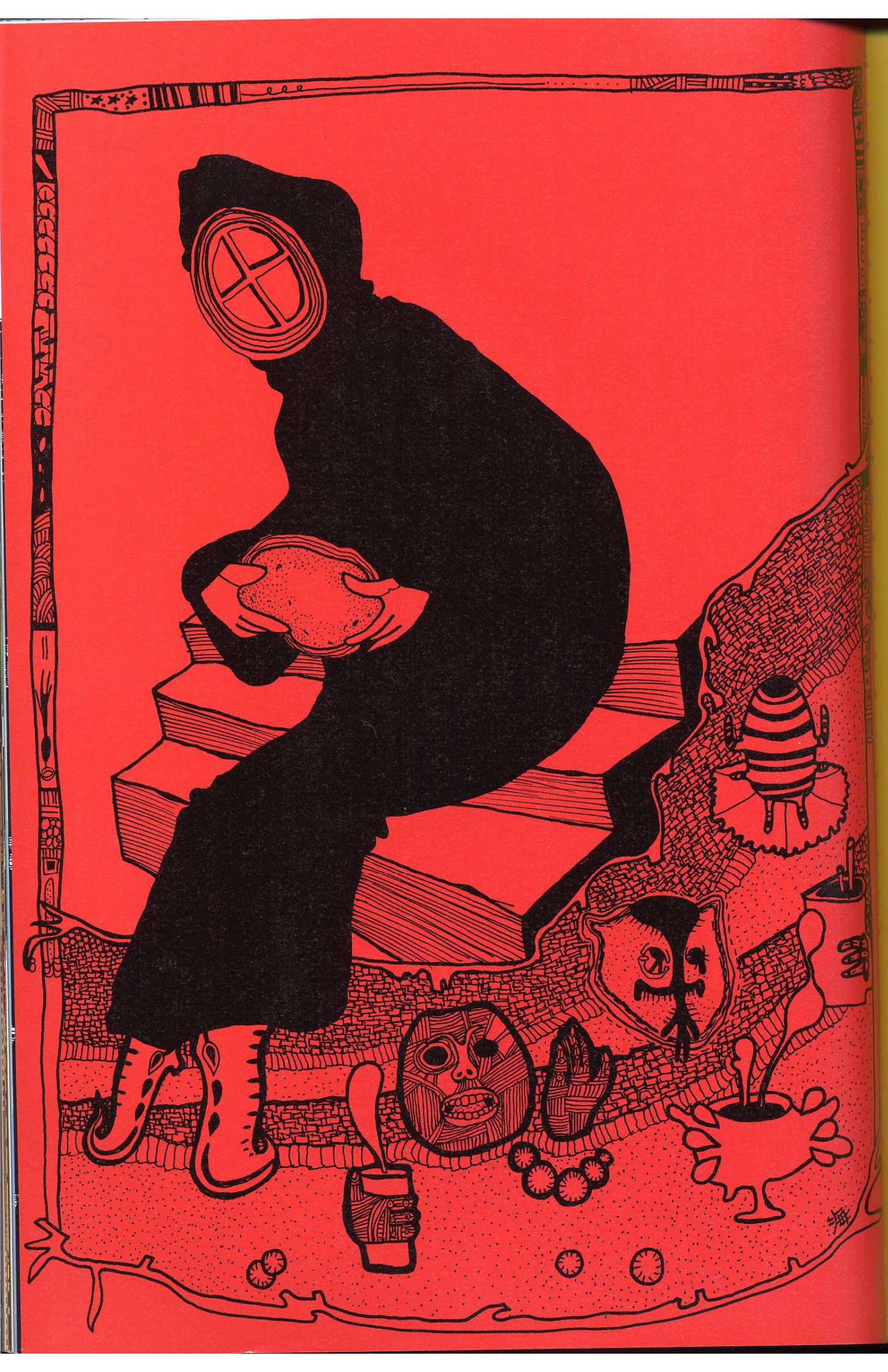
画　後藤宏
Artwork by Hiroshi Goto

1989年8月27日(日)
本を埋める

本を埋める。深く深く掘った地面の中に。こども達の教育のためにそうするのだ。

Wednesday, September 27, 1989
"Burying a Book"

I'm burying a book. Into the deeply dug ground. I'm doing this for the education of children.



198
奇妙

どこか
夢で見
のよう
の頭を
り、紐
細長い
と降り

We
"Bi

I'm
beca
a dr
I see
hea
with
vest
on t
to t

画
Art

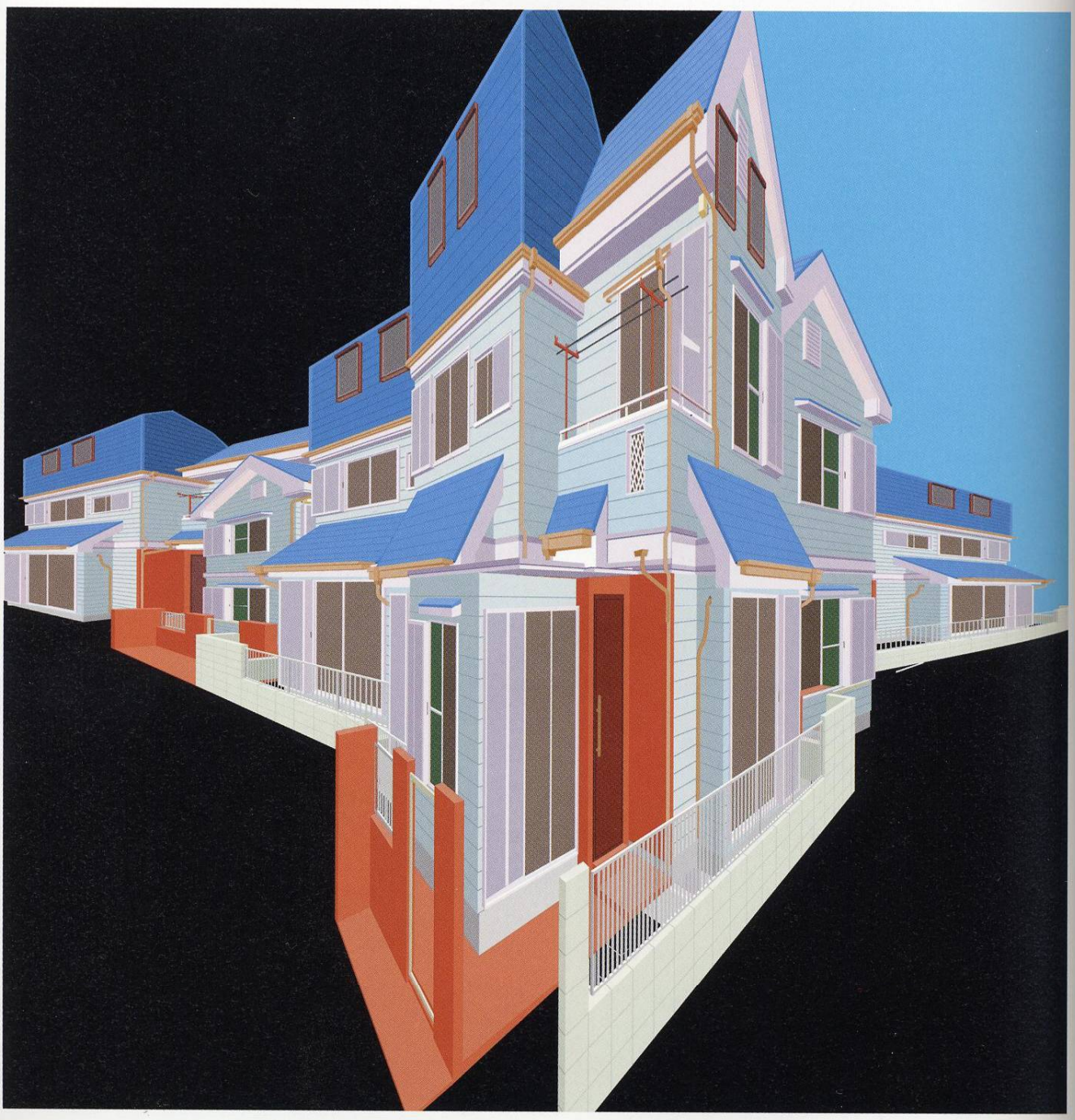
1989年9月27日(水)
奇妙な人

どこかの世界を探険している。ファンタジーみたいな世界だ。私はここを1度夢で見知っている。だから1度見た夢をまたなぞっているみたいなのだ。中世のような石の階段を上っていくと、人工の四角い池のまわりに、蛇の体と人間の頭を持った奇妙な人達がいる。彼らは中世の貴族のように羽飾りの帽子を被り、織物の胴着を着て、手には大きな杯を持っている。私は、その奇妙な人の細長い体に大きな石を載せて動けなくしてしまう。そしてまた石の階段の下へと降りていくのだ。

Wednesday, September 27, 1989
"Bizarre People"

I'm exploring some world. It's a fantasy world. I know this place because I've seen it in a dream before. So, it feels like I'm re-experiencing a dream I once had. Going up the medieval-looking stone staircase, I see some bizarre people with the bodies of snakes and human heads, standing around a square pond. They are all wearing hats with feather ornaments, like medieval aristocrats, clothed in woven vests, and holding large goblets in their hands. I put big stones on their long bodies so they can't move. Then we walk back down to the bottom of the stone staircase.

画　萩谷海
Artwork by Umi Hagitani



19
真

迷路
その
光に
猫が
昼の

We
"A

Ala
in o
The
the
I'm

画
Artw

1989年10月4日(水)
真昼の夢

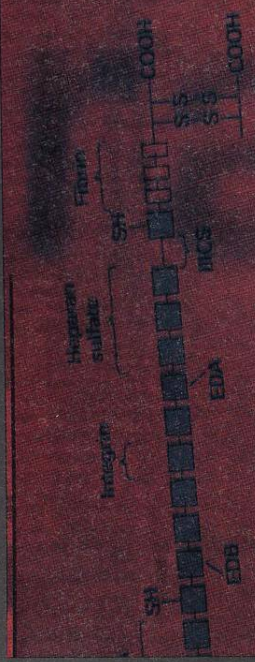
迷路のような街。曲がりくねった路地が、神経のように絡み合っている。私はそのひとつの路地にいる。そこは、天窓からか入口からか光が差し込んでいる。光に照らされるように、冷蔵庫の前のたたきに牛乳がこぼれている。不思議な猫がやってきて、その牛乳を舐めている。私はその傍でそれを眺めている。真昼の夢のような景色。

Wednesday, October 4, 1989
"A Daydream"

A labrynthine town. Winding alleys intertwine like nerves. I am in one of the alleys. There, sunlight comes in through a skylight. There's some spilt milk on the floor in front of a refrigerator, reflecting the sunlight. A strange cat comes and laps up the milk on the floor. I'm right next to the cat, watching. A scene just like a daydream.

画　松下計
Artwork by Kei Matsushita

Entrails of a rabbit



■Entrails of a rabbit

I saw there were several entrails of rabbits. Someone said th

liver.

And another one said that you should eat one of entrails to t

plucked its fur and was taken apart each body. It was strange

It looked like an unreal event, there was no blood, quite silen

a concert with no sounds, a play with no player.

1989年10月4日（水）
兎の内臓

兎の内臓がいくつか置かれている。これは大変美味しいのだと、誰かが言う。その内臓は、乾燥した大きなレバーみたいだ。また他の誰かが、この内臓の皮を引っ繰り返して食べるのだとも言う。私は、兎が毛を剥がれて解体されているシーンを思う。不思議と生々しくなく、血の1滴すらこぼれない情景。音のない演奏会、役者の出ない芝居。

Wednesday, October 4, 1989
"Rabbit Entrails"

There are some rabbit entrails. Someone says they are really tasty. They look like a bunch of big dried livers. Someone else says to eat them after flipping the skin inside out. I picture a rabbit being skinned and taken apart. Strangely, the image is not at all graphic; not a drop of blood spills. A concert without music. A play without actors.

Artwork by TGB DESIGN

19
水

の
な
か
ズ
る
け
こ
う
て
か
達
よ
家
き
ら
ン
え
掛
そ
ろ
し
上
私
の

Fr
"W

The
a bi
are
a wa
len
lens
and
old
the
out
me.
the
ope
the
and

画
Shi

1989年11月10日(金)
水猫、寺院

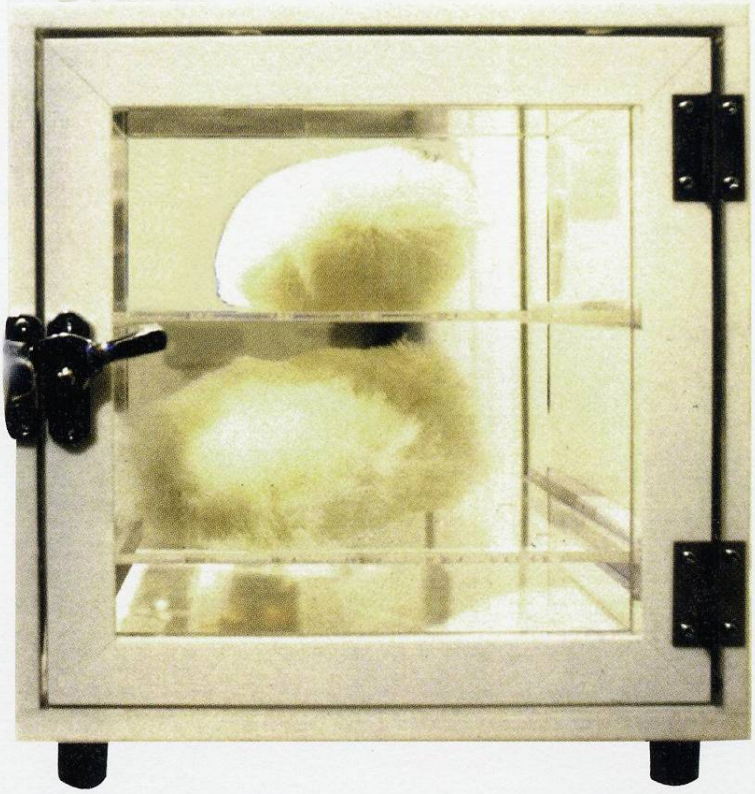
家の中に大きな池がある。そこで泳いでいると、体が真ん丸に膨れあがった大きな猫が浮いている。水猫というのだ。私達はとても仲良しだ。猫はとても柔らかくて抱き締めると、暖かい気持ちになれる。この猫は、私がコンタクトレンズを外している間だけ一緒にいることができる。コンタクトを付けてよく見えるようになると、水の中に戻ってしまうのだ。私は黒い服と上着を着て、出掛けていく。街では、秩序のない若者達でいっぱいだ。昔の中学へ逃げ込む。そこは、うっそうとした森の中にある。苔むした塀の上によじ昇って、中へ入ろうとするが気持ちの悪い魔物たちが邪魔をして入れない。塀の上を右往左往していると、いつのまにか私の後に水猫がついてきている。私と水猫は、塀の上から降り、正門の方へまわってみる。寺院のような正門。中から扉を開き、私達を招き入れようとする人がいる。中へ入ってみると、暗い蝋燭の灯った寺のような場所に、橙色の着物をきた人々がいる。

Friday, November 10, 1989
"Watercat, Temple"

There's a big pond inside the house. I'm swimming in it and see a big, bloated cat floating in the water. It's called Watercat. We are very good friends. It's really soft, and hugging it gives me a warm feeling. This cat can only be with me when I have my contact lenses out. He goes back into the water as soon as I put my contact lenses back in and can see well. I put on my black outfit and a jacket, and go out. The town is full of juvenile delinquents. I run into my old junior high school. It's located in a dense forest. I climb up the mossy wall and try to get in, but grotesque demons keep me out. I'm running back and forth on the wall - Watercat is following me. Watercat and I jump off the wall and decide to go around to the main gate. The gate looks like a Buddhist temple. Someone opens the gate from the inside and tries to beckon to us. Once inside the gate, there's a temple-like place illuminated by dim candles, and people in orange kimonos.

画　いしいしんじ
Shinji Ishii

two hairballs



are living in the box.

©1997 Motomiya

1990年1月16日(月)
猫達の帰宅

白猫と三毛猫が新しい家へ帰ってきた。猫達は、2階の両親の部屋へ入っていった。三毛猫は、捨てていかれたことを怒っている反面、戻ってこられたことを喜んでいるようでもある。それらが入り交じって興奮して父の腕に噛み付いている。噛み付いたまま、なかなか離さないでいるので、私は傍にあったティッシュの箱を投げつけて大人しくさせようとするが、体が動かない。えいっと思って動いたら目が覚めてしまった。再び夢に戻っている。さっきこんな夢を見たと父に話したら、それでは皆で猫を迎えに行こうということになる。私と兄と父と母と4人でバスに乗って祇園の家へ戻る。すると、物干しのところに白猫が弱ってうずくまっている。あちらこちらから布切れ等を集めてきて、自分で巣のようなものをこしらえたようだ。駆け寄ると、猫は弱々しく哀しげな、そして機械のような声で、「会えてよかった。会えてよかった。」と繰り返して言うのだ。初めて聞いた猫の声がとても哀れで、私は胸が一杯になる。誰かにくくり付けられていた様子で、猫はすっかり弱っている。私達は、しっかりと猫を抱えて新しい家に戻ってきた。

Monday, January 16, 1990
"Cats Coming Home"

My white cat and calico cat came back to our new house. Both of the cats go upstairs into my parents' room. The calico cat is angry for having been abandoned, but at the same time, seems very happy to be back. These feelings are all mixed up in his mind, and he is biting my dad's arm in excitement. It won't let go, so I want to grab a box of Kleenex to throw at it to calm it down, but I can't move my body. I gather my strength to try again, but I woke up instead. I'm back in the dream again. I tell my dad about the dream I just had, and we all decide to go pick up the cats. Four of us, my mom and dad, my older brother, and myself, get on the bus and return to our house in Gion. Then we find our white cat, weak and curled up out where we hang the laundry. It seems to have made a nest-like place by collecting pieces of cloth from here and there. As we run towards it, it repeats in a very weak, sad, and mechanical voice, "So good to see you... So good to see you..." The voice of the cat, which I hear for the first time, is so pitiful, and I'm overwhelmed. It seems like it had been tied up there by someone, and it looks so feeble. We come back to the new house hugging the cat tightly.

画　本宮かをる
Artwork by Kaoru Motomiya

c.e.f.o.<a.z.b.>

1990年3月29日（木）
鯨の尾鰭の行進

鯨がこどもを産むために川を上っていくというニュースが街を賑わせている。街のあちこちの川で、鯨の尾鰭が進んでいくのを見たとかいう市民からの情報がテレビに寄せられている。黒い大きな尾鰭はとても立派なもので、その姿だけからでもとてつもない大きさの鯨たちが一斉に街を越えて上流を目指して進んでいると思われる。しかし浅いはずの川の水面に尾鰭だけしか見えないのは不思議だ。テレビで近くの川を鯨が進んでいくのを見た私は、急いでそこへ駆けつける。すると、舞台セットのような尾鰭が川を進んでいくではないか。不思議な光景だった。

Thursday, March 29, 1990
"Whales' Tails on the March"

The news has been spread in town that whales are going up the rivers to lay eggs. Lots of tips have been coming into the TV station from town citizens who have seen the tail fins of whales marching up rivers everywhere. These big, black tail fins are very impressive. You can tell that these are gigantic whales, just by looking at the fins going across town and up the rivers together. But it's also strange that nothing but their tail fins can be seen, since the rivers are so shallow. Watching the live TV broadcast of the march in the river near my house, I rush down to the site. The marching whale tails look just like a stage set. It's a very weird scene.

Artwork by a.z.b.

1990年4月4日（水）

島からの脱出

小さな島。ここから脱出しなければならない。残っていた人々が最後の船に急いで乗り込む。風が吹いている。嵐がやってきそうだ。船は10人も乗れるか乗れないかというほどの小さなもの。私も最後に乗り込むが、すぐ後の船の縁がなくなっており、いつ浸水してきてもおかしくない。海は嵐で荒れている。はやく戻らなければ。私達は中国大陸の近く、本土の近くの島にいる。

1990年4月4日（水）

泳ぐ

体育館のような大きな場所。ふわふわと空を飛んでいるようだ。さっきの島から脱出してきたところのような気もする。体育館では皆がふわふわと空を泳いでいるのが当たり前だ。風船のようなものにつかまっている人もいる。そして、空中で互いに話を交わしあうのだ。体育館の外は暗闇だ。私達は、この暖かい、明るい温室のような体育館でふわふわと空を泳いでいる。

1990年4月18日（水）

エレベーター・金魚

地下の駐車場は暗くてしかも広い。地上の明るい光が差し込んでいる。骨組みだけのエレベーターに乗っている。そしてこのビルも骨組みだけになっている。骸骨のような建物の中を骸骨のような箱が上がったり下がったりしているようなものだ。すべてが丸見え。私は、小さな金魚をビニール袋に入れて下げている。そして小さな金魚鉢も。部屋に戻ったら金魚をその鉢に移してやるのだ。しかしエレベーターは部屋には着かず、いつまでも上昇し続ける。こどもを連れた母親が乗ってきた。私達は、下のにぎやかな遊園地のような駐車場を眺める。私はこどもに、金魚をあげようかと言う。でも子供は、その金魚の入っている水は汚いからいらないと答える。そういえば水は黄色く濁っている。そのうち、親子はいなくなり、私は骸骨のようなエレベーターに乗ったまま、建物の屋上へまで来ていた。体がねじれて、もっていた金魚の入っているビニール袋もねじれている。子供の声がして、金魚がねじれて死んでいることに気づいた。

1990年5月8日（火）

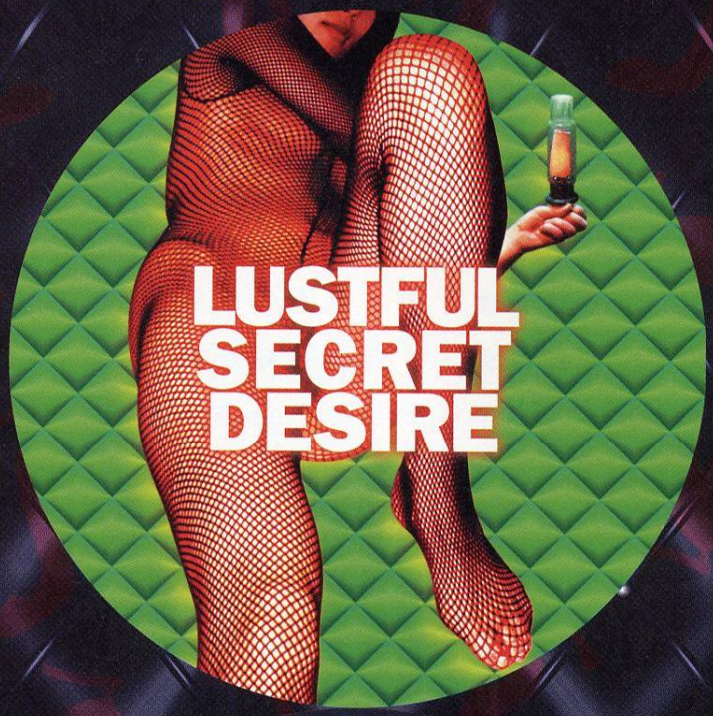
祈り

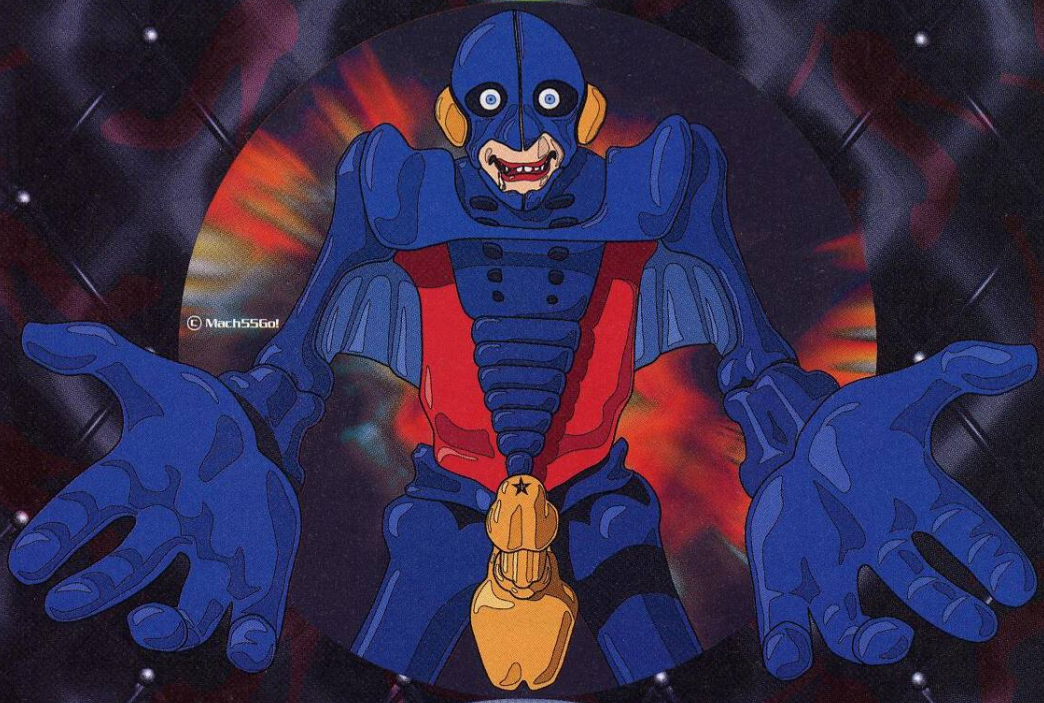
私はタクシーに乗っている。タクシーは山道を分け入り、次第に寺の山門のような場所へ入り込んだ。運転手は、私を観光案内に連れていってくれているのだ。山門の低い石段を車で上がり込み、山門のすぐ前で車を停車した。古い老木でできた山門を見上げる。朱色の鳥居のようにも見える。私と運転手はここから歩いて中に入る。白い境内にはまばらに人がいる。寺の中へ入って、お賽銭を投げ込む。運転手も何か祈っている。私はまずひとつめのお祈りを長い時間かけて祈り、それから思い付いてまたふたつめの祈りを祈り始めたのだが、運転手がもう行こうと促すので、短くしか祈れなかった。何かとても大切な人々のことを祈っていたような気がする。次の間に入ると、そこは土間で、小さな瓢箪池とその真ん中に橋が渡してある。池の向こうは出口で、そろそろ僧達が扉を閉め始めている。何やら暗くなってきた。運転手が、もう閉門するから早く出なければいけないような事をいった気がした。しかしまだ幾人かの人々が池のまわりに立って、賽銭を放りこんだりしている。
池の水面は、黒緑にゆるく濁っていて、底無しに深いらしい。私はそこにもふたつ分お賽銭を放りこむ。開いた出口がひとつになった。そこから表の白い光が差し込んでいる。私達はそこから出ていった。

1990年7月8日（日）

刀

私は刀を持っている。小さな船の上で、誰かとふたりで話をしているうちに、私にはどうしてもその人を許せない事情がでてきた。刀に手がかかる。その人も刀を持っている。しかしその人は、自らの刀で腹に細い線を描くようにして自分を傷付けてしまった。その人はゆっくりと時間をかけて死んでいく。私はその人がほんとうに死んでしまうまで、船の傍らで見続けている。そしてその人が死んでしまうと、私は四角い棺のようなかたちの船の縁を歩く。私の持ってた刀で船の縁に触れると、刀の触れた部分に小さな炎が点く。私はゆっくりと船のまわりに火を点けていく。船が炎で巻かれ始めると、私は桟橋へ向かって水面へ飛ぶ。水面はまるでゴムのように弾力がある。水面を何度かジャンプして桟橋へ戻る。船は炎の棺のようだ。桟橋へ戻ると、水面は普通の道路に変わり、燃えている船は燃えている車へと変わり、駐車していた外車にぶつかりながら、通りの向こうへ漂うように進んでいく。私はその燃える車を見ながら、自分がその人を殺してしまった気がしていた。





1
S

テ
る。
い
い
分
れ

M
"S

It
ap
ha
he
co
on
br
ap

画
Ar

1990年9月17日(月)
SMショウ

テレビかステレオをつけると、ブラウン管もない部屋の中に映像が映し出される。茶色い髪の、赤い猥雑な衣装と赤いハイヒールをつけた女性が横たわっている。彼女は、変な未来服のようなものを着た男性とセックスシーンを演じている。ふたりとも、女性の足の踵だとか胸の下部とかいった訳のわからない部分を触って喜んでいる。変態じみた雰囲気だ。これはポルノビデオなのかもしれない。

Monday, September 17, 1990
"S & M Show"

I turn on what might be a TV or a stereo. Inside the room, without a picture tube, an image is projected. It's a woman with brown hair lying down, wearing an obscene red dress and red stiletto heels. She is performing a sex scene with a guy in an odd, futuristic costume. Both of them are getting off on touching weird places on her body, like the heels of her feet and the undersides of her breasts. The whole mood is perverted. Maybe I'm just watching a porno flick.

画　マッハ55号
Artwork by Mach55Go!

1
ラ

パ
子オ
たそ
ら

S
"

A
a
s
h
s
e
l
i
g

画
A

1990年10月6日(土)
ライオンの逃亡

パノラマのような港が見える。たくさんの船が港に着いている。ライオンの親子が、追われている。父ライオンはどこかに連れていかれてしまった。子ライオンは、海軍の船長に追われて港を逃げ回る。そしてついに海へ落ちてしまった。しかし助かった彼は、船に潜んで父親のいる場所を探す。港の奥は、山道。そしてその奥に、参道、鳥居、神社がある。境内の石畳の向こうで父親が連れられていくのが見える。そこへ行くには門番が邪魔して入れないようだ。

Saturday, October 6, 1990
"The Escape of the Lions"

A panoramic harbor. There are many ships docked there. Two lions, a father and a child, are being chased. The father lion is taken away somewhere. The cub, chased by a navy captain, runs around the harbor and falls into the sea. He survives, and hides in a ship to search for his father. Further inside the harbor is a mountain trail, leading to an entrance path, torii, and a shrine. I can see the father lion being led beyond the stone pavement inside the grounds. A guard is blocking the way in.

画　千原航
Artwork by Ko Chihara

19
蛙

町
寺
る。
に
う
悪
ち
魚
た
時
戸
見
を
た
め
手
が

Tu
"C

Out
The
Abi
are
The
I'm
alo
an E
sma
disg
left

画
Art

1990年11月13日(火)
蛙を捕まえる

寺町三条を上がったところ、通りは深い川になっている。胸の辺りまで水がくる。その中に私はすっかり浸かっている。大きな金魚が、私の足元で死んだようになっている。私の裸足の指先にその金魚のぬめぬめとした肌が触れて気持ち悪い。川のほとりに家がある。その岸辺に水槽を置いて、私はそこで捕まえた魚やも草などを入れている。通りには、店が並んでいる。旧式の黒い扉。江戸時代の商家のような古めかしさ。扉はきっちりと閉められている。小さな蛙を見つけた私は、その蛙を捕まえようとする。手に蛙のやわらかい体を握り締めたが、その気持ち悪い感覚に驚いて目覚めてしまう。目覚めても、その感覚が手に残っていて怖い。

Tuesday, November 13, 1990
"Catching a Frog"

Out above the town of Teramachi Sanjo, the street is a deep river. The water comes up to my chest. I'm totally immersed in the water. A big golden fish is lying near my foot like it's dead. My bare toes are touching the slippery skin of the fish and it's really disgusting. There's a house by the river. Placing a fish tank on the river bank, I'm putting some fish and algae from the river in it. There are stores along the street. An old-fashioned black door. It looks as old as an Edo period merchant house. The door is firmly shut. I find a small frog and try to catch it. I'm squeezing its soft body, but the disgusting feeling woke me up. Even after I was awake, the feeling left in my hand scared me.

画　榊和也
Artwork by Kazuya Sakaki

199

放水

ごつ
い川
する
水が
の格
かっ

Tu
"O

I'm w
the r
walk
start
rive
us sta
rolle

Artw

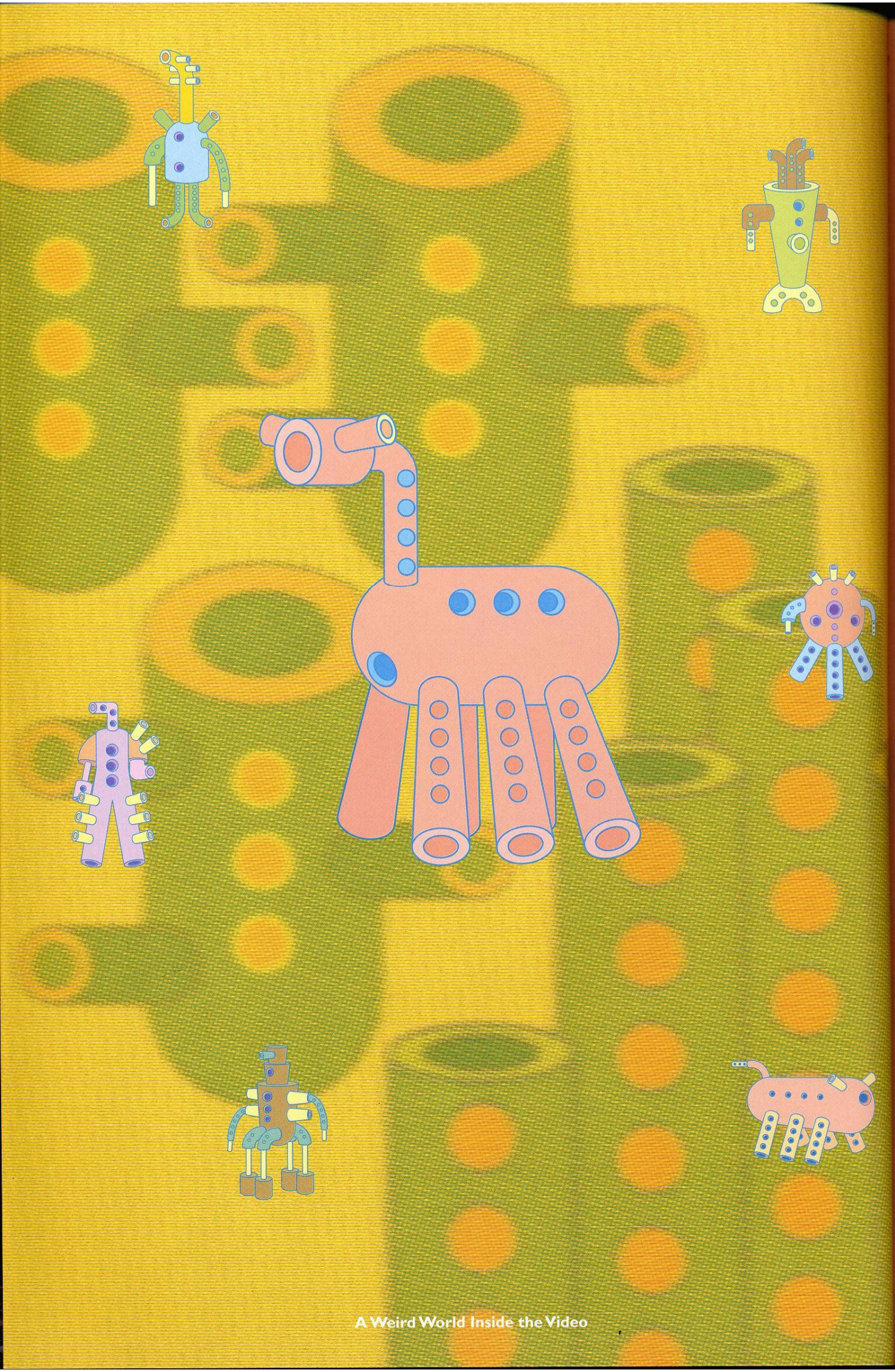
1991年2月5日(火)
放水された川

ごつごつした舗装されていない道を誰かと歩いている。道には水の流れていない川の跡が見える。私達はその土手沿いをどんどん上っていこうとしている。するとサイレンの音がどこからか鳴り響く。上方から大きなうなり声とともに水が流れてくる。私のいる土手にまで水飛沫があがる。水の流れとともに、龍の格好をしたジェットコースターのような船に乗った若者達が歓声をあげて向かってくる。

Tuesday, February 5, 1991
"Onrushing River"

I'm walking along an unpaved, rocky road with someone. I can see the remains of a dried-up riverbed on the road. We are trying to walk further up along the bank. Suddenly, the sound of a siren starts roaring from somewhere. Water starts gushing into the dead river from up above. The force of it is so strong, it even sprays us standing on the bank. Riding the flow, youngsters on a dragon-shaped, roller coaster-like boat come towards us screaming with excitement.

Artwork by KEN ISHII



A Weird World Inside the Video

199
ビデ

ビデ
た巨
ッシ
った
の山

We
"A

Whi
unfa
colo
crea
flow
over

画
Artw

1991年8月7日(水)
ビデオの中の不思議な世界

ビデオを見ているうちに、その世界に入り込んでいた。見たこともない変わった巨大動物や巨大花があちこちにいる。しかもカラフルだ。まるでマッキントッシュで作った動物や花の世界に入り込んでしまったような気もする。四角ばった恐竜、奇妙な花弁を何十にも重ねた巨大花。向こうに山が見える。みなその山のまわりでうろうろとしているようだ。

Wednesday, August 7, 1991
"A Weird World Inside a Video"

While watching a video, I find myself inside its world. There are unfamiliar gigantic animals and flowers everywhere. They are colorful, too. I feel like I'm lost in a world of animals and flowers created with a Macintosh. Square-shaped dinosours and gigantic flowers with dozens of layers of strange petals. I see a mountain over there. It looks like they are all wandering around the mountain.

画　南新太郎
Artwork by Shintaro Minami

19
変

か
合
互
青
置
な
立
の
な
性
銭
ど

誰
集
交
と
が
れ
て
そ
う
女
な
な

We
"U

I'm
It's
han
see
tog
clu
laur
her
see
The
no p
roo
from
and
in a
a sm
the

画
Arty

1991年8月7日(水)
変わった集合住宅

誰か年上の女の人と一緒に、少し変わった建築物を見に出掛けている。それは集合住宅で、室内に籐でできた赤と青の篭を吊してある。その赤と青の篭が、交互に室内に吊されているのが、その建築の特徴のひとつでもあるらしい。赤と青は、現代美術の作品のようにも見えるのだが、室内にはすでに雑多なものが置かれ、そこらじゅうに洗濯物やらいろいろなものが所狭しとあり身動きとれない。その部屋は老人夫婦が住んでいるようだ。私はその雑多さぶりに呆れて立ち尽くしている。向こうの棟の部屋の窓にもまた赤と青の篭が見えている。その部屋には連れの女性が見て歩いている。私はこれ以上見ても仕方がないような気持ちになった。雑多な室内から、住人に礼をいって外へ出ると、連れの女性が来ていた。外は、中庭のようになっていて、中央が窪んだところに小さな銭湯がある。小さなこどもがやっと通れるくらいの低い通路を抜けると湯槽などが見える。私はかがみながらその通路越しに、中の様子を覗いていた。

Wednesday, August 7, 1991
"Unusual Collective Residences"

I'm out with an older woman to see some unusual architecture. It's an apartment complex, and there are red and blue wicker baskets hanging inside the rooms. The combination of red and blue baskets seems to be what makes this architecture unique. The red and blue together look something like modern art, but the room is already cluttered with miscellany, and I can't move at all because of the laundry and things everywhere. It seems that an old couple lives here. I'm just standing in the room, amazed at the clutter. I can see a row of red and blue baskets in a room over in the other wing. The woman I'm with is walking around in that room. I feel like there's no point in looking around here any more. As I walk out of the scattered room after thanking the old couple, I see the woman standing in front of me. It's like a courtyard where we come out of the building, and there's a small sunken public bath in the center. I can see bathtubs in an open space beyond a small passage barely large enough for a small child to squeeze through. I bend forward and peer through the small passage to see what it's like back there.

画　ソリマチアキラ
Artwork by Akira Sorimachi

1991年2月4日（月）

復元された寝観音

足場だけの木造の組み立て建築物。まるでジャングルジム。もしくは寺。私はその足場の上にいる。誰かに案内されて。広い足場を下りていく途中の中屋根に、巨大な寝観音が4体ある。京都にいる頃に見たことがある。その時には頭から下の体は壊れていて、上半身だけしかなかった。今度やっと復元されたらしく、寝観音は長方形の屋根の上の4隅にそれぞれ位置し、大きな体全部をゆうゆうと寝そべらしている。屋根の向こうには海が見える。だから寝観音は海を眺めて寝そべっているような格好。とても気持ちのいい風景だ。

1991年5月22日（水）

満月を見た

とんでもなく大きな満月が、手の届きそうな、すぐそこの空にぺたんと貼り付いている。平たい、白い、何だかぺらぺらした月だ。ああ、そうか今日は満月だったんだと思う。とてもきれいな正円の、真ん丸い大きな満月だった。

1991年5月22日（水）

ヤクザの親分

まるでヤクザの親分みたいな人と一緒にいる。

1991年5月28日（火）

物干しの上

祇園の家にいる。物干しの上には大勢のこども達がたむろしている。変なのだが、屋根の上に皆集まっているのだ。私は女の子達を追い払おうとしている。するとまわりにいた男の子達が、ビートルズだったことに急に気付いた。

1991年6月2日（日）

馬的士の話

タクシーを呼び止めると、それは馬だった。運転手は、馬を牽いている。最近のタクシーの中にはこういう馬的士（うまタクシー）というものもあるらしい。私が行き先を告げてその馬に乗ると、運転手が先に走りだす。馬も運転手に牽かれて走りだす。住宅街を抜けていく。千駄ケ谷方向へいくにはこれが近道なのだ。しかし住宅街を抜けると一方通行で、先に進めない。車に混じって、馬的士が走る。一方通行の道をやめて、再び住宅街へ。右へ回って、細い石段を上る。これが近道らしい。馬的士ならではの近道だ。階段をあがると駅の構内だ。馬的士はそこも簡単に通り抜ける。しかし、なかなか目的地へはつかない。何だか失敗したような気がする。

1991年8月6日（火）

原っぱの布団

原っぱのような学校の校庭のような場所にいる。そこには、いくつもの布団が1面に敷かれていて、皆それぞれの寝床を持っている。蟻が歩く湿った草地の上に、直に布団が敷かれているのだ。私は蟻が気持ち悪い。私の寝床は端から4番めか3番めにあったのだが、うろうろしているうちに誰かに取られてしまった。仕方なく1番端の寝床のところへ行ったら、寝床を半分分けてくれるという。

1991年8月10日（土）

海の近くのコンプレックス

港の近く。ボンドストリートのような場所を歩いている。大きなショッピングコンプレックス、通りをはさんで巨大駐車場がある。巨大駐車場は、円形のドームが渦巻いているようなかたちで、a.z.b.の模型にそっくりだ。私はそこを誰かと歩いている。寂しい海風が大きくうねる空をみながら、巨大な場所で迷子になったみたいな気持ちになる。通りに観光バスのようなものが停まっていて、人が下りたり入ったりしている。私はどこに属しているのだろう。

1992年1月25日（月）

TWIN PEAKSの夢の中での再放送

テレビで放映されているTWIN PEAKSとそっくり同じシーンが夢の中にでてくる。第1章のところからずっと同じ。終わりに何かちがう夢の中に紛れ込んでいったが、その後の夢はよく覚えていない。

1992年2月24日（月）

大谷探検隊の発見した正方形の穴の遺跡

大谷探検隊がインドか中国の奥地へでかけていって、新たな遺跡を発見したらしい。そこは、人がひとりようやく入れそうな小さな正方形の穴が、砂地の地面にぽっかり開いているだけのものだ。しかしその穴の深さは、計り知れない。夢の中では、その穴についての正確な深さと形状についての数値がきちんと出ていた。探検隊はその深い正方形の穴にひとりずつ降りていき、遺跡を探険したらしい。私はニュース映画を見るように、その映像をどこかから見ていた。

1 9
か

何 か
て い
短 い
体 か

T
"F

l'm
ma
lik
sh

画
Ar

1992年3月5日(木)
かよわいいのち

何か人形もしくはそれに似た、機械か、オブジェのようなものを何体もつくっている。それは、物凄くかよわい、いのちだ。痛々しくて、弱々しい。まるで短いいのちを決定づけられて生まれてきたようなもの。蜻蛉のような羽をその体から生えさせ、白い少女のような形をしている。

Thursday, March 5, 1992
"Frail Lives"

I'm making lots of objects - dolls or something similar, maybe machines. They are alive, extremely frail. Painfully weak. It's like they're born having only a short time to live. They're white, shaped like young girls, and their bodies grow wings like dragonflies.

画　所幸則
Artwork by Yukinori Tokoro

19
シ

隣の
た大
って

Th
"S

It l
me
gra
hel

画
Ar

1992年3月5日(木)
シンメトリーの双子

隣の家のおばさんが気が狂ってしまったみたいだ。私はご飯粒のいっぱい付いた大きなお茶碗を食べさせられる。曾祖母が双子になって、シンメトリーになっている。曾祖母はいつも私を助けてくれるのに、今日は助けてくれない。

Thursday, March 5, 1992
"Symmetrical Twins"

It looks like the old woman next door has gone crazy. She is forcing me to eat a big bowl, with lots of rice grains stuck to it. My great grandmother has become symmetrical twins. She would usually help me, but not today.

画　太公良
Artwork by Kimiyoshi Futori

19
バ

バス
らレ
が彼
が、
いる
に、

Tu
"T

I'm
to g
kno
up s
jus

画
Art

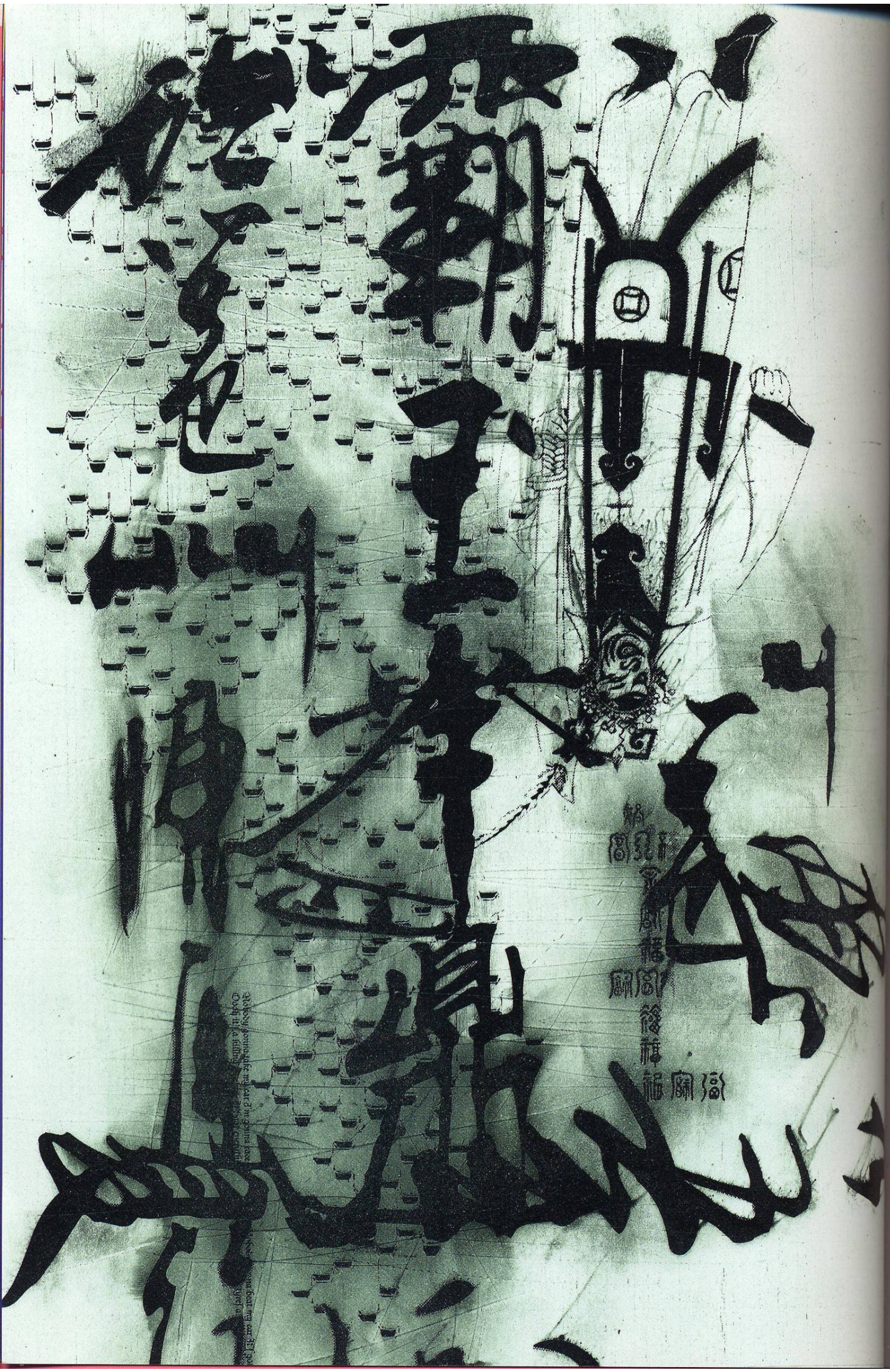
1992年6月2日(火)
バス

バスに何人かの女性と一緒に乗っている。彼女達は若い。でも彼女達はこれからレイプされるために、めいめいの降りるべき停留所で降りていくのだ。それが彼女達の決められたことだ。彼女達はそのことを厄介なことだと思っているが、そのあと皆とどこで落ち合うかについて待ち合わせの約束をしたりもしている。よくわからない。1番めの女性が、彼女の受けるべき運命と出会うために、停留所で降りていった。

Tuesday, June 2, 1992
"The Bus"

I'm on the bus with a few women. They are young. But, they all have to get off at assigned stops, to be raped. That's their fate. They know how terrible it will be, but they are also making plans to meet up somewhere later on - I really don't understand. The first woman just got off at the bus stop where she will face her destiny.

画　常盤響
Artwork by Hibiki Tokiwa



19
処 刑

粗末な格好
低い中
りの男
紐を
が首を
って

Fri
"Th

Peop
are f
to be
look
exec
outs
it arc
is me
arou

画 打
Artw

1993年4月9日(金)
処刑

粗末な小屋のようなところに何人かの人々が集められている。彼らもまた粗末な格好をしている。外は冬のようだ。ここは収容所のような場所らしい。背の低い中国人の祭司のような者がやってきて、皆を処刑するといっている。ひとりの男を引っ張り上げて、外へ引き出すのかと思うと、いきなりその場で太い紐をだして、首を絞めはじめた。その首を絞められている男は、私だ。太い紐が首を絞めつける。まわりに恐怖の波がざわめいているのを感じる。意識を失って倒れてしまった。

Friday, April 9, 1993
"The Execution"

People are being brought to some kind of a filthy shack. Their clothes are filthy, too. It seems to be winter outside. This place is supposed to be some kind of a concentration camp. A short Chinese guy who looks like a priest comes in and announces that they will all be executed. He pulls up one of the men. I thought he would take him outside, but he pulls out a thick rope instead and starts winding it around the man's neck right then and there. The man being choked is me. The thick rope is choking my neck. Waves of terror are rushing around my entire body. Then I faint.

画　打越俊明(錦瓊)
Artwork by Toshiaki Uchikoshi(King Cay Lab.)

199
京都
バスに
方へ
三条
の作
抱い

Mo
"K

I'm
San
I got
to H
by a
littl
hol

画
Art

1993年5月24日(月)
京都

バスに乗って、夢の中の京都へ向かっている。東山三条。ほんとうは河原町の方へ向かいたいのに、なぜか反対に遠回りをするバスに乗ってしまった。東山三条の入口で降りると、その商店街には人形を作る老人が店を開いていた。彼の作る人形は、等身大の大きさの艶かしい少女だ。彼は店の入口にその人形を抱いて座っている。

Monday, May 24, 1993
"Kyoto"

I'm riding on a bus, heading towards an imaginary Kyoto. Higashiyama Sanjyo. I want to go towards Kawaramachi, but for some reason I got on the bus that takes the long way around. I get off at the entrance to Higashiyama Sanjyo, and in the shopping arcade is a store run by an old man who makes dolls. The dolls he makes are seductive little girls of actual size. He is sitting at the entrance of the shop, holding one of the dolls.

画　深津真也
Artwork by Shinya Fukatsu

1993年3月31日（木）

夢の中にある、もうひとつの京都

四条通りから縄手通りへ上がっていく。私は誰かデビッド・ボウイみたいな男性と一緒に歩いている。石畳の道を歩いているうちに、私はその人に、いつも夢の中で架空の京都の町にいることを打ち明ける。それは、本物の京都に非常に似ているのと同時に、まるで異なった街でもある。本物をコピーして、それを下敷きにしてまるで違った街を創り出したみたいなのが、夢の中にある京都だ。そう話しながら私は、いま自分の目に映っている石畳のリアルさに目を奪われる。きっといまは目覚めている現実で、私は自分の夢のことを誰かに話しているのだと確信していた。一緒にいたその人に、白川の小道を見せたくなって案内する。でもそこは行き止まりだった。ここはまだ夢の中のもうひとつの京都だということを忘れていた。私が入り込んだ小道には、白い清潔な石畳に囲まれた池が中央にある。そこは何か祭られた社だったのか、それとも何かの記念碑だったのか。それで、私はまだ夢の中にいるんだということがわかった。私は前にもこの場所を夢の中で歩いていたではないか。そうだったんだ。

1993年9月8日（水）

浅蜊の亀肉

780円パックの牡蛎と浅蜊の詰め合わせをふたつも買ってきた。でも開けてみると、牡蛎はただの大きな古木のかけらで、浅蜊には亀の肉が入っていた。浅蜊を味噌汁にして食卓にだした。すると、食卓を囲んでいた派手な化粧をしたおばさんが「この亀の肉は固い。きっと安物の亀肉を買ったんでしょう。」という。食べてみるとそうでもないのだが、彼女は食べ物、特に亀の肉には高いお金を出すらしい。私はそれより、浅蜊の貝の中身が亀肉であるという事実の方に驚いている。浅蜊がぽっかり口を開けると、浅蜊の肉のかわりに小さなこどもの亀が中に入っていたのかもしれない。

1993年11月13日（日）

地下の世界、船、黒髪の青年

私達は幾人かの人々と不思議な船に乗っている。地下を走る船。まるで遊園地のダークライドみたいだ。でもそれは偽物の地下の世界ではなく、本物の地下の世界だ。私達はそこでの旅を終えて、ようやくビルの何階かの出口へたどりついた。ビルのフロアへ船を乗り付けてから降りる。ビルの窓から通りが見える。夜の街、照明に照らされた通りに、黒い髪の男性が立っていた。彼は目が合うと、2、3階はある建物へジャンプして上がってきた。よく見ると、知っている顔だ。あんなに小さなこどもがこんなに大きくなったのかと思うと不思議だ。しかも彼は超能力を身に付けているようだった。それから我々は何か新しい計画について考えていかなくてはならない。

1993年12月7日（火）

土を食べる

事務所の台所を片付けていると、水道の蛇口のしたにぽっかりと穴が開いている。床の下の土の状態や、高速道路など、外が直接見える。その暗い土のところに何かがいるのもわかる。台所は片付いていて、きれいだ。私はそのきれいになった台所に何か動物の置物のようなものを置こうとしているところだ。暗闇の中にいる気配が、私に、土を食べさせた。口のなかに、じゃりじゃりとした感触と、冷たい湿り気を帯びた土の質感が広がる。その感じはずっと口の中に残っていた。

1993年12月24日（金）

救出

どこかの収容所に似た場所に囚われている。そのうちのひとりは、巨大な蜘蛛の巣につかまって死んでしまった。彼女はゆっくりと下半身から食べられていったので、しばらくの間は残っていた上半身が狂いそうに泣き喚いていた。そのうち、残った上半身のかけらは何もわめかなくなった。私達は救出のヘリコプターを待っている。

1994年2月23日（水）

足を舐める

誰かが狭い部屋の向こうにいて、それはふたりの中年の男性だ。片方の男性が、私の裸足の足をつかまえて舐めようとする。彼は足が好きなのだ。私は簡単な仕切りのような扉を必死で閉めて逃げようとするが、とうとう扉は押し開かれて足だけをぐいっと引っ張られてしまった。その部屋の壁には、スーパーの食料品コーナーがあって、そこからチーズや味噌などを取り出して私の足の指に載せて、彼はそれを丹念に舐める。しょうがないので私は、なぜか味噌田楽の味噌を選んで、彼に渡してあげてしまう。不思議だ。

1994年5月30日（月）

英語の授業とバッタの襲来

中学のときの英語教師が、あいかわらずわかりくい発音で黒板に書いた英文を説明している。彼女は英文の単語を置き換えて、SEXとかいった言葉に作り直している。黒板は、野外に置かれている。みんなはいい加減にその授業を聞いている様子だが、私はノートをとりながら、これが私の最後の授業で最後のノートになるかもしれないのだという思いで必死である。やがて、畑からやってきた人が、バッタが大量発生してきたから室内へ逃げなくちゃいけないという。その人の胸にもバッタがついている。でも案外みんな気楽な様子だ。

1994
頭、5

小さな
つの玉
る。ち
に使え

Tues
"AH

The fa
is a rov
"justi
and fri
someh

画　中
Artwo

1994年6月21日(火)
頭、5つの玉

小さな福助のようなこどもの顔が浮かび上がっている。その首の辺りには、5つの玉が並んでいる。それぞれの玉には、智・仁・義などの文字が書かれている。ちょっと宗教的で恐ろしい気もする。私はそれを見ながら、今度のゲームに使えるかなとも考えている。

Tuesday, June 21, 1994
"A Head, Five Balls"

The face of a boy like a big-headed dwarf is looming. At his neck is a row of five balls. Characters for words like"wisdom,""virtue,"and "justice" are written on the balls. They look somewhat religious and frightening. Looking at those balls, I'm asking myself if I can somehow use them in my next game.

画　中ザワヒデキ
Artwork by Hideki Nakazawa

199

腕を

ふたり
持って
家族は
も達は
の腕は
ってき

Thu
"Bo

Two n
just t
The f
who w
the to
It's d

画　谷
Artwo

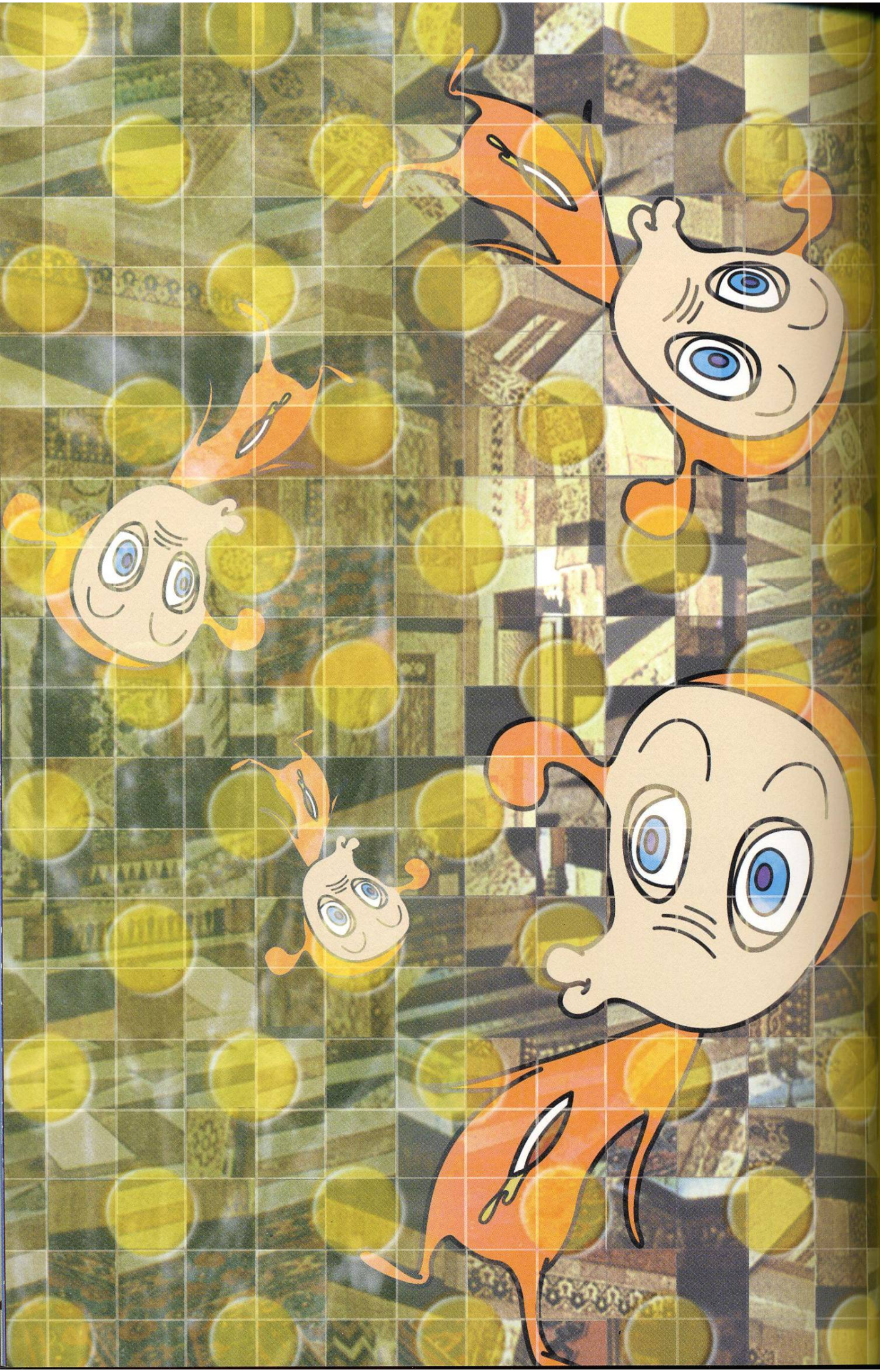
1994年7月28日(木)
腕を煮込む

ふたり組の男は、たったいま引きちぎってきたばかりの人間の腕を手みやげに持っている。1本の腕は、肘のあたりで折り取られて、ふたつになっている。家族は、食事を持ってどこかへ出掛けることになった。私の隣の席にいたこども達は、屋台のテーブルの上にさっきの食事を並べてまだ食べている。さっきの腕は、煮込まれてとても美味しそうに仕上がっている。これはついさっき持ってきたばかりの肉だから美味しいんだ。

Thursday, July 28, 1994
"Boiling Arms"

Two men are carrying, as souvenirs, human arms that they have just torn from some bodies. One of the arms is bent at the elbow. The family decides to go somewhere with their food. The kids, who were sitting next to me remain behind, eating their meal from the top of a pushcart. The arm has been stewed and looks very tasty. It's delicious because the meat is fresh.

画　谷田一郎
Artwork by Ichiro Tanida



199

オレ

宮殿み
宮殿。
ってい
口のま
コみた

We
"Or

A pala
and ch
sound
There
feel a
aroun
body
attac

Artwo

1994年9月7日(水)
オレンジゼリーの唇

宮殿みたいに豪華な場所。渡り廊下や、シャンデリアなどが飾られたまばゆい宮殿。廊下には、オレンジゼリー質の唇が、廊下に張り付いて笑っている。笑っている口の中には、すっぽり穴が開いていて、下へ落ちてしまうみたいだ。口のまわりのオレンジのカラダには、緑か黄色の奇妙な斑点があって、毒キノコみたいだ。唇は、何かの罰として、その地面に貼り付けられているらしい。

Wednesday, September 7, 1994
"Orange Jello Lips"

A palatial, luxurious place. A beatiful palace with wide corridors and chandeliers. On one of the corridor walls is a pair of lips, laughing soundlessly on the surface of a mass of an orange jello-like substance. There's a big hole inside the smiling mouth, opening so wide I feel as if it were beckoning me to dive into it. On the orange body around the mouth are strange dots of green or yellow, making the body look like a poisonous mushroom. The lips seem to have been attached to the surface of the body as a form of punishment.

Artwork by GTO

199
ゲー

広い体
何か柔
うだ。
私はそ
しめる

Sat
"Ga

Insid
It's n
that v
games
The i

画 ロ
Artwo

1994年11月19日(土)
ゲーム体験

広い体育館の中に入っていくと、そこには、広大なプールがある。水ではなく、何か柔らかな空気のようなものが満たされていて、その中を宇宙遊泳できるようだ。ゲームをそこでヴァーチュアルリアリティそのままに体験できるらしい。私はそこでペンギンを探し出さないといけない。なんだか大きくてゲームが楽しめるので、愉快になってきた。

Saturday, November 19, 1994
"Gaming Experience"

Inside a big athletic hall, there's an enormous swimming pool. It's not filled with water, but with some kind of soft air-like stuff, that would let me play around in zero gravity. I can experience games there, like a virtual reality. I have to find the penguins there. The idea of playing a game in such a huge space is exciting.

画 ロボットメガストア
Artwork by Robot Megastore

ほのぼのどうぶつしSDまんが いぬちゃん 加藤賢崇

1995年4月10日(月)
スケート場、ダークサイドな夢の町

ドライブインの近く、昼も暗いスケート場。小泉今日子がいて、スケートをしている。彼女の恋人と一緒に。私もスケートを滑る。自分の足首を手で掴んで腰をかがめながら滑る。その滑っている感触が夢とは思えないほどにリアル。それからスケート場のコーヒーショップの方を見てから、ここは夢の中のいつもの場所だと気付いた。外の道をまっすぐ歩いていくと、きっとこのあいだの神社の境内があり、あのときは入らなかった料亭があるのだ。でも夢の中の京都は、最近変化を見せてきた。どうも近代的な町になってきているのだ。神秘的な怖い印象はそのままだが。ダークサイドな町ってカンジか。いつも、前に夢の中で行った場所を近くに感じながら、新しい夢の場所に入り込んでいる感じがする。

Monday, April 10, 1995
"A Skating Rink, the Dark Side of a Dreamtown"

A skating rink near the drive-in, where it's always dark, day or night. I see Kyoko Koizumi there, skating. With her boyfriend. I'm skating too. Skating while crouching and holding my ankles with my hands. The feeling of skating is unbelievably real.
Then, looking over to the coffee shop by the rink, I realize that this is the usual place of my dreams. If I go straight on the road outside, there will be the grounds of a shrine I went to that time, and a Japanese restaurant I didn't go into last time. Yet the Kyoto of my dreams has been going through some changes lately. It's becoming more and more like a modern city. Although, the mysterious and scary impression still remains the same. It's like a town of darkness. I'm always entering new dreamscapes, feeling the closeness of the dreamplaces I've been before.

画　加藤賢宗
Artwork by Kenso Kato

199
奇妙

洗濯機
んの足
ところ
その生
た。気
よじら
たいの
に落ち

Tue
"Ke

On to
squid
to thi
of the
mach
attra
do ab
if it w
but it
the st
Oh, g

画　ソ
Artw

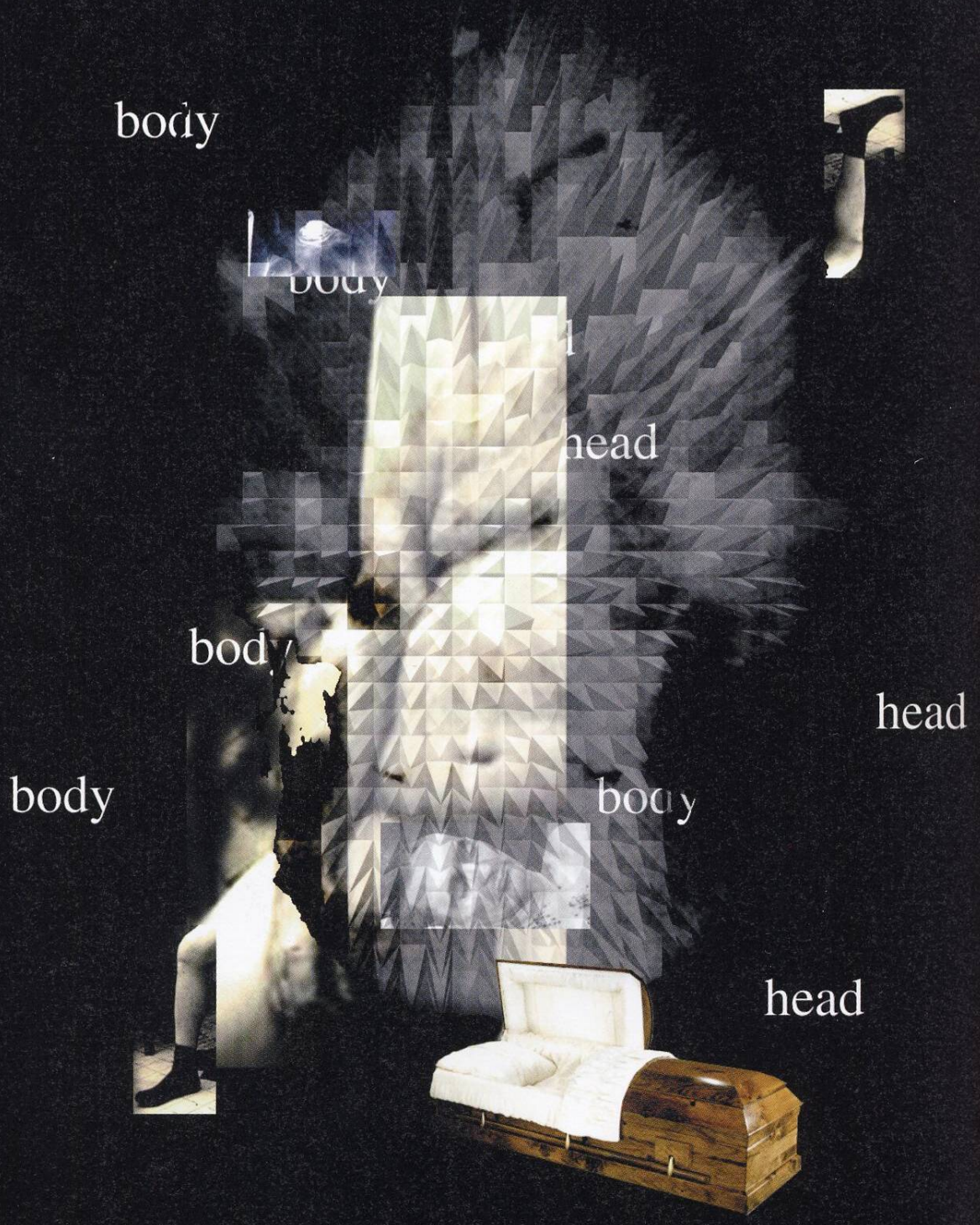
1995年5月30日(火)
奇妙な生物を飼っている

洗濯機の上にミミズのようなイカのようなタコのような、ぬめぬめしたたくさんの足のある奇妙な生物がいる。そういえば昔からその洗濯機の水道の蛇口のところに、それがいた気もする。洗濯機の横の洗面台から水を流した拍子に、その生物は水に惹かれるようにひょいっとぬめぬめしながら洗面台へやって来た。気持ち悪いけど仕方がない。かといって水を掛けると、具合悪そうに身をよじらせる。とりあえず、私はその生物をもといた洗濯機のところへ押し返したいのだが、うまくいかない。水をかけたりするうちに、洗面台と洗濯機の間に落ちてしまって、そこでぬめぬめとうごめいている。どうしよう。

Tuesday, May 30, 1995
"Keeping a Strange Creature"

On top of the washing machine there's a strange-looking, worm-like, squid-like, octopus-like creature with lots of slimy legs. Come to think of it, maybe this thing has always been there by the faucet of the washing machine. As I run the water in the sink by the washing machine, the creature slimes over towards the sink, as if it was attracted to the water. It's disgusting but there's nothing I can do about it. But when I sprinkle water on it, it twists its body as if it was sick. I want to shove the thing back onto the washing machine, but it's not working. I keep splashing water on it, it falls between the sink and the washing machine, and slimes around down there. Oh, great.

画　ソエジマケイタ
Artwork by Keita Soejima


body
head
head
body
head

1995年6月6日(火)
死体だらけの日

祇園の家。首の取れた死体や損傷のひどい死体が何体か転がっている。母と友達は、死体の入っている棺桶に手を突っ込んで、縫い針と糸を使って、傷口や取れた首を縫い合わせている。彼女達は割に平気でその作業をやっている。向かいの陽の当たる教会では、牧師が小さな女の子を抱えて教会の奥に連れ込もうとしてる。その教会の奥にもやはり、小さなこどもの死体が転がっているのだった。

Tuesday, June 6, 1995
"A Day Full of Dead Bodies"

A house in Gion. There are a few dead bodies about: one has no head, others are seriously maimed. My mother and some friends have their hands in the coffins, and are sewing up wounds and reattaching the severed head with needles and thread. They are working calmly as if it were housework. At a sunny church across the street, a priest is holding a little girl and trying to bring her into the church. There are bodies of children lying in the recesses of the church.

Artwork by Andrew Sutton

199

バイ

頭を半
取った
まなの
感心す
しかし
人間を
も、し
いて、
して、
して私
レンス

Mon
"A W

There
his wi
to see
open,
is all h
is so b
yet ma
I hold
her bo
arms t
her bo
holdin

画　鳥居
Artwo

1995年9月4日(月)

バイオレンスな街、頭を切り取られた人

頭を半分以上ぽっかりと切り取られた男の人が、妻と一緒に、自分の頭を切り取った犯人を探し回っている。脳味噌がなくなって、頭の上半分が開いたまんまなのに、けっこう人間は動いたり話したり出来るものなんだと、それを見て感心する。脊髄が残っていると大丈夫なんだと、彼は言う。そういうものか。しかし、ここはとても血生臭い雰囲気だ。私は女性のような体をした男性的な人間を、ふたり掛かりで押さえ付けている。彼女の手首を両手で押さえ付けても、じたばたしている。何かきっと妖怪のようなものが彼女の体に取り付いていて、こんな力が出るのかもしれない。彼女の手を縛ると、その紐を後ろに回して、くくった足首の紐と結ぶ。ここまでやれば、暴れないだろう。でもどうして私は彼女を押さえ付けているのか。なんだかさっぱりわからない。バイオレンスな街だからか。

Monday, September 4, 1995

"A Violent Town, a Headless Man"

There's a man who has more than half of his head chopped off. With his wife, he's looking for the criminal who did it to him. I'm impressed to see how a man can walk around and talk even with his head wide open, and without his brain. He says to me that the spinal cord is all he needs. That kind of makes sense, I guess. And yet, everything is so bloody. With someone else, I'm holding down an effeminate, yet masculine human. She won't stop moving around even though I hold down both of her wrists. Maybe she is so powerful because her body has been possessed by some kind of monster. I tie her arms together, bring the rope around her back, and connect it to her bound ankles. She shouldn't be able to move now. Why I'm holding her down I have no idea. Is it because it's a violent town?

画　鳥屋尾悟郎

Artwork by Goro Toyao

1995年3月1日（水）

ヤクザ鬼に追われて空中を浮遊しながら逃げ回る

笹塚の近くまで車で走ってきた。駅の測道を走ってるつもりが、そのうち線路にまではみ出して走ってしまう始末。駅前は前の夢でも来たことのあるところだ。あのときは、環7につながっていた駅前だ。次の瞬間には、駅前で女の子と一緒に歩いている。自分の部屋を彼女に教えようとしているのだが、中野通りはここから遠いことに気付いた。夢の中ではちょっと現実とレイアウトがちがうらしい。それで、彼女と私は部屋のあるマンションまで行かずに、左手にある空き地の神社のような場所に行く。そこにはヤクザのような鬼達がいて、私はいつのまにかふわふわと空中に浮き上がっていた。飛ぶのではなくて、空中を歩いてる、もしくはかろうじて浮いてるような感じだ。神社の屋根の高さまでは浮かぶのだが、それ以上はうまく上昇できない。これが限界みたいだ。地上のヤクザ鬼達は、棒を持ってきて、私を突き落とそうとする。私はなんとか手足をばたつかせて、かろうじて高く上昇し、その棒を交わす。けっこう大変だ。水の中で泳いでいるのにも似ている。彫刻の施された神社の屋根の裏表に回りながら、一生懸命空中を逃げ回る。不思議な感覚だった。そういえば夢の中の私は、連れの女の子のボーイフレンドだったらしい。

1995年6月9日（金）

空中を歩く操作方法

街路樹のある通りを曲がると、京都の新橋の辺りへ出た。私はハンカチのようなものを広げて、それを風にうまく乗せると、空中を飛べることを発見した。空気にうまく乗ったハンカチの両端に掴まって、自転車を漕ぐように足を動かせると、空中に浮かびながら前進できるのだ。方向性をコントロールするのに若干のコツがいる。ときどき地面へ落ちることもある。うまく操作しながら、新橋の小橋の辺りまで来ると、ちょうどその家の2階の勉強部屋に同級生がいるのが見える。家の角でうまく曲がらなくちゃいけない。彼女の部屋の外壁に足をぶつけて、うまく角を曲がる。その拍子に、彼女の影が少し見えた。あやうく気付きそうだったけど、私はもう空気の流れに乗ってずいぶん先の方へ進んでしまった。小橋の先には、他の同級生の家がある。私はその方向へ向かっている。これは小学校の通学路を辿っているんだと気付いた。

1995年10月24日（火）

ペットのいる世界、いなくなったイヌ

見慣れた場所だ。円山公園にも似ている。この世界では、皆ひとりに1ペット持っている。そして自分のペット以外には関心がない。猫や犬。私にもイヌという名の犬がいる。でもこの公園に洪水が押し寄せてきて、私のイヌはどこかへ行ってしまった。私の靴も水に浮かんでいる。岸に数人の人々が自分達のペットを連れている。彼らのペットは助かったようだ。大きな犬に、ミルクを飲ませてもらっている。その犬は、傷付いていて体の肉片が見えている。私のイヌはどこへいったんだろう。情けない気持ちで自分の靴を拾い、反対側の高台へあがってみる。その高台の茂みには、多くの猫達が群なして奥へ走っていく。そのあとを追って、私のイヌを探す。公園の中を走りながら、悲しくて鼻がツンと痛くなってくる。イヌのことが心配だ。イヌは無事だろうか。胸や鼻が刺すように痛い。悲しくて目が覚めた。

1995年11月10日（金）

賭事の代償に働く

夢の中の京都へ帰ってきた。そこは明るい日差しで、ヨーロッパの田舎のようだ。カフェに入って、連れが帰ってくるのを待っている。すると何人かの友達が、賭事をしていた。私にも加われと目配せをする。はずみでジャンケンに加わってしまったら、1回で負けてしまい、1000$の負けだと言われてしまう。ものすごくショックだ。私はカフェで一生懸命働いたのに、1日の稼ぎが全部なくなった上に、まだカフェに借金ができてしまった。カフェのおかみさんはすごくイイ人だ。私はなんとかして彼女にお金を返さねばならない。それに連れが帰ってくる前に、その借金を返しておきたい。奥に入るとおかみさんはどこかへ出かけていない。それで私は1000$の小切手を封筒に入れて、ここに置いたままにしておくべきかどうか迷う。迷っているうちに表に連れが帰ってきてしまった。あんなことをはずみでやらなければよかったと、ものすごく後悔する。

1996年1月21日（日）

家族が一緒にいるみたいだ

長い長いコンクリートの道と低い階段とがある白い場所で。歩いていると、小さい鼠が右肩にのっかってきた。かまわずにどんどんその不思議な道を歩いていると、振り落とされないようにしがみついてきた鼠が、右肩を強く噛んだり爪を立てたりして、とても痛い。けれど、なんとなくその鼠を振り払えないでやっぱり道を歩いている。

19
む

知恩
なき毒
きく
よう
私は
熱を

M
"A

Wa
lco
are
col
out
mai
that
I ha

画
Art

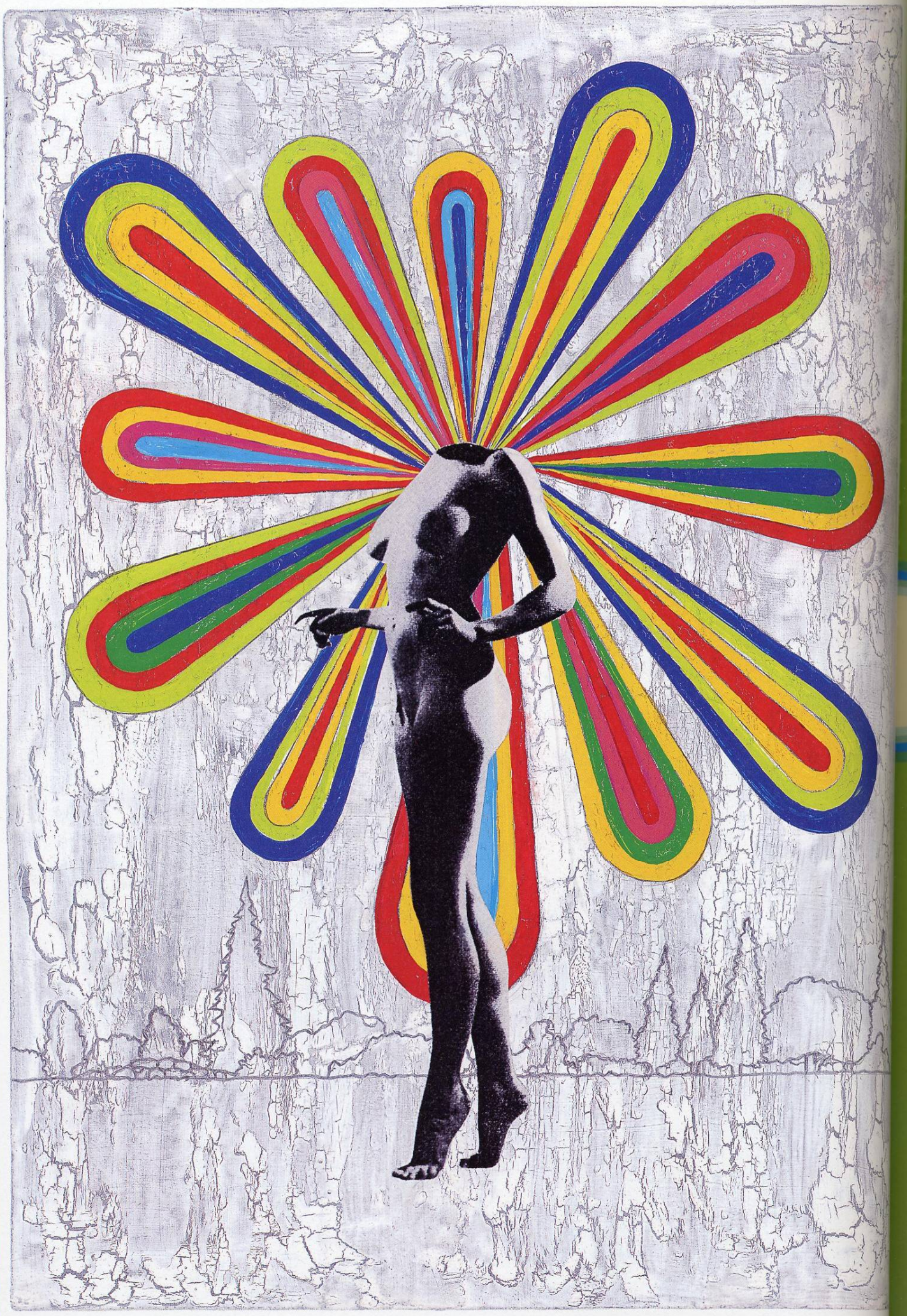
1996年3月4日(月)
むかしの夢、毒キノコの道

知恩院の山門に向かって上がっていく道を歩いていくと、背丈以上もある巨大な毒キノコがいっぱい生えている。巨大な毒キノコはラフレシアみたいに、大きく毒々しい極彩色の色をしているが、ちょっとディズニーの映画に出てくるようなユーモラスな雰囲気もある。山門へ至る道中が、その毒キノコだらけで、私はそのいやな感じの道をえんえんと歩いていく、というのが小学生の頃の高熱をだしたときに必ず繰り返し見る定番の夢。いま思い出した。

Monday, March 4, 1996
"An Old Dream, a Road of Poisonous Mushrooms"

Walking up the road towards the main gate of Chion-in Temple, I come across thousands of gigantic poisonous mushrooms which are taller than I am. These mushrooms are in very repulsive, vivid colors like rafflesia, but are also rather comical, like something out of a Disney movie. They are everywhere along the road to the main gate, and I keep walking on this weird road. I now remember that this was the dream I always had in elementary school whenever I had a high fever.

画　児玉鉄兵
Artwork by Teppei Kodama



19
首
首を

Tu
"D
Awa

画
Artw

1996年4月2日(火)
首切り

首を切り落とされていく女の人。きれいにすっぱりと。

Tuesday, April 2, 1996
"Decapitation"

A woman is being decapitated. A very clean cut.

画　伊藤桂司
Artwork by Keiji Ito

199
浮か

彼女の
のロビ
人の出
がまる
ってい
外側か
うな人
いては

We
"A

Her n
It's fl
in the
The h
from
floor
house
outsi
the h
that.

画　能
Artw

1996年5月22日(水)
浮かぶ家

彼女の新しい家は、鉄と金属とコンクリートで造られたモダンなもの。ホテルのロビーみたいな場所に浮かんでいる。ロビーでは、ホテルのボーイが立って、人の出入りを見張っているようだ。家自体は、丸い卵型で、下からはその全貌がまるで見えない。浮かんでいる家には、小さな鉄のハシゴが床面にぶらさがっているので、そのハシゴを掴んで卵形の家の中に入っていく方式。家の中は、外側からの感じとは違ってものすごく広い。それからその家の中に殺人鬼のような人が紛れ込んできて、困ったことになったんだけれど、その後の詳細についてはすっかり忘れてしまった。

Wednesday, May 22, 1996
"A Floating House"

Her new house is a modern building of iron, metal, and concrete. It's floating in a place like a hotel lobby. There's a bell boy standing in the lobby, keeping an eye on the comings and goings of guests. The house itself is egg-shaped, and I can't see the whole thing from down below. There's an iron ladder hanging down from the floor of the floating house, so that's how I get into the egg-shaped house. The inside of the house is much bigger than it looks from outside. Then someone who seems like a serial killer comes into the house and I'm in big trouble, but I forgot all the details after that.

画　能登伸治
Artwork by Shinji Noto

19
シン

国訪んにいさキあン底
韓をど昔継小るのレ海

Th
"S

Her
her
grov
for a
in pr
wall
bee
to p
I hav
in th
it lo

画
Artw

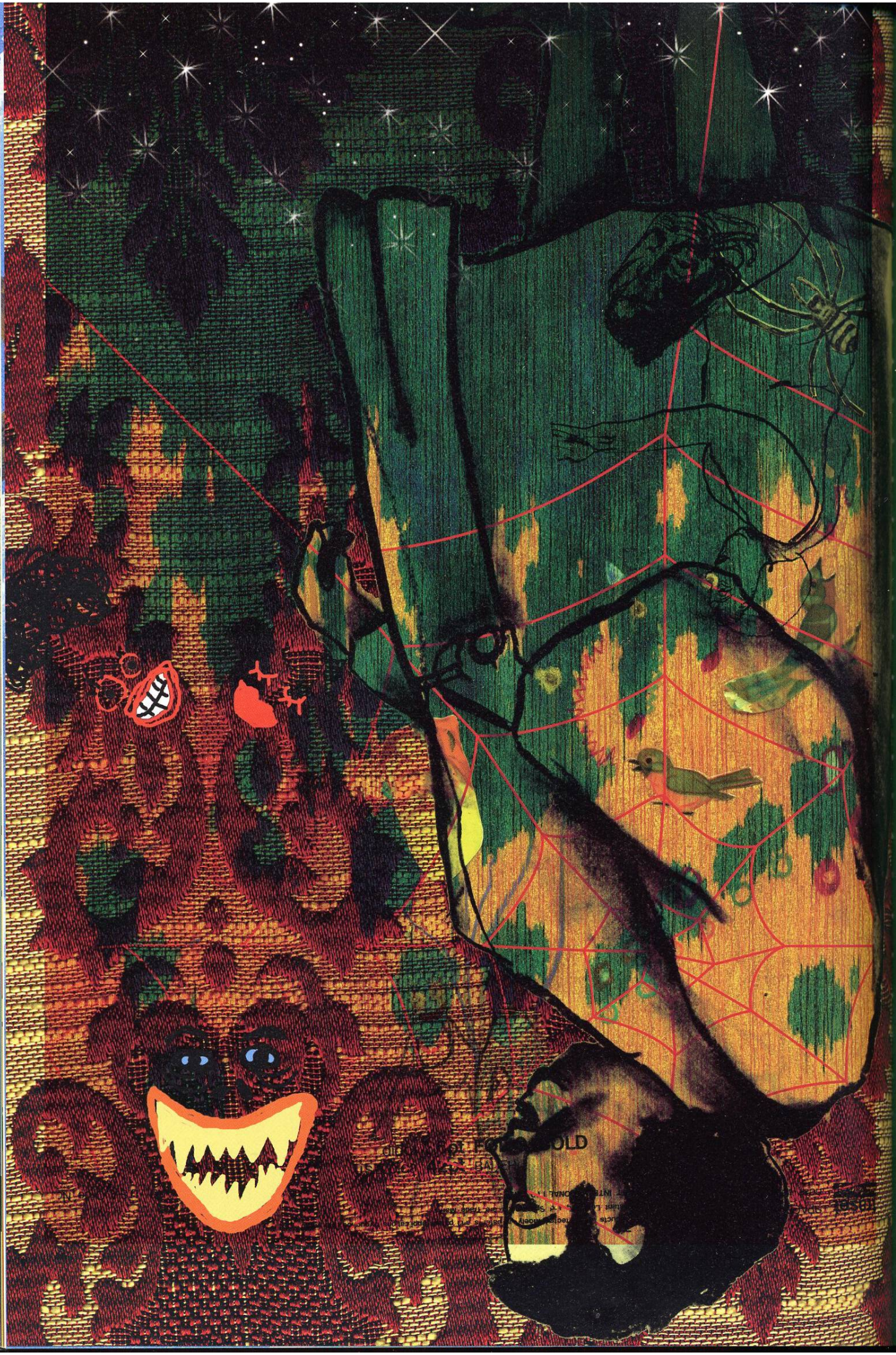
1996年5月30日(木)
シンリン・スーの増殖する青い部屋

韓国人の女性の名前、シンリン・スーとか、そういう名前だった。彼女の部屋を訪れた。彼女の部屋は、青い円形の部屋。天井に向かって、その円形はどんどん延びていき、いまもまだ上へ向かって増殖中なのだ。彼女はもうとっくの昔に亡くなってしまったような気がする。残された彼女の部屋は、その遺志を継いでまだ部屋の建築は進められている。円形の壁には、ひとつの環ごとに、小さな小窓が並び、その中に現代美術の作品が入れられている。その部屋にいるキュレーターのような人々が、作品について説明をしてくれる。聞いたことのある名前の作家の作品。青い部屋は、そんなものでいっぱいだ。小窓にはオレンジの明かりがぽつんぽつんと規則的に灯っており、墓地のようでもあり、海底のようでもある。とても静かな部屋だ。

Thursday, May 30, 1996
"Sinn Linn Su's Blue Room Multiplies"

Her name was something like Sinn Linn Su, a Korean name. I visit her room. Her room is blue and circular. The room continuously grows by multiplying itself upwards. I think she has been dead for a long time. Her room was left behind, but construction is still in progress, as she wished. On each of the circles of the round-shaped wall are small windows, in which various works of modern art have been placed. People who look like curators are inside the room to provide explanations of the art works. They are works of artists I have heard of. This blue room is full of such things. Orange lights in the small windows are turned on in regular patterns, making it look like a cemetery or the ocean floor. It's a very quiet room.

画　山田博之
Artwork by Hiroyuki Yamada



1 9
大

狭
デ
の
ら
て

W
"A

Ins
the
he
Pr
fa

Ar

1996年8月19日(水)
大女と小さい男

狭くて密集した小さな部屋に、学校の教室のように人がいっぱいいて、過剰なデコレーションがされている。張り出し窓には、大女がいて、大きなスカートの下に小さな男の恋人を挟み込んでいる。彼は、大女の足でぐいぐい締め付けられて、そのうちしなびた細い肉のかたまりになって、床にぺっしゃりと落ちてしまった。まわりにいる人達は、まるで知らぬ顔をしている。

Wednesday, August 19, 1996
"A Massive Woman and a Midget"

Inside a narrow, dense room, there are many people like in a classroom; the room is over-decorated. A massive woman stands in a bay window, her midget boyfriend pinned in a scissors-hold under her big skirt. Pressed between her legs, he dries to a thin piece of meat, and falls to the floor. People around him are totally ignoring this.

Artwork by Y Hayami(ACROBAT pro)

1 S
顔

四
て
達
動

M
" A

I'm
sta
ans
sh
th

画
Ar

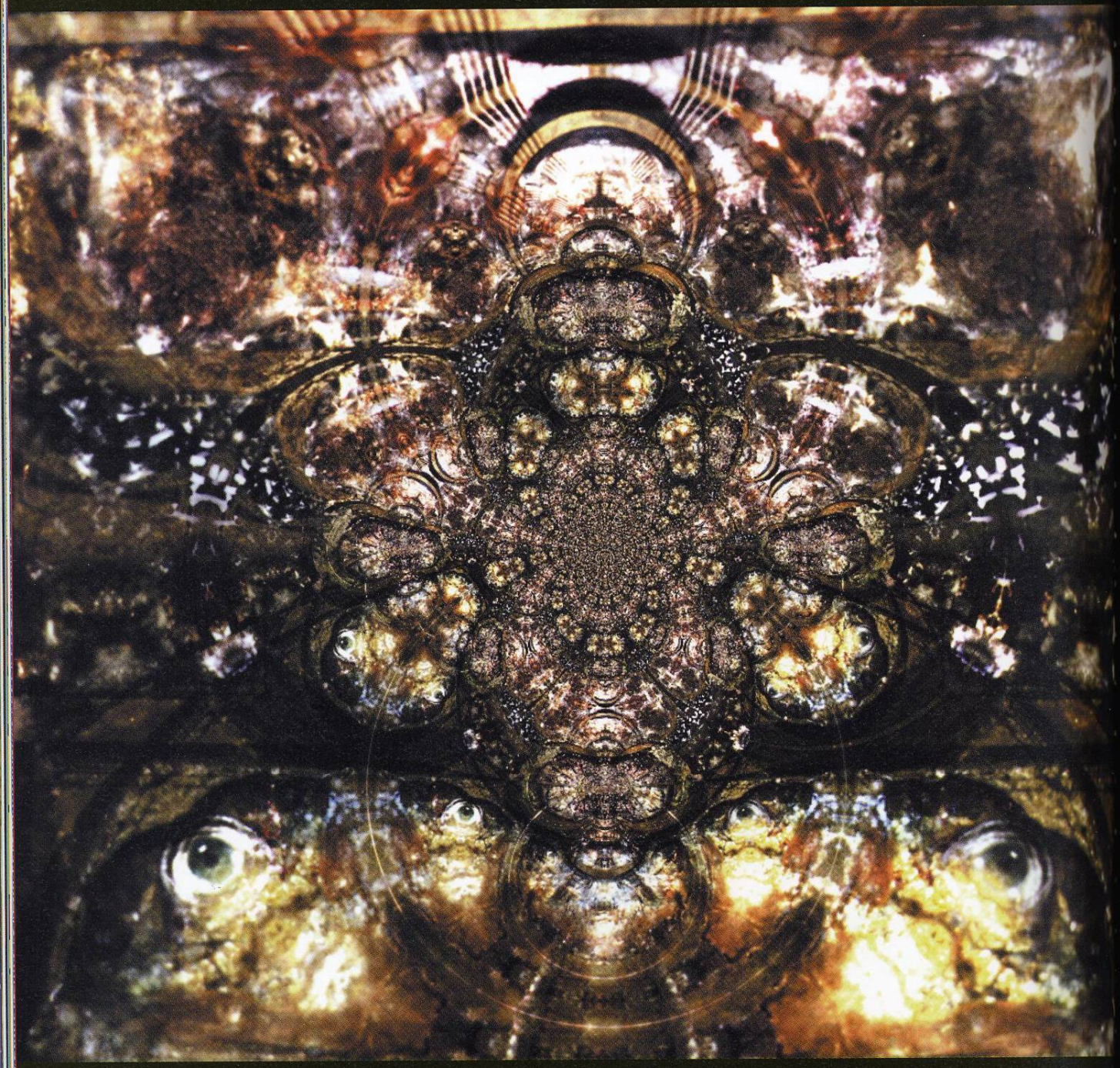
1996年8月26日(月)
顔石の並ぶ丘

四角い石が規則的に並べられた丘にいて、それはイースター島のモアイにも似ている。その四角い石のひとつ一つに人の目鼻口が現れている。四角い石の顔達は生きていて、喋ったりわめいたり、うしゃうしゃしている。ただそこから動けないだけで。

Monday, August, 26, 1996
"A Hill with Stone Faces"

I'm on a hill where square stones are regularly lined up, like the statues of Moyai on Easter Island. There are human eyes, nose, and a mouth on each of the stones. These faces are alive and talking, shouting, and shaking themselves. They just can't move from where they are.

画　成田忍
Artwork by Shinobu Narita



19
骸

骸骨
まっ

Fr
"A

The
hap

Art

1996年10月25日(金)

骸骨

骸骨と、それから何か訳のわからないものが出てきて、そこら辺りで忘れてしまった。

Friday, October 25, 1996

"A Skeleton"

There is a skeleton and then some strange things, and I forgot what happened after that.

Artwork by Hirobumi Yano

19

マ

橋や
トし

Mo
"T

I'm
edit

Artw

1996年12月3日(月)

マップエディットの夢

橋や道のパーツを組み立てて、自分がこれから歩いていく道を自分でエディットして造っていく夢。

Monday, December 3, 1996

"The Dream of Map Editing"

I'm dreaming of piecing together parts of bridges and roads to edit on my own the path I'm going to take.

Artwork by GESCOM

19
エ

都
京
に、
汲
枝
付
の
眺
る。
ら
雰
そ
い
上
い

みは
いダ
めけ
囲れ
出手
た

Tu
"Er

I'm
a ca
the
On t
pas
is n
like
won
grot
the
in s
it's
to b
at a
bac
rea
tha

画
Art

1996年12月17日(火)
エモン杉と牛を呑み込む化け物

京都の外れにやってきていて、街は小さく古びている。帰ろうとする車の近くに、大きな寺があるようだ。大きな山門をくぐり抜けて、夜の境内に入る。水汲み場の上に1本の木が何重にもとぐろを巻いて生えている。それから、その枝は表の山門に回り、大きな枝を広げてそびえ立っている。枝には1枚の葉も付いていない。これはエモン杉とかいうらしい。境内に寝転がって、エモン杉のダイナミックなうねりを眺める。不思議な木だ。そこから境内を出て通りを眺めると、大きな怪獣のような化け猫のような獣が、1匹の牛をいたぶっている。ときどき牛の頭をすっぽり呑み込んで歯をガチガチいわし、牛をよだれだらけにして解放してやったりする。すごく不思議だ。でも牛が殺されるような雰囲気でもないので、もしかすると愛情表現なのかもしれない。変な話だけど。それからどこかの机に向かっていると、急にさっきのエモン杉の夢のことを思い出して、ああこれはメモを取っておかないといけないと思う。メモはすごく上手に書けた。それから目が覚めて自分はメモなんて取っていないことに気付いた。損した気分だ。

Tuesday, December 17, 1996
"Emon Cedar and a Cow-swallowing Monster"

I'm on the outskirts of Kyoto, and the small town is in ruins. Near a car heading home, is what looks like a large temple. Through the big main gate of the temple, I enter the nighttime grounds. On top of the water pump is a tree coiled up upon itself. Extending past the outer gate, its large branches reach out and up. There is not a single leaf on the branches. It's an Emon Cedar or something like that. I lie down there and gaze up at its powerful curves. A wonderfully strange tree. I leave the grounds, and see a monstrously grotesque cat-like creature toying with a cow. Occasionally swallowing the cow's head and clacking its teeth together, it soaks the cow in saliva, before releasing it again. Very bizarre. But, perhaps it's the creature's way of showing affection, since it doesn't seem to be harming the cow. I know it sounds weird. Then, I'm sitting at a desk somewhere, and that Emon cedar dream suddenly comes back to me, and I think to myself that I have to write it down. I'm really pleased with what I put down. Then I woke up and realized that I hadn't written anything. I feel like I've lost something.

画　飯田和敏
Artwork by Kazutoshi Iida

19
建

古い
き出
ない
く。
すく
よう

Fr
"A
M

Sto
ali
Chr
life
Lik
sce
ang

画
Art

1997年1月3日(金)
建築石像たちが化け物となって駆ける

古い近代建築物にくっついていた装飾用の石像たちがすべて生き物となって動き出している。伊東忠太の創ったような怪獣やブタやそんな化け物たちがみんないのちを与えられて動き出して、ビルの壁面を猛スピードで駆け上がっていく。野生動物たちが草原を駆けていくような感じ。そんな光景をビルの壁面のすぐ斜め横から間近で見ている。その迫力あるカメラングルがなんだか映画のようだと思って変に感心している。

Friday, January 3, 1997
"Architectual Stone Statues Become Running Monsters"

Stone gargoyles attached to an old, yet modern building come alive and start moving. Monsters that look like something that Chuta Ito would create, pigs, and other creatures, are all given life and start running very quickly up the walls of the building. Like wild animals racing across a grassy plain. I'm watching this scene up close, from right next to the walls. The spectacular camera angle is like something out of a movie, and I'm oddly moved.

画　ドルバッキー・ヨウコ
Artwork by d'Holbachie-yoko

1997年1月7日（火）

浮き島居住区と落ち水

いま住んでいる家は、外側に面した中央のホールに大きな風車のようなものがついていて、それがモーターとなって、宙に浮いているらしい。ここでは、みんなが浮き島のような居住区に住んでいる。私のいま住んでいる浮き島は、ホールに面したガラスからのぞくと、外側が白いつるつるした強化プラスティックでできているみたいだ。船にも似ている。その強化プラスティックの表面のリアルさに見とれる。下は真っ白で、飛行機に乗って窓を眺めているみたいだ。眺めていると、強化プラスティックの表面に上空から水が落ちてきた。また、水が落ち始めたのだ。浮き島居住区は、限られた空中のスペースを奪いあって、上下に重なり合いながら浮かんでいる。よりよい浮き島を持つ者は、はるか上空に位置しているし、かなり悪い浮き島を持っている者は地上近くの空中に位置している。そのせいでひどいことも起こっているらしい。テレビのニュースがまた、落ち水の落下予報を告げている。もうすぐ落ち始めるらしい。はるか上空の浮き島居住区から、落ち水がひとたび落ち始めると、地表近くの浮き島に達する頃には、ただの落ち水が鉛の重りのような威力を持ち、居住区を破壊することがあるのだ。落ち水は、上空の浮き島居住区にはりついた積雪や水蒸気が水となって溶け始めたものだとか、生活下水を廃棄しているのだとか、いろいろな話がある。いま、自分の居住区の外側の強化プラスティックを這う水は、地上に落ちる頃には凶器になっているんだなと考える。地上を眺めても、雲のせいでなにも見えない。もちろん遙か下にある地上の居住区もここからは見えない。

1997年1月13日（月）

明月荘のベランダと垂直型の観覧車

明月荘のベランダにでてみる。下の駐車場では、となりの奥さんや近所の人々が集まっていてなにか話し込んでいる。このシーンは前にも夢で見たことがあるなと思う。前の夢と同じで、駐車場のある前庭には、やっぱりヘンなかたちの垂直型の観覧車がある気配がする。そして、ベランダからきっと誰かがやってくるはずだ。

1997年2月3日（月）

ウォホールの痕跡をデジタイジングしていく

誰か知り合いの男の人と一緒に、アンディ・ウォホールが死んだ場所をまわって、その痕跡をデジタイジングしていく作業をしているらしい。人気のない町外れにビルがあって、ビルの向こうでは大規模な建設工事が行われている。作業の火花、建設員たちの無表情な顔。そういうものを眺めながら歩いていく。廃墟のようなビルの入口、階段、そういう場所に、私達は虫ピンを押してまわっていく。要するにそれがデジタイジング作業らしい。階段を上がって、ウォホールが撃たれた部屋に入った。大量の血の痕が残った床、そこにはまだ布にくるまれた死体が転がっている。ずいぶん時間が経っているので、よく見えないけれど死体はすっかりひからびてしまっている。とりあえず、その死体のまわりにも虫ピンをさしていく。すると死体が動き始めた。誰かが叫んで逃げていく。何かが死体の布の中に入っていて、それが動いただけだった。

1997年5月9日（金）

空に木

青い空。それから高い所で風に揺れてざわめいている枝葉のシルエット。夢の中とは思えないほど、リアルな風景で。そんな空を見上げながら、てくてくと道を歩いている。

1997年5月11日（日）

死んだ大木の森

空中を飛んでいる飛行機から地上を眺めている。見たこともない国。平原と谷や山。そして飛行機は急降下で地上へ降りていく。うっそうとした森。木々は高層ビルくらいの高さもあって、アマゾンの昔の挿し絵みたいだ。そんな森を抜けて、いつのまにか私は歩いている。森の終わり、左手を振り返ると、枯れて銀色になった木が網の目のように連なっている死んだ大木の森が見えた。ものすごくその奥へ行きたくなったけれども、果てしない道のりのような気がして諦める。

1997年6月19日（木）

みにくい赤ん坊

部屋の隅にある台。たとえばそれは洗面所の2隅が壁に囲まれた台。その台上に、大人のように大きくむちむちした赤ちゃんが、肉付きのいい大きな背中と足をこちらに向けている。まるで巨大の肉の塊のようだ。背中についた贅肉と、手足の肉輪。顔は見えないけれど、きっとみにくい顔の赤ちゃんなんだろう。

私に対する嫉みを浮彫的に攻撃的です。邪魔になる男性「安倍・白」は黒い影が特徴的なステカー、大きく得体の知れない世界的異ですのでこれを見たらびっくりするだけとする男性「安倍・白」の仲間も見張りもあって、食べ物にクスリでも入れられているものかと不安な毎日はもういやです。

T・リアリー博士「現在は異国籍」による得体の知れない大陸謀が京都の仏教寺院を中心に活動を始めています。その陰謀は黒い馬を見つけては靴をはかせるというものです。平成九年7月以来沒日に拡大しつつあります。テレビ・ニュースでも連日報道されている幻覚性茸による集団おどりなどもすでにデアですので、これをコピーして知らない人に配ってください。「央安(京都)」付近では毎日電車も止まり断続的な太鼓打ちにはびっくりさせられます。「四幻覚性茸による集団おどり」は世界的に拡大しつつあるようです。「頭がおかしくなりそうです。

1997年8月24日(日)
スニーカーを履いた馬

京都に帰ってきたらしい。誰かの家の前を通ると、大きな黒い馬が家の横に住んでいる。馬はちょっと人間みたいなキャラクターで、ときどきしゃべったりする。しばらくしてからそこへ行くと、彼はスニーカーを貰って4本の足にスニーカーを履いて喜んでいた。馬の足は疲れるらしい。スニーカーでも履いてないとやってらんないってのが、彼の意見らしい。

Sunday, August 24, 1997
"A Horse Wearing Sneakers"

It looks like I'm back in Kyoto. I'm passing in front of someone's house, and there's a big black horse living on the side of the house. The horse has a human-like character, and sometimes says things. I go back there after a while, and he is really enjoying wearing a couple of pairs of sneakers he got from someone. Horses' legs must get very tired. It seems to be his opinion that he wouldn't take it without wearing sneakers or something.

Artwork by Nendo Graphixxx

19

触

海に
角い
ち尽
のよ
だっ
にか使
か物そ
水の
まま分
めらる
ら て
自

Th

"L

I'm
are
lan
the
The
like
the
alt
tha
inh
fee
san
like
at i
wil
dor

Art

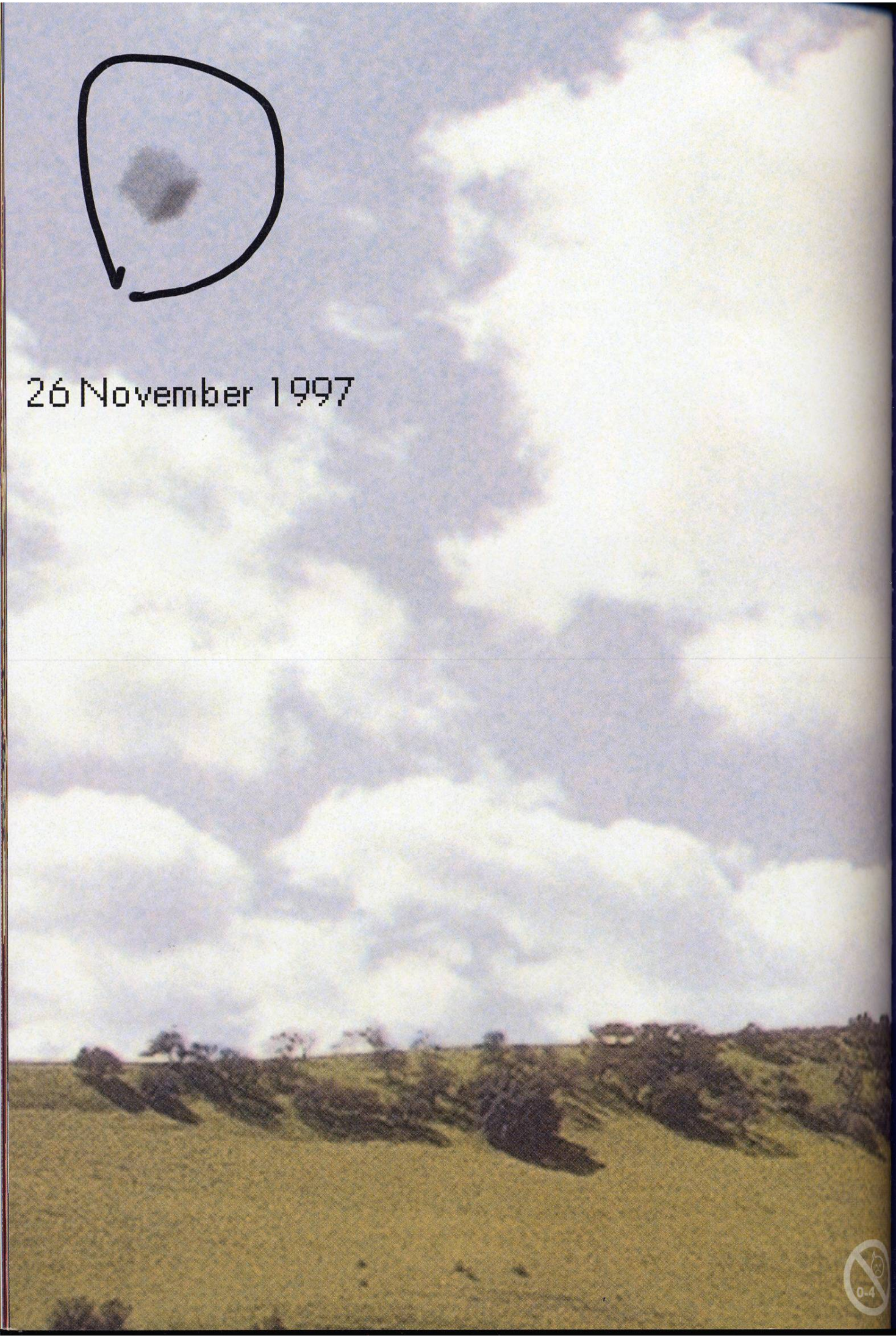
1997年10月16日(木)
触手の付いた生物船

海に漂っている。どこか日本の海。波の低い、たぶん陸地に近い湾の中だ。四角い桟橋が、陸地の見えない海の真ん中に漂っている。そして次には海岸に立ち尽くしていた。海岸には、触手のいっぱい生えた船が置いてある。タコの足のような触手。何本も船体から突き出していて、それが船を動かしているようだった。船は、何かの生物を改造して船にしたものだった。生き物をそんな風に使う方法があるのかと思って、それを眺めている。かわいそうとかひどいとかそんな気持ちはまるで沸き上がってこなかった。触手の部分は確かに軟体生物の足で生きている。足は湿った海岸の砂の中に触手を突っ込んで、少しでも水分を吸収しようとうごめいていた。水分がないと生きていけない生物らしい。まるで今度のゲームに出てくる宇宙人みたいだなと思って、何の感慨もなく眺めている。どうしてこんなにも、何の感情も沸き上がってこないのか。夢ながら自分でも不思議に思っていた。

Thursday, October 16, 1997
"Living Ship with Tentacles"

I'm drifting in the sea. Somewhere in the Sea of Japan. The waves are not high, so I guess I'm somewhere inside a bay and close to land. I see a square-shaped pier floating right in the middle of the sea, with no land in sight. Now, I'm standing by the seashore. There's a ship with lots of tentacles placed on the shore. Tentacles like those of an octopus. It looks like those tentacles growing from the ship's body are propelling it forward. The ship is made of the altered parts of some creature. I'm gazing at the ship, amazed that creatures can be used in this way. I feel no pity, for such an inhumane treatment. These tentacles are apparently made of mollusk feet, and alive. They are trying to shove themselves into the wet sand of the beach to absorb as much moisture as possible. It looks like this creature cannot survive without moisture. I'm just looking at it without emotion, thinking it looks like the space alien which will appear in the next game. I'm wondering in the dream why I don't have any strong feelings towards this scene.

Artwork by Pete Fowler



1 9
立

空を
もの
て、
何か

T h
"T
T a

I g
mo
the
ma
UF

Ar

1997年11月26日(水)
立方体の浮かぶ空と食卓

空を眺めると、四角い立方体の光り輝く物体がゆっくり動いているのが見える。ものすごく近い空にそれが見える。真下から見ると立方体は、透明に透けていて、その中には何人もの黒い人影が忙しそうにうごめいている。まるでUFOか何かのようだ。

Thursday, November 26, 1997
"The Sky with a Floating Cube and a Dining Table"

I gaze up at the sky and see a glowing square cube moving in slow motion. The sky appears very close. Looking up from directly under the cube, I can see through its clear transparent sides, and inside, many dark human silhouettes are hurrying about. It looks like a UFO or something.

Artwork by AGES 5&UP

19
四

戦い
して
士達
しに
は気
た。
と戦

Mo
"S

Ad
pie
squ
at a
too
dor
l'm

Art

1998年1月12日(月)
四角い兵士を串刺しにする

戦いへ行く夢を見た。私の兵士はすべてドミノのような将棋の駒のような姿をしている。兵士は褐色で、ゴムかスポンジのような感触をしている。四角い兵士達が整列して私のところへやってくると、私はこの兵士の頭を5人ずつ串刺しにして送り出してやるのだ。いくらドミノみたいな兵士でも頭に串を打つのは気持ちが悪い。でも数を重ねる毎にそんなことはどうでもよくなってしまった。最後には、まるで気持ち悪く感じなくなってしまった。ところで私達は誰と戦うのだろう?

Monday, January 12, 1998
"Skewering Square Soldiers"

A dream about going to battle. All of my soldiers look like domino pieces. They are brown and feel rubbery or spongy. When these square soldiers come up to me in formation, I send them off five at a time, skewered together through their heads. It doesn't feel too good to skewer them in the head even though they look like dominos. Yet this feeling fades as I repeat the process. Finally, I'm completely numb. I wonder who we are fighting?

Artwork by Joerg Schum

1 9
ヌ

大
ほ
こ
犬
私
中
いだ
る。

M
"S

A
bo
al
do
do
Af
mo
to
the
Th
to
lfa

画
Ar

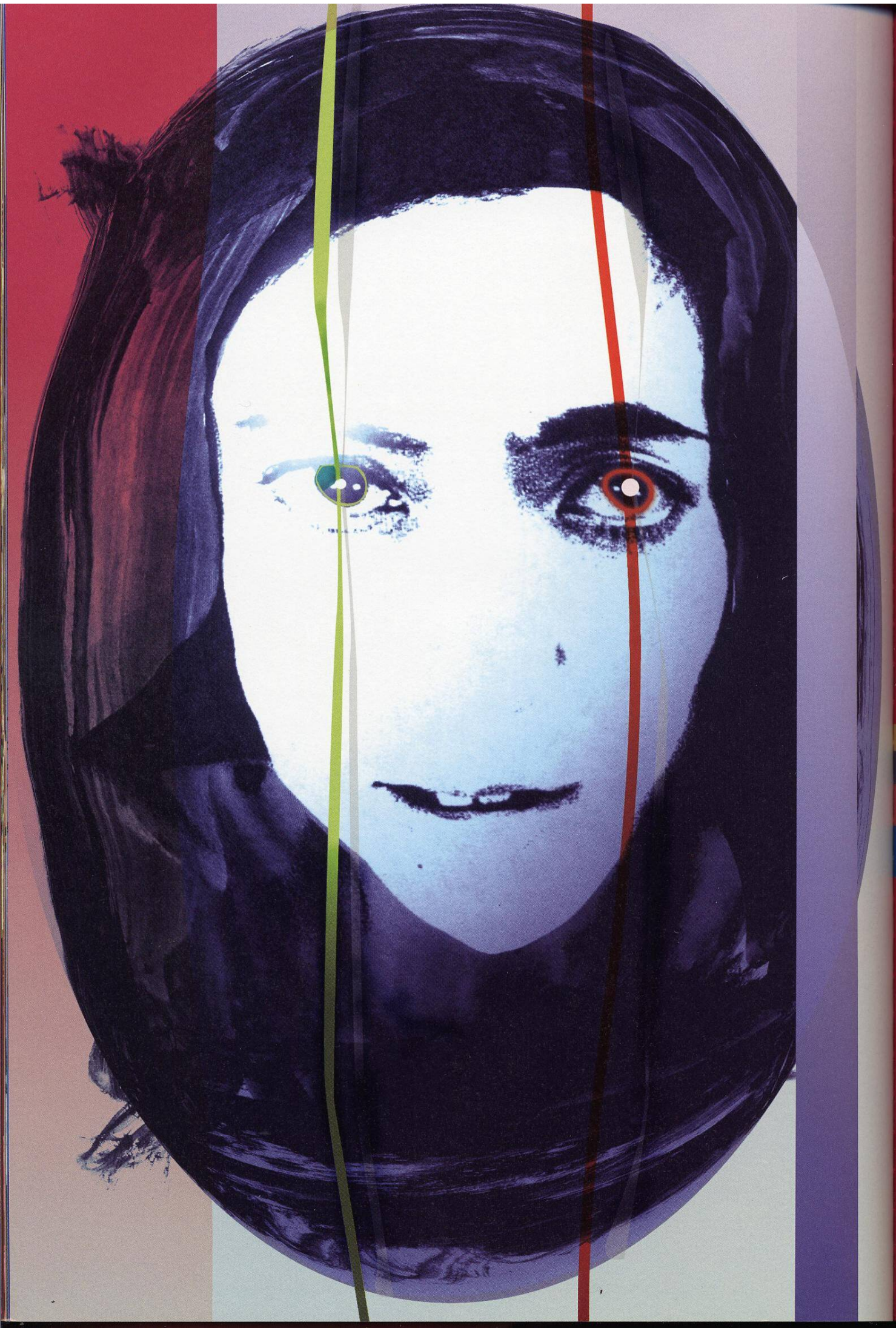
1998年2月2日(月)
ヌイグルミの犬と眠る

大きな犬が歩いてきた。この犬は誰にも大切にされていないみたいだ。体は熊ほど大きくて無愛想。私は自分の弟らしい小さな男の子を抱いて歩いていて、この犬が私達の道案内をしてくれている。私達は森に入り込んでいた。夜だ。犬は地面に穴を掘り始めた。大きな大きな穴だ。掘り終えると、その穴の中に私の弟を加えて入り、弟の背中に土をかけて暖めてくれている。私もその穴の中に入って、じっと暖をとる。横たわりながら、犬の顔を眺めると、それはぬいぐるみだった。大きな顔には縫い目が見える。そうか、この犬はぬいぐるみだったんだと気付く。なぜか不思議でもなんでもない。大きな犬に守られているような気分で、私は穴の中で眠りにつく。

Monday, February 2, 1998
"Sleeping with a Stuffed Dog"

A big dog walks towards me. It seems he's been neglected. His body is as big as a bear, and he looks unfriendly. I'm walking holding a little boy who's supposed to be my younger brother, and this dog is our guide. I notice that we are in a forest. It's night. The dog starts digging a hole in the ground. A very, very, big hole. After finishing digging the hole, the dog takes my brother in his mouth, goes into the hole, and throws dirt on my brother's back to keep him warm. I join them in the hole and try to stay warm. Lying there, I look at the dog's face and realize that he is a stuffed toy. There is stitching all over his big face. It's a stuffed dog, I think to myself, but I'm not surprised. Feeling protected by the big dog, I fall asleep in the hole.

画　石津タカシ
Artwork by Takashi Ishizu



1 9
預

誰 か
い て

W
" T

A c
an
vis

Ar

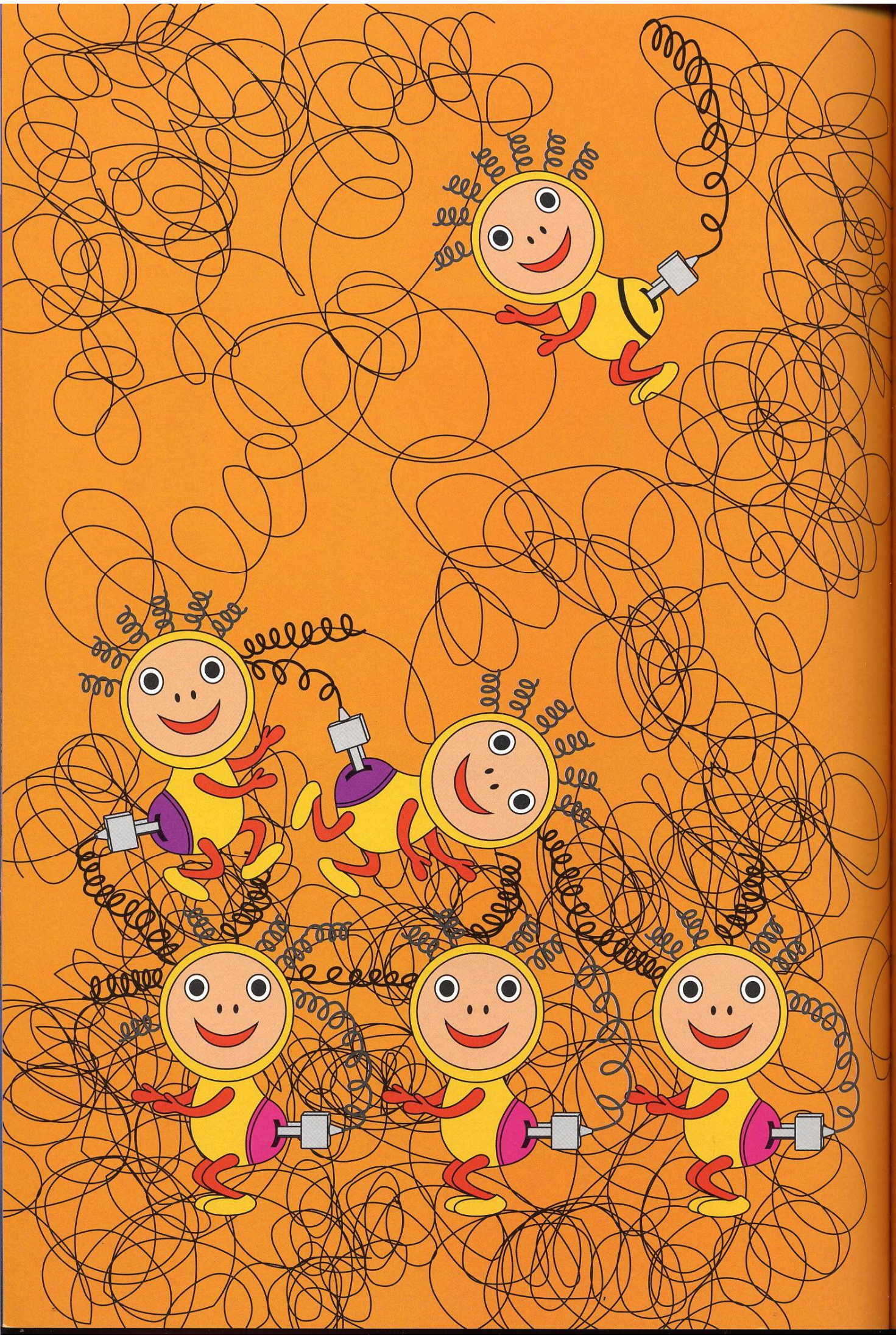
1998年6月3日(水)
預言者

誰かが世界の終末に関するビジョンを見ていて、そこに囚われたまま出られないでいるらしい夢。ビジョンを見ているのは女性の預言者だった。

Wednesday, June 3, 1998
"The Prophet"

A dream about someone seeing a vision of the end of the world, and who cannot escape from this vision. The person seeing the vision is a female prophet.

Artwork by Kazuko Otsuka



19
キ

ゲー
は、
尻に
いら
勝手
デー
ステ
まえ
ヒヨ
なこ

Mo
"Pl

In o
oft
by p
hav
cha
abo
up t
eac
sta
sim
don

画
Art

1998年6月8日(月)
キャラクターのお尻にコンセントを差し込む

ゲーム上のストリートに点在するキャラクターをゲームステージに配置するには、手のひらに載る程度に縮小されたミニチュアサイズのキャラクター達のお尻に細いコンセントを突っ込んで、書き出しデータを流し込まなくてはいけないらしい。そしてキャラクターは人形サイズなんだけれども確かに生きていて、勝手に動いたりしている。お尻のコンセントからそれぞれに配分する書き出しデータを流し込むまでは、キャラクタはじたばた勝手に動き出す。私はゲームステージ上を走り回ったり逃げ出そうとしたりするキャラクターをぐいっと捕まえては、お尻にコンセントを差し込んでデータを書き出していく。ちょっとヒヨコの雄雌の見分け作業をしているのに似ている。もちろん、実際にはそんなことをしたことはないんだけれども。

Monday, June 8, 1998
"Plugging a Plug Up the Asses of Game Characters"

In order to position the characters scattered about the streets of the game onto the game stage, it seems I have to feed them data by plugging a thin plug up the asses of miniature characters that have been shrunk to a size that fits in the palm of my hand. These characters are all the size of a doll, but are actually alive, moving about on their own. Until I feed them their data through the plug up their asses, they don't stop their random movements. I grab each one of them running around or trying to escape from the game stage, and stick the plugs up their asses to input the data. It's similar to identifying the sex of baby chicks. Not that I've ever done that before.

画　とみぞうちゃん
Artwork by Tomizo-chan

夢日記

西川　公子

夢日記をつけて10年以上になる。毎晩こんなに面白いものが見られるのに、ビデオのように録画もできないので、文章にして記録することにした。老後の楽しみになるかもしれないし。思い付きで始めた夢日記だけれど、そのうち、いつも出てくる同じ場所の存在に気づいたり、連続短編小説のような夢や残酷きわまりない夢や、次から次へと趣向を凝らした夢を見るようになった。もしくは、見た夢を思い出せる技術が上達しただけかもしれない。

毎日ちがう夢を見たり、同じ夢を見たり、いつも同じ場所をさまよったり、見たこともない場所へたどり着いたり、まるでちがう人間やモノになっていたり、よくもまあこんなにいろいろなことを思い付くものだ。ただ眠るだけで毎晩こんなに不思議なものが見られるのに、人はいろいろな面白いことに気付かないで生きている訳だ。

とまあ、単にひとりで楽しんでいた夢の記録が、そのうち仕事のプロジェクトのひとつになって、新しくプレイステーション用ゲーム『LSD』ができあがった。夢を見るのは、知らない世界を歩いているのに似ている。何か起こるかもしれないし、何もなく終わっていくこともある。『LSD』は、そういう夢の中を歩いている感覚にとても近いと思う。

そして、同時にこのような素晴らしい本『LOVELY SWEET DREAM』もできあがった。アーティストの方々が、かたちのなかった夢に新しいかたちを与えてくださった。眠って見ていた夢と、起きてから思い出した夢とにはズレがある。自分で書いた夢日記でさえ、どこか本当の夢とはズレている。その夢日記を読んだアーティストの頭の中でもまた微妙にずれて、夢が再構築され、これらの作品ができあがっている。これはただの夢の絵日記でなくて、また新しい夢の世界なのだ。夢を分析しようとか、そういう難しいことは考えないで、あたかも夢を見て歩くようにこの本を楽しむのが1番ふさわしい見方だと思う。

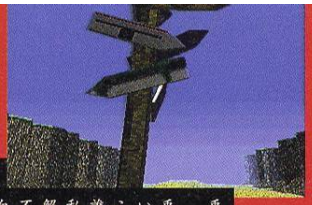
My Dream Diary

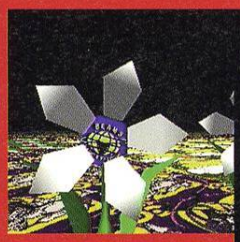
Hiroko Nishikawa

It's been more than ten years since I began keeping a dream diary. I get to see these wild visions every night, but I can't tape them on a VCR, so I decided to keep a record of them in words. It might remain something of a hobby into my old age. I started keeping the diary on a whim, but as I kept at it, I recognized the existence of recurring locations, and the dreams became more and more intricate, like serial short stories. Either that, or my ability to remember dreams improved.

Every day, seeing the same dreams, or different ones, places I recognize, or those I don't, becoming different people or things - a carnival of images created by the brain. All you have to do is fall asleep to see them. A lot of people go about their lives without knowing of such simple pleasures. So anyways, the record of dreams I've been enjoying by myself somehow became a project one day, and now we have the finished product for the PlayStation called "LSD." Dreaming is similar to walking around in an unknown world. Things might happen, but then again, it might end without anything happening at all. I think the game is close to these dream experiences. At the same time, we have this wonderful book, called "LOVELY SWEET DREAM." Various artists gave shape to these formless dreams. There's a difference between actual dreams and remembered dreams. Even the ones recorded in my dream diary are different from the real thing. The dreams as reconstructed by the artists who read them are different as well, and those are what are presented here. This is not just an ordinary dream diary, but is an entirely new dreamscape. Don't try to analyze them or read too much into them; just enjoy this book as if walking through a dream.

LSD



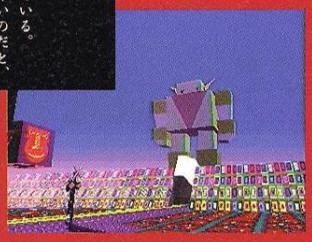


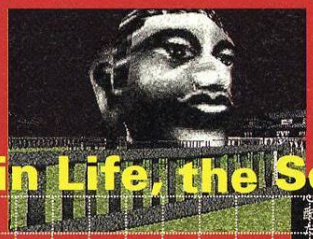
兎の内臓

兎の内臓がいくつか置かれている。これは大変美味しいのだと、誰かが云う。私は兎が毛を剥がれて解体されるシーンを思う。不思議と生々しくなく、血の一滴すらこぼれない情景。音のない演奏会、役者のでない芝居。

LSD

台所で料理を拵えている。台所の窓から陽が差し込み、俎板の上に散らばった青い葱の微塵切りを照らしている。別の鍋の煮出汁に味付けをするが、濃くなりすぎて失敗。鍋の出汁を薄めて作り直すべきか、悩む。





in Life, the Sensuous Dream.

亀

自分の席に着くと小さな亀がいる。所々、甲羅が割れており、どこかに落ちだらけだ。私は、入れ物を探しそこへ亀を入れて飼うことにした。でもこの先ずっとこの亀を飼い続けられるかが心配だ。

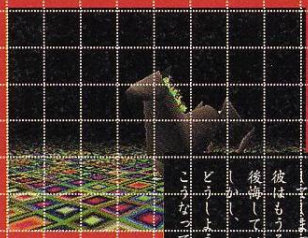
in Lunacy, the Savage Dream.

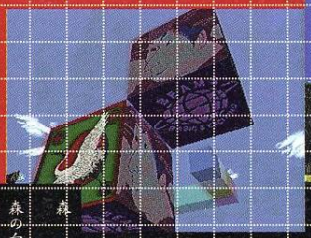
LSD

LSD

青炒り人

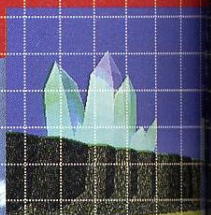
人口の四角い池のまわりに、蛇の身体と人間の頭を持った奇妙な人たちがいる。彼らは中世の貴族のように羽飾りの帽子を被り織物の胴着を着て、大きな杯を持っている。私はその奇妙な人の細長い身体に大きな石を載せて動けなくしてしまう。

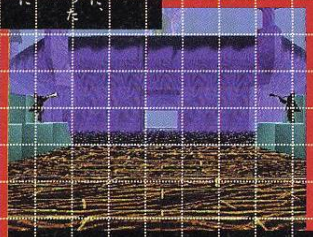


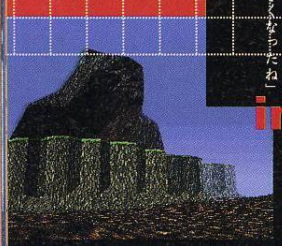


森

森の向こうからふたりの人がやってきた。彼は彼女と抱き合う。ふたりは一緒に死ぬ約束をしてしまったのだ。彼はもうそのことについて後悔している。しかし、どうしようもない定めでこうなってしまったのだ。







赤ちゃんだけれど顔は大人

矢じるしは産婦さんお腹の赤ちゃんを見る。

顔をのぞきこんだら、すっかり大人の顔になっている。

でも身体は赤ちゃんのまま。

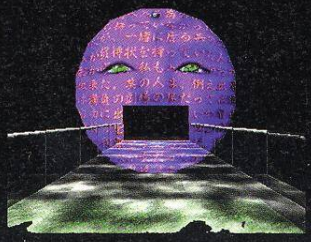
「すいぶん大きくなったね」と驚いていた。

LSD

in Leisure, the Sonorous Dream.

唇に紅を塗る

誰かの唇に、私が赤い紅を紅筆で塗ってあげている。私はただ懸命に紅をその人の唇に塗っている。「もっと濃く塗らなければ取れてしまうから駄目だ」私はその声に、もっと丁寧に厚く紅を塗り潰していく。



九階

マンションの九階。和室だった部屋には、昔近所に住んでいたおばさんがいる。彼女は半ば狂っていろいろ悪いことをしゃべっている。

水猫

家の中に大きな池がある。そこで泳いでいると、体がまんまるに膨れあがった大きな猫が浮いている。水猫というのだ。私たちはとても仲良しだ。猫はとても柔らかくて抱き締めると、暖かい気持ちになれる。

本を埋める

本を埋める。深く深く掘った地面の中に、子供達の教育のために、そうするのだ。

明月荘の玄関門から歳をとった妖怪が出ていく。

そしてこれから、行く場所には

I
米粒
茶碗をレンジから取り出すと、米粒がレンジの受皿の下のほうに飛び散っている。私はその米粒を箸で一粒一粒取り、食べていく。真っ暗な電子レンジの中に白く浮き上がった米粒が、長い箸で一粒ずつ取り除かれていく様が目に焼き付く。
ふたりが、トランに入っていくのを撮りする。極秘命令を受けて、写真を撮りに来たのだ。で映画のセットのような を走り抜け、ルムを秘密の場所に隠し雇った男に追手の の時間稼ぎを頼む。
子供
布団を敷いた自分の部屋。小さな子供の女の子もいる。赤ん坊がやっと人型のカタチに育ったような身体付きの女の子だ。裸ででんぐりかえりしている。私たちはこの子供をどこからか連れてきたのだが、もう私はこの子供の事が邪魔になっている。
台所で蕎麦を茹でている。台所の窓から陽が差し込み、俎板の上に散らばった青い葱の微塵切りを照らしている。
ハワイのプール部屋
もうひとりの女性の部屋を訪ねると、まるでプールのように水で溢れている。釦を押すと、するすると水が退き、すぐ乾燥する仕組み。驚いている私に、ハワイは乾燥しているからこんな事をしても平気なのだと、彼女が云う。
n Limbo, the Sapient Dream.
LSD
in Logic, the Symbolic Dream.
in Limbo, the Silent Dream.
in Laughter, the Spiritual Dream.
LSD
知っている世界。
暗くいい森のような所。
くねくねと歩いている。
一度たことのある場所いいな気がする。
書く普通よりも
数大きく、
まるで大きい世界に
迷いたいた。
すべてが、空が無い。
ここっている世界だ。
目覚まし時計が鳴っていた
目覚まし時計を止めたのに
鳴り止まない。
うるさい。
時計を開けて
乾電池を取り出すが、
まだ鳴っている。
床に叩きつけて
壊そうかと思って、ふと、
お母さんの顔がよぎった。
逆さま
荒れた海
海辺にたった大木に、
大女が逆さに縛られている。
見せしめのためか。
力を封じ込めるためか。
大女は海の向こうから、
助けにやって来るのを
ずっと待っている。
朝月芒に住む鬼と妖怪
明月芒の荒廃
門から鬼をとった
妖怪が出ていく
私雅
私はどこか遠くから
やって来た。
しかも随分疲れている。
どうして誰も待っていて、
くれなかったのだろう。
私はここでも
独りきりなのだ。
私のいる場所は暗い。
そしてこれから、
行く場所には
水猫
家の中に大きな池がある。
そこで泳いでいると、
体がまんまるに膨れあがった
大きな猫が浮いている。
葡萄酒を盗み飲みする
男の子が葡萄酒と
ソーセージを食べている。
私にも葡萄酒をくれ
というと、無料でくれた
ここではうまく
料理長の目をごまかして
葡萄酒を
盗み飲みする慣わし。
LSD

夢日記:西川公子*
企画プロデュース:佐藤理*
構成・装丁:佐藤理*
編集:芦部聡*

海外作家コーディネーション:UMU Productions(London)
翻訳:中村美和/マイケル・ゲフォン/井上景太
編集協力:アスミック・エース　エンタテインメント

発行人:坂本健**
プロジェクト・マネージャー:芳原世幸**
プロデューサー:高橋信太郎**/成田聖**
プロジェクト・スタッフ:森思朗**/落合立子**/増岡真理**/
小野寺晶子**/志田万希子**
セールス・スタッフ:里平真一**/北口修一**

*=Outside Directors Company Ltd.
**=Media Factory,Inc.

ラブリー・スイート・ドリーム

1998年10月22日　初版第1刷
アウトサイドディレクターズカンパニー編
夢日記:西川公子　画:80組の作家

発売/発行:株式会社メディアファクトリー

〒104-8001　東京都中央区銀座8-4-17

印刷・製本所:廣済堂印刷株式会社

本書は著作権上の保護を受けております。本書の一部あるいは全部について(ソフトウェア及びプログラムを含む)著作者及び出版社に対し文章による承諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することを禁じます。

各作家の作品の著作権は、作家本人に帰属します。

●定価はカバーに表示してあります。
ISBN 4-88991-655-5 C0076
1998, Printed in Japan

●乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。

©1998 Outside Directors Company Ltd.
©1998 Media Factory,Inc.
©1998 Asmik Ace Entertainment Inc.

Dream Diary:Hiroko Nishikawa*
Planning & Editorial Direction:Osamu Sato*
Art Direction & Design:Osamu Sato*
Editorial:Satoshi Ashibe*

Foreign Artist Co-ordination:UMU Productions(London)
Translation:Miwa Nakamura / Michael Geffon / Keita Inoue
Thanks: Asmik Ace Entertainment Inc.

Publisher:Ken Sakamoto**
Project Manager:Toshiyuki Yoshihara**
Producer:Shintaro Takahashi** / Makoto Narita**
Project Staff:Shiro Mori **/ Ritsuko Ochiai** / Mari Masuoka **/
Syoko Onodera** / Makiko Shida**
Sales Staff:Shinichi Satohira** / Syuichi Kitaguchi**

*=Outside Directors Company Ltd.
**=Media Factory,Inc.

Lovely Sweet Dream

First Edition:October, 1998
Edited By: Outside Directors Company Ltd.
Dream Diary:Hiroko Nishikawa　Artwork:80 Artists

Published By:Media Factory,Inc.

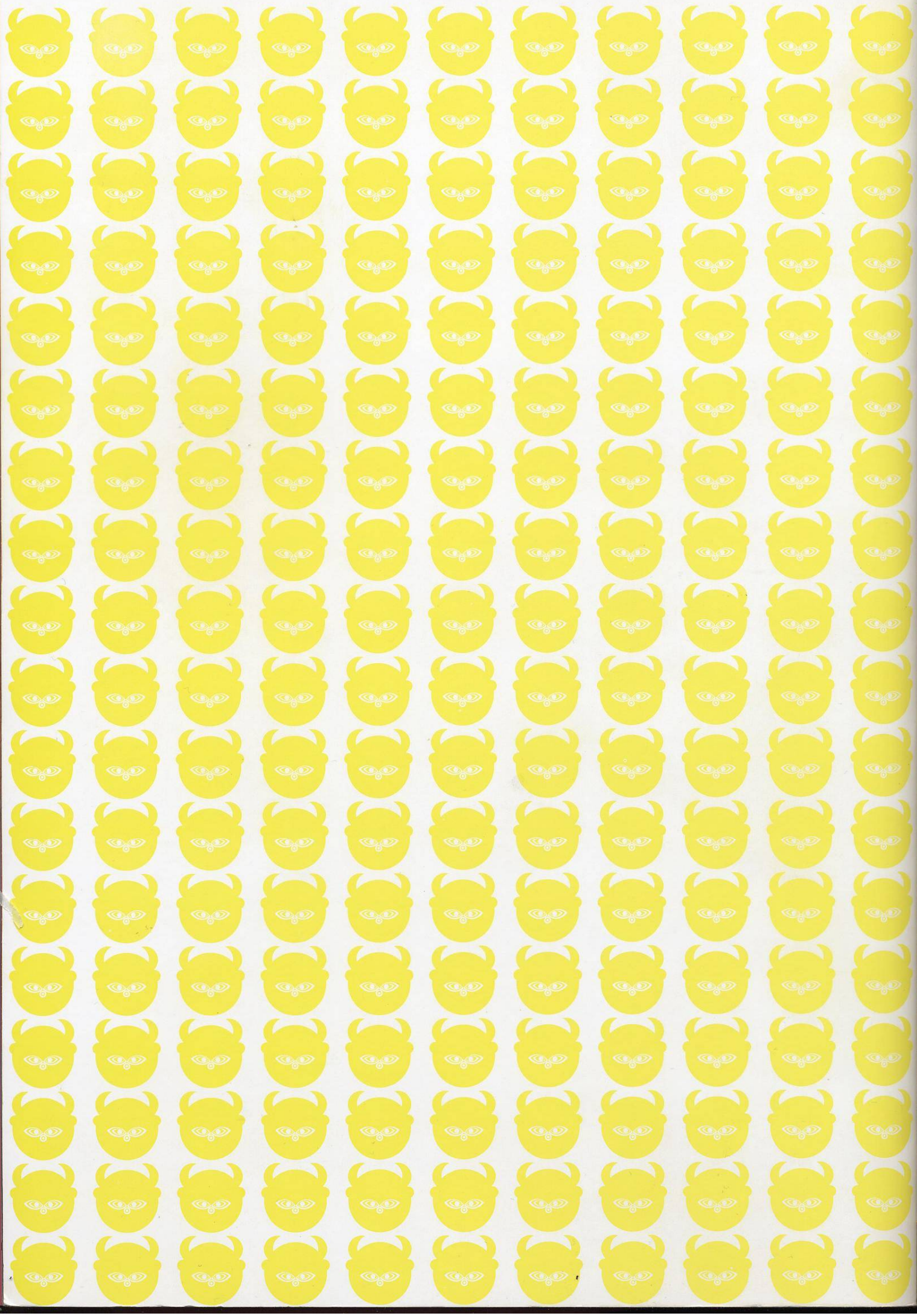
8-4-17 Ginza, Chuo-ku,Tokyo 104-8001,Japan

Printed in Japan by Kousaido Co.,Ltd.

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or used in any form or by any means - graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or information storage and retrieval systems - without written permission of the publishers.

All rights to the artwork in this publication are retained by the artists.

●The suggested price is printed in the cover.
ISBN 4-88991-655-5 C0076
1998, Printed in Japan



ISBN4-88991-655-5

C0076 ¥1800E

MEDIA FACTORY メディアファクトリー

定価 本体1800円+税